

未来の担い手たちのために

学校と地域は出会い、手を取り合う

キャリア教育 ガイドブック

Career Education
Guidebook
—How to Practice—

実践
編

経済産業省

【発行・編集】
経済産業省

【制作】
地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト事務局
NPO法人 アスクネット

【協力】
28地域の民間コーディネーター

キャリア教育

ガイドブック 実践編

Career Education Guidebook



第1章 地域と協力するキャリア教育とは？

なぜ、いま、キャリア教育なのか？

子どもたちが出て行く社会は、いまどうなっているのか？

学校・産業界・地域による一体的なキャリア教育の推進

特徴① 地域や子どもの実情にあわせた目標を作り共有する

・ 独自で実態調査を行い「育てたい力」を検証してからカリキュラムづくり

・ 子どもの「なんで？なんで？」の能力を最大限に引き出す

特徴② 体系的・効果的なカリキュラムの構築

・ 「人生は『選択の連続』」と学ぶ事前学習と見えにくい仕事も知る感動の取材活動（福岡県福岡市）

・ 体験型プログラムで学ぶ再チャレンジの大切さ（大阪府和泉市）

特徴③ 地域資源の協力による授業実施

・ 「新たな名物づくり」をテーマに地域活性&キャリア教育（愛媛県大洲市）

・ 歴史ある「栗の都」富山を子どもたちに伝える（富山県富山市）

● 参考資料 「社会人基礎力」

08 10 12 14 16 18 20



第2章 キャリア教育をプランニングする

さあはじめましょう！キャリア教育を計画する

地域の子どもの実情にあわせ学習目標を話しあい共有しましょう

おおまかなカリキュラム案をつくりましょう

地域の資源（ヒト・モノ・コト）を教育資源化しましょう

実践事例① 教科の授業を活用する

・ 勉強と仕事がつながれば、理科の授業が面白くなる！

・ 授業の内容と世の中が繋がった！

実践事例② 既存の学校イベントを活用する

・ 身近な企業を題材に産業のしくみを学ぶ

・ 修学旅行を晴れの舞台に小樽の魅力を伝える！

実践事例③ ゲーム・ワークショップを組み込む

・ 自分の未来の夢を描いてみよう！

・ お買い物ゲームでお金の意味を実感！

実践事例④ 外部講師を校内に呼ぶ

・ アニメのプロたちと大好きなアニメーションを制作！

・ 自分だけのロボットを作り合同大会で優勝を競う

実践事例⑤ 校外学習を積極的に取り入れる

・ 店舗実習を活かして、わが町の名物菓子をつくろう！

・ 県外の友だちと自分の地域の良い所を紹介しあおう！

物語編七つのカリキュラムを分解してみると…

● 参考資料 「職業的（進路）発達にかかわる諸能力」

22 24 26 28 30 32 34 36 38 40 42



キャリア教育

ガイドブック 実践編

Career Education Guidebook



第3章 キャリア教育を実践する

体験への興味・関心を高める

「事前学習」効果的な実践のポイント

体験からの学びを深める

「体験学習」効果的な実践のポイント

・全学年で取り組む！「ユーザー視点のものづくり」

(長野県諏訪市)

体験のふりかえり、記憶の定着

「事後学習」効果的な実践のポイント

・テレビの向こうの友達に、工夫を凝らしておしごと紹介！

(茨城県つくば市)

●参考資料 PISA型学力とキャリア教育

44

第4章 キャリア教育を地域に根づかせていくために

キャリア教育を改善し、継続していく

効果的な広報で協力者を増やす

社会・地域・企業との継続的なネットワークを作りますよ

・独自の資格認定で学校の取り組みを後押し

(静岡県)

・保護者やボランティアなどの地域人材を積極的に活用

(広島県三次市)

・市民が手と手を取り合い、「自分づくりの教育」の拡大をめざす

(宮城県仙台市)

企業にも教育ネットワークに関わってもらいましょう

・企業が教育ネットワークに参加している事例

46

●参考資料 ひと足早くキャリア教育を経験した僕から、
いまから始めようとする先生方へ

48



第5章 民間コーディネーターという存在

教員を支援する民間コーディネーターという存在

民間コーディネーターはこんな活動をしてきました

学校側から見た民間コーディネーター

70

第6章 資料編

(参考)全国二十八地域で実践されたキャリア教育についての意識調査

72

(参考)ふりかえりのアンケート

・十九年度 調査のお願い(小学校・児童用)

・十九年度 調査のお願い(保護者用)

三年間の民間コーディネーターの実績

79

●参考文献・出典

91



第1章

地域と協力する キャリア教育とは？



『シゴト シゴト』
シゴトって何？

何のため？

強制なの？

どんなシゴトがあるの？

—小さな頭でいろいろ考えた

そしたら私の脳みそは
からまった毛糸のように
グチャグチャになった



—自分に合ったシゴトがしたいな

でもどうやって探すの？



—じゃあ私の好きなことはなんだろう

歌うことが好きだな

—じゃあそれをシゴトにすればいいよ

そううまくいくのかな？

—もっと考えてみた

そしたら余計に混乱した
私の脳みそは
釣竿についている
からまったテグスのように
グチャグチャになった



—じゃあまずは始めてみたら？

うーん…何から手をつけたらいいのかな？

—まずは体験してみなよ

そうだね…まずはシゴトに触れてみよう



—私の頭の中でからまっていた糸は

少しずつ…少しずつ…

ほどけていった…



(中学生の仕事体験記「jobjob」制作カリキュラムを体験した東京都北区立赤羽中学校2年生の生徒の声より)



なぜ、いま、キャリア教育なのか？

若者にとって 学校から職場への移行が 大きな課題に

近年、ニート・フリーターの増大や、いわゆる「七五三」問題（中卒の七割、高卒の五割、大卒の三割の人が就職してから三年以内に最初に勤めた会社を辞めてしまうという問題）と呼ばれる若者の早期離職の加速など、「学校から職場への円滑な移行」が大きな問題となつてきています。

その背景には、現代の若者が職場や社会に入る前段階において、自分の能力についての理解、あるいは社会と自分との関わり、将来に対する目標などを見失う傾向にあることも大きく影響していると考えられます。

また、企業を取り巻く環境や生活環境の変化により、子どもたち

の生活・意識が変容してきていることなど、極めて広範な要因が存在しているとも考えられます。

このような背景の下で、将来の我が国を支える子どもたちに対して、職業人としての資質や能力を高め、働くことだけでなく、「働くこと」への関心・意欲の高揚を通じた学習意欲の向上を図ることや、自己と他者や社会との適切な関係を構築する力や自立意識を養うことを通じて、豊かな人間性等の「生きる力」を育てていくことが強く求められているのです。

将来を支える子どもたちに 「働くことの意味」を 見つめさせたい

「キャリア教育」という言葉は、平成十一年の中央教育審議会発申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」の中で、はじめて

登場し、その中で、小学校段階からの発達段階に応じたキャリア教育の推進が提唱されました。平成十六年にまとめられた「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」においては、

キャリア教育の定義を、「『キャリア』概念に基づき、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえ、端的には、「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」としています。

政府全体としても、「若者自立・挑戦プラン（平成十五年六月）」等に基づき、関係省庁連携の下でキャリア教育の取組を進めてきました。平成十八年十二月には、内閣府特命担当大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣を構成員

とする「キャリア教育等推進会議」が発足し、「キャリア教育等推進プラン（平成十九年五月）」が策定されるなど、キャリア教育の推進に向けて、政府一丸となった取組が進められています。

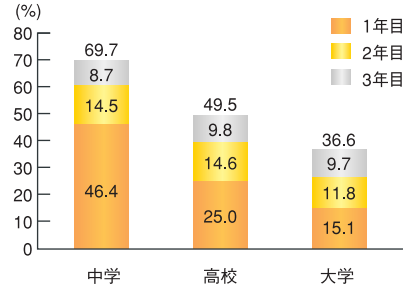
これらの動きを受けて、既に学校現場では、さまざまなキャリア教育が行われており、地域にあるさまざまな教育資源を活用した取り組みが進められています。

地域や産業界にとっても、キャリア教育はいまや大きな関心のひとつとなっています。多くの子どもや若者に、地域の産業や職業に対する関心や知識を持つてもらうことは、次世代の地域産業の担い手の確保はもちろんのこと、現在の地域を担う世代にとっても、地域の魅力の再発見につながるなど、将来にわたる地域の豊かな発展を実現するためにも重要なことなのです。

● 新規学卒就職者の在職期間別離職率（平成16年度）

中学、高校、大学の卒業後、3年以内に離職する割合は、それぞれ約7割、約5割、約3割。

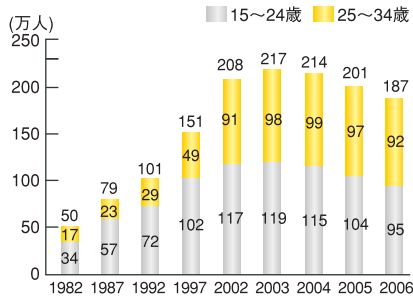
（注）この離職率は厚生労働省が管理している雇用保険被保険者の記録を基に算出したものであり、新規に被保険者資格を取得した年月日と生年月日により各学歴に区分している。



● フリーター数の推移

フリーター数は2003年をピークに現在は減少傾向にあるが、1982年と比べると3.5倍となっている。
※「フリーター」とは「15～34歳の男性又は未婚の女性で、パート・アルバイトして働く者又はこれを希望する者」のことをいいます。

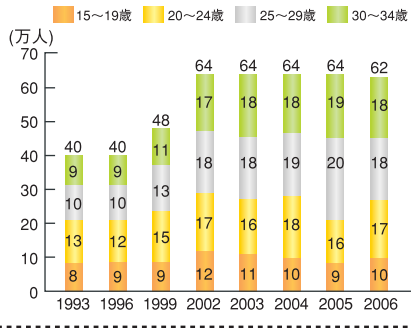
（資料出所） 総務省統計局「就業構造基本調査」
労働省政策調査部で特別集計（～1997年）
総務省統計局「労働力調査詳細集計」（2002年～）



● ニート状態の若者の推移

ニートの状態にある若者は、10年間で40万人から62万人に増加しています。
※「ニート(NEET)」とはNot in Education, Employment or Training（就学、就労、職業訓練のいずれも行っていない若者）の略で、元々はイギリスの労働政策において出てきた用語。日本では「若者無業者＝15～34歳の非労働力人口のうち通学、家事を行っていない者」と定義しています。

（資料出所） 総務省統計局「労働力調査」



● キャリア教育等推進プランについて

平成18年12月～ 青少年育成推進本部（本部長：内閣総理大臣、全閣僚で構成）の下にキャリア教育等推進会議を設置（構成員：高市内閣府匿名担当大臣（主宰）、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣）

キャリア教育等の意義

- 青少年にとって 各人の個性・特性を見極め、将来の進路と日々の教育活動の意義とを結びつけ、社会的自立に向けた力をはぐくんでいくもの
- 学校にとって 産業界や地域社会との対話を促し、教育課程編成の改善・見直し、産学連携教育の一層の推進に資するもの
- 企業等にとって 若者の就業に対する理解促進、実践的な能力を備えた人材の育成に寄与。地場産業が受入先となることにより、地域への愛情をはぐくみ、地場産業や地域工芸等に対する理解促進・継承に資するもの
- 我が国全体として 少子高齢化による労働力人口の低下を補う労働生産性の向上に寄与し、活力ある経済社会の発展に資するもの。また、結婚には経済的基盤や就業等についての将来の見通し・安定性が大きな影響を与えていることから、少子化対策にも資するもの

（キャリア教育等推進プランの概要より抜粋）

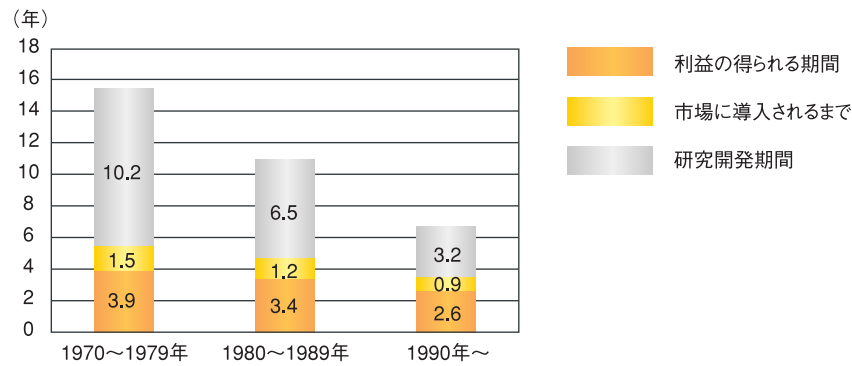
子どもたちが出て行く社会は、 いまどうなっているのか？

成功モデルをまねるのでなく
新しい価値が生まれる
人材が求められています

高度経済成長時代には、企業は「既存の成功モデル」を踏襲していくことで成長することができました。しかし九十年代以降は、大手企業・老舗企業の倒産など、ショックなことが次々と起こりました。新商品開発のサイクルも年々短くなる傾向にあり、いまや企業が発展していくためには、「新しい価値の創出」が必要な時代なのです。

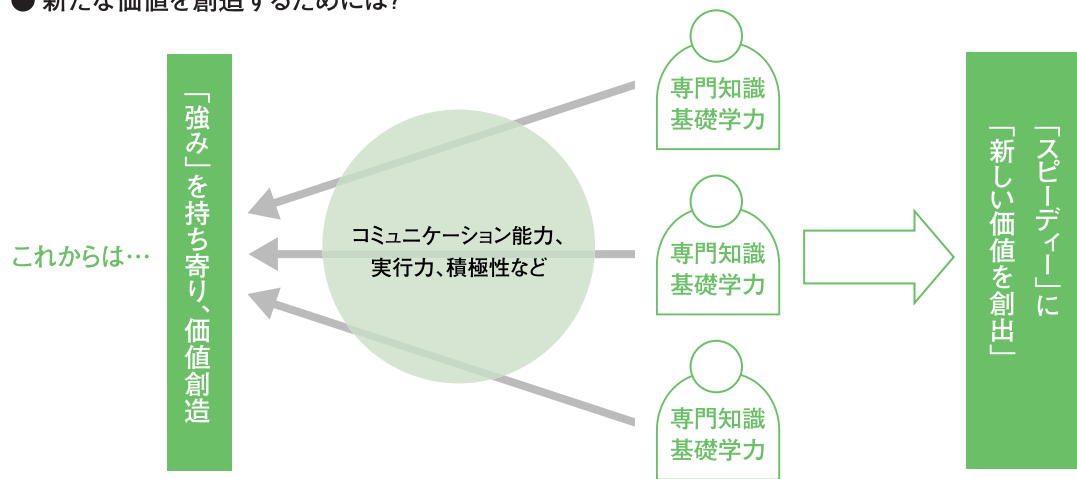
そんな時代の変化に伴い、企業で活躍できる人材も変わってきました。「既存の成功モデルをそのまま追いかける」だけでなく、「新しい価値創出に向けた課題の発見」「関係者からのアイデア収集」「実現のための試行錯誤」ができる人

● 新製品開発の短サイクル化

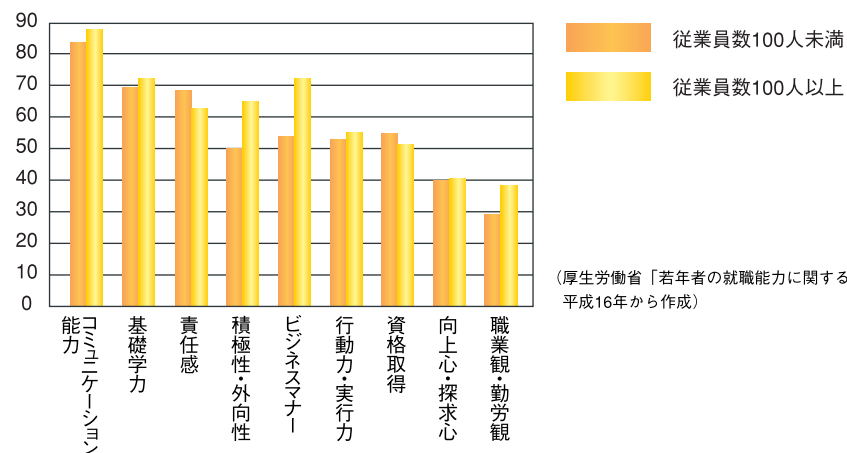


(出典) 旧科学技術庁科学技術政策研究所「研究開発関連政策が及ぼす経済効果の定量的評価方法に関する調査」(1999年)

● 新たな価値を創造するためには？



● 企業が採用時に重視する能力



(厚生労働省「若年者の就職能力に関する実態調査」平成16年から作成)

が活躍する時代です。何も考えずに従来ルールを守る人材よりも、おかしなルールは作り直そうとする人材を重用する企業も少なくありません。

また多様な人々との協働により、課題解決の糸口を探すような活動、すなわちチームワークが求められる度合いも高まっています。それも「社内のいつもの仲間」とだけではなく、時にはプロジェクトごとに、文化が異なる他社の仲間と協働できる力が求められています。

IT化の進展と雇用の多様化により

高い能力が求められる若手

一昔前であれば、新人の仕事はコピー取りからでした。一枚一枚コピーを取り、これらを揃えて資料としてまとめ、関係者に配布するという作業が正確にできれば、

これもひとつの成果として認められたのです。そして、ある程度の時間をかけて、仕事の流れや業務知識を獲得し、徐々に難しい仕事に進んでいく。新人にはゆとりと育つ余裕が与えられていました。

しかし、IT化の進展に伴い、職場における単純な作業は機械化されました。例えば単純なコピー作業はすべて機械が自動で行ってくれます。資料配布はメール一本で終わってしまいます。人の手が必要な単純作業があったとしても、雇用の多様化が進んでいる今では、そうした仕事はアルバイトや派遣社員に任せられます。

こうして正社員で入社した新人は、その直後からいきなり資料作成など業務知識を要する高度な仕事に携わるようになってきているのです。こうした背景により、企業が採用時に重視する能力としては、コ

ミュニケーション能力や積極性、実行力などが上位にあげられるようになりました。

つまり企業が少数精鋭化し、グローバル社会の中で競争が激化している今、従来よりも知識だけではない「人としてのチカラ」が求められているのです。

学校・産業界・地域による 一体的なキャリア教育の推進

地域自律・民間活用型 キャリア教育 プロジェクト

経済産業省では、平成十七年度から三年間、子どもたちに対して、ものづくり等を通して働くことの面白さの体験・理解を促し、職業観の醸成を図るため、「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」を実施してきました。地域に密着したキャリア教育を推進していくためには多くの課題があります。

まず第一に、学校の先生は非常に多忙であること。特に日中は、授業だけでなくお昼休みや部活動の時間でさえも、児童・生徒との関わりが必要になるため、企業や地域へアプローチすることは容易ではありません。

第二に、企業は学校のこと

からないこと。近年では、地域貢献やCSRの観点から、学校教育等への協力を積極的に行いたいと考えているのですが、そのやり方や先生・学校が何を求めているのかを知る機会がないのです。同様に、学校の側も企業の考えを知る機会

は多くないのが実情です。これらの課題に対応し、子どもたちだけでなく、親、学校、産業界等の地域の関係者すべてが一体となってキャリア教育に参加していくためには、これらの関係者をつなぐ「架け橋」的な存在が必要です。

経済産業省では、この「架け橋」的な存在を「民間コーディネーター」として支援することを通じて、地域関係者間で「顔の見えるネットワーク」を構築するとともに、民間のアイデアを活かして、一過性ではない「体系的・効果的なプロ

ラム」を作成・実施するキャリア教育の取り組みを推進してきました。それが、この「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」なのです。

平成十九年度は 全国二十八地域で モデル事業を実施

経済産業省では、平成二十年度以降、地域で自立的かつ継続的にキャリア教育が実施されることを目指し、平成十九年度は、全国二十八のNPO法人や企業等を「民間コーディネーター」として選定し、モデル事業を展開してきました。

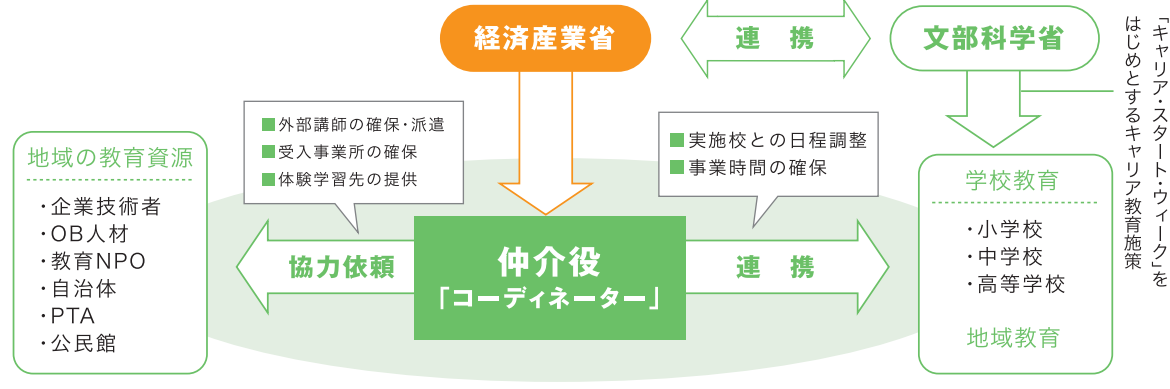
この三年間で、この「民間コーディネーター」が有する独自のノウハウ・アイデアを有効に活用した様々なキャリア教育が実施されてきました。それぞれの地域で

コラム

漁師が山に登って木を植える理由

15年ほど前から、海の漁師が山に登り、木を植える運動が全国で再び活発化しています。漁師がなぜ、山に登って木を植えるのでしょうか。漁師達は江戸時代より、長年の勤から海と山が繋がっていたことを知っており漁師の植林も盛んでした。木はやがて豊かな森になり、豊かな森は豊かな水を蓄え、豊かな水は豊かな川を育み、豊かな川は豊かな海を育む。漁師が何十年も先に漁を続けていくために、豊かな森づくりに取り組むということなのです。木を植えた効果が見えるのは50年後かもしれないけれども、漁師という仕事を続けていくために大事なことは長期的に取り組むということです。経済産業省や企業が教育に関わる理由も同じ視点にたっていると云えます。

は、地域一体となって教育に参画していく機運が着実に根つき始めています。



〈平成19年度実施地域・団体〉

- 北海道札幌市 (キャリアバンク(株))
Sapporo夢探究プロジェクト
- 北海道小樽市 (NPO法人北海道職人義塾中学校)
小樽市の産業資産を活用したキャリア教育事業
- 岩手県盛岡市、等 (NPO法人未来図書館)
イーハトーブ・ルネッサンス
～企業戦略体験型職業観創生プロジェクト～
- 秋田県大館市 (NPO法人ひととくらしまち大館ネットワーク)
おおだて子ども未来づくりプロジェクト
- 宮城県仙台市 (ハリウコミュニケーションズ(株))
学社融合型キャリア教育プログラム
- 茨城県つくば市 ((有)つくばインキュベーションラボ)
つくば市キャリアバスポート事業
- 東京都23区 ((株)ソシオエンジン・アソシエイツ)
情報コミュニケーション産業人材育成のための中学生向け
教育プログラム“Communication Pro School (GPS)”
- 東京都三鷹市 (NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構)
アニメーション・コンテンツ産業を素材とした、小・中学生向け
キャリア教育プログラム「クリエイティブ・キャリア・プログラム」
- 千葉県 (NPO法人企業教育研究会)
企業と組み立てるキャリア教育
～地域産業・研究機関との協働～プロジェクト
- 長野県諏訪市 (エプソンインテリジェンス(株))
諏訪版キャリア教育「ユーザー視点のものづくり」
- 長野県長野市 (NPO法人キャリア・起業家教育学会)
地域ブランドビジネスから日本経済・世界経済を見る・知る・考える
- 静岡県伊豆市、等 ((財)静岡県生涯学習振興財団)
全県普及・人材育成型 しずおかプロジェクト
- 愛知県瀬戸市 (瀬戸商工会議所)
瀬戸まるっとキャリア教育～せとがまるっとセンセイになるとき～
- 岐阜県羽島市 (羽島商工会議所)
小中高一貫型キャリア教育推進事業
- 富山県富山市 ((社)富山県経営者協会)
キッズわくわくワーク塾～現代の売薬さんになってみよう!～
- 京都府京都市 ((財)京都高度技術研究所)
『伝統と先進の共生』プロフェッショナル探究型キャリア教育
- 和歌山県田辺市 (オフィスメイト(株))
紀州『ほんまもん仕事人』育成プログラム
- 大阪府大阪市 (NPO法人日本教育開発協会(JAE))
ドリカムスクール～Academic～
- 大阪府堺市 (NPO法人南大阪地域大学コンソーシアム)
ものづくりのまち堺から発信する「こんなモノ欲しかった!」
- 大阪府和泉市 ((有)マイタイ)
『伝説が生んだ商品!歴史の町からいずみっこ』プロジェクト
- 兵庫県明石市、等 ((株)キャリアリンク)
産業界をテーマにしたプロジェクト型学習モデルプラン構築事業
- 広島県三次市 ((株)ウィル・シード)
学校現場と三次市産業界の連携を基盤とした
全小学校・中学校実施による体系的キャリア教育
- 愛媛県大洲市 (NPO法人ベンチャー・アライアンス協会)
大洲「ひと」「もの」「まち」づくり地域一体型キャリア教育プロジェクト
- 福岡県福岡市、粕屋郡 (NPO法人男女・子育て環境改善研究所)
知りたいを形にする「中学生・高校生の視点から
企画・取材・編集する職業ガイドブックづくり」事業
- 福岡県飯塚市 (レベルアップ(株))
産学協働による「菓子づくり」と「IT」を活用した
『ものづくり教育』実践プロジェクト
- 佐賀県佐賀市、等 (NPO法人鳳雛塾)
ケースメソッドを活用した一貫型ビジネス
人材育成キャリア教育事業(佐賀モデル)
- 沖縄県那覇市 ((有)オーシャン・トゥエンティワン)
コストゼロを可能にする「なんで科コミュニケーション」と
『ストーリーテリング』を基礎にした沖縄型カリキュラム
- 沖縄県名護市 (NPO法人金融知力普及協会)
やんばる夢発見プロジェクト

地域の産学連携によるキャリア教育 特徴①

地域や子どもの実情にあわせた目標を作り共有する

**目標設定・共有により
プロセスのあり方と
結果が明確になる**

地域の産学連携によるキャリア教育を円滑に行うためには、その教育によって「どんなチカラを育てたいのか」などの今回の取り組み

みにおける目標の設定と共有化が大切です。

経済産業省では職場や地域社会で活躍するために必要な能力を「社会人基礎力（P20参照）」と名付け三つの能力・十二の要素に整理しました。「誰にでもわかりやすいこと」と「育成や評価の目標と

なる具体性があること」という点を重視して能力を整理しています。

あるいは国立教育政策研究所生徒指導研究センターでも「職業的（進路）発達にかかわる諸能力（P42参照）」として四つの領域と八つの能力に整理しています。

これらをヒントに、その地域の

子どもたちの実情を複数の大人の目で把握し、どんな風に育ってほしいのかという将来像を共有することにより、キャリア教育のプロセスでもブレがなくなり、終了後には成果がより明確になると考えられています。

独自で実態調査を行い「育てたい力」を検証してからカリキュラムづくり

京都府京都市では京都市教育委員会の協力のもと、財団法人京都高度技術研究所が民間コーディネーターとして「伝統と先進の共生」プロジェクト「フェシヨナル探究型キャリア教育」を行った。



染色技術は高機能印刷技術を生み出し、液晶テレビなどの製造に欠かせない技術となった。「友禅流し」を工場内の「川」で見つめる子どもたち。

現状やキャリア教育に対する社会的要請にこたえる意味から、十七年度

に市内の小学三年生、六年生、中学三年生計三千人を対象に、子どもたちの「生き方」についての実態調査を実施し、「生きる力」と「職業観・勤労観」の関係を調べた。その結果、小学校から中学校へと学年が進行するとともに「人間関係形成能力」「将来設計能力」「意志決定能力」が上がり、キャリア教育の目指す「自己実現に向けた力」がつきにくくなっているという課題が見えてきた。

こうした調査結果を基に京都では四領域の他に「社会参画能力（社会で共に生きるチカラ）」を新たに設け、「共生と自立を柱とした五つの領域と十七の力」を策定。子どもたちの発達課題を、より細かくわかりやすくすることで「育てたい力」を

つけることができると示した。

この方針の下、京都市立の各学校では「キャリア教育で育てたい力」を明確化し、学校の立地条件（地域性）にあわせて「伝統と先進・先端技術」「観光と産業」のいずれかのテーマを選んでそれぞれオリジナルのカリキュラムを開発し実施していった。「セラミックスのヒミツ（窯業から半導体産業まで）」「しあわせのデザイン（ユニバーサルデザインとセンシング技術）」「高機能塗料を使った商品開発と販売」「コミュニケーション新聞の発行」「観光ラジオ番組放送局」など、中小企業から大企業まで多彩な産業界からの協力を得ながらキャリア教育を進めている。

育てたい力を明確にすることにより、子どもの変容・変化を追う視点も明確になり、通知簿の評価項目との関連付けや教職員の研究活動に取り入れられるなど、学校ごとに取り組みを深めつつある。

またキャリア教育のあり方を決めることは、すべての教科・教育活動を考察・再編し、さらに幼稚園から高校までの長期間にわたる子どもの学びと成長を見通すことである、という姿勢で発展しつつある。



伝統的な京焼・清水焼産業の歴史とものづくりベンチャーの精神がファインセラミックスとなってロボットに集約されている。中小企業と大企業両方で働く多くの大人と出会うことで「伝統と先進」を実感できる。

子どもの「なんで？なんで？」の能力を最大限に引き出す

沖縄県那覇市では、修学旅行や自然教室などの学校行事を利用してキャリア教育を行っている。たとえば那覇市立銘苅小学校では、六年生が修学旅行の自然体験学習（製塩体験）を活用しながら、製造から販売までの流通の仕組みを体験できる体系的

なカリキュラムを実施。

事前学習として、修学旅行の前に「社会のしくみ」を学び、その知識をベースに修学旅行で「塩作り」を体験。修学旅行後は、地元デパートで塩の販売を実施。塩作りの苦勞を知っているだけに販売体験に対する

思いも、一段と深いものになったようにうた。



修学旅行で「塩作り」を体験する子どもたち。実際に海水をくみ上げ、機械で濃縮し、脱水、天日干しといった一連の作業を行った。

子どもたちが自発的に動くチカラを育むためには、「なんでか？」という視点でさまざまなことに興味関心を持たせること。そこで社会の物事に関心をもつ仕掛けとして「なんで科」という手法を一連のカリキュラムに盛り込んだ。

またもうひとつの目標は、子どもが大人になるまでの道のりをイメージできる素材を渡すこと。これには「ストーリーテリング」という手法を使い、「どのような時にどのような判断をして、今の結果（職業）になったのか。そして、その結果を今どう思っているか」というポイントで話を聞いていくことで、自分が大人になるまでの道のりをイメージしていく。その結果、生徒たちは今の大切さに気付く。

このふたつの視点やプログラムは、体系的なカリキュラム実施時にも使用できるだけでなく、教科学習などにも利用できる。それに気づいた学校がすでに独自の取り組みをはじめている例もあるという。



販路会社を設立し、自分たちのデザインしたパッケージで塩を販売。実際にお客さんと接し、仕事の厳しさや楽しさを実感した。

地域の産学連携によるキャリア教育 特徴②

体系的・効果的なカリキュラムの構築

単なるイベントでは
終わらない
カリキュラムづくり

今回の「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」では、体系的・効果的なカリキュラムの実

施を重要視してきました。ものづくりや仕事の疑似体験、地域の方々と触れあうなど核となる「体験学習」が中心となり、「事前学習」で取り組みの目的や意義をわかりやすく教えると共に、体験学習の動機付けを行います。「事

後学習」ではまとめ発表などを行い、体験を通して学んだことについてふりかえりを行います。これらのカリキュラムは子どもたちの日々の生活や実情をよく知る教員と、地域資源をよく知るコーディネーターとが情報交換しながら、

発達段階に応じた内容で組み立てていきました。このような「事前・体験・事後」をセットにした体系的・効果的なカリキュラムによって楽しかったイベントで終わらず、より深い学びにつながるものと考えられます。

「人生は『選択の連続』」と学ぶ事前学習と見えにくい仕事も知る感動の取材活動

福岡県福岡市のモデル校では、小・中・高校生が「職業ガイドブック」を作成することをテーマに学習を実施した。企業を取材し、執筆者となる活動を通して、職業観の醸成やコミュニケーション力、情報収集力、表現力などを育成するカリキュラムを民間コーディネーターである



企画会議・編集会議では、取材項目や誌面の作り方についてみんなで意見を出し合い、ディスカッションしながら進めていく。

NPO法人男女・子育て環境改善研

究所が中心となって作成。取材する職種は、料理人や医師などすぐに思い浮かぶ仕事から、防災センターなどの安全対策やTV局の制作など裏方の仕事まで多岐にわたる。子どもたちに「世の中にはいろいろな仕事がある」という職種の多様性、その多様な仕事が有機的につながって社会を支えているということを教えることも目的のひとつにある。

「事前学習」では、まずは生徒たちに「人生MAP」を作らせる。その上で「ひとり暮らしのためには二〇万円必要」を前提に、それだけ稼ぐためには、とシミュレーションさせる。M社で時給七五〇円のアルバイトだと三十一日、正社員なら…。働く形態によって収入が違うことがわかると、最初は軽い気持ちで「将来フリーターになる」と言っていた子どもも真剣に将来を考えだし「仕事」

事前学習	1.人生MAP 2.世の中のこと・会社のこと
体験学習	3.ガイドブック作りの流れを知ろう 4.企画会議・編集会議をやろう 5.ガイドブックのタイトルを決めよう 6.紹介したい取材先を決めよう 7.取材先を事前調査しよう 8.取材項目を決めよう 9.誌面をイメージしてみよう 10.取材の質問づくり 11.メモのとり方 12.必要な写真を考えよう 13.名刺を作ろう 14.取材に行こう 15.原稿を書こう 16.校正をしよう 17.職業取材記事が完成! 18.編集部体験!編集記事を作ろう(高) 19.本の収支を考えてみよう 20.広告戦略を立ててみよう(高) 21.広告営業をやってみよう(高) 22.発表会の練習 23.発表会 24.ふりかえり
事後学習	

※(高)…高等学校のみのプログラム

への関心も高まる。その上で、その厳しい社会で働いている人の取材をするわけだが、インタビュースト

「決して大人はお金だけのために働いていない」ことをそこで知る。

また「体験学習」では、職業ガイドブックづくりという仕事の疑似体験を通して「仕事の楽しさや面白さ」を実感。その後、原稿書きの仕事体験へと入っていく。何度も書き直すことで、真に伝えたいことを発見する。「事後学習」では、取材内容や働く人の気持ちなど、取材先で見えて聞いて感じたことを発表し合う。

取り組む時間は学校に異なりより、十数時間で終了する学校もあれば、一年間で四十時間程度かけてじっくり取り組む学校もある。十五〜二十五時間程度がひとつの目安となるが、取材の項目決めや原稿の予備練習などを簡略化することも可能なカリキュラムである。

体験型プログラムで学ぶ再チャレンジの大切さ

大阪府和泉市では、民間コーディネーターである有限会社マイトイの協力のもと、子どもたちが市の産業や伝統に愛着をもち、将来の地域社会の担い手となってくれるよう小学校を対象にキャリア教育を行っている。

小学校で行われている「とびだせ!



市場調査をふまえ、アイデアをしぼって売れる商品を考案。品評会では地域の専門家に自分の開発した商品に対する熱い思いを伝えた。

がってん」カリキュラムは、市場調査から商品開発を行い一般消費者に向けて販売するプロセスを体験。一般的な企業で行われる一連の活動の疑似体験である。「事前学習」で働くことや仕事について話し合った後は、地域に飛び出す「体験学習」。大きく分けると「体験学習」の活動のポイントには以下の四つ。情報を収集してニーズを探ること、ニーズにあった商品を企画・製作すること、地域企業に指導と評価を受けて商品を決めること、模擬会社を立ち上げて宣伝・販売すること。こうした活動を通して、地元の産業や仕事への認識を深め、働くことに対する意識を高めることをねらいとしている。

市場調査では、販売する場所に出

かけ、知らない人に声をかけてアンケートを実施。そっけない対応をされても何度も何度もチャレンジする子の姿も見られる。またアンケート結果をもとに商品開発に取り組むが、どんなに自分ではうまくできたと思っても採用される商品はひとつだけ。自分たちが考えた企画が採用されないことをずっと引きずり続けてしまいう子もいるが、販売体験でお客様の「ありがとう」の一言に自信を取り戻す姿も見られたという。多様な活動があるからこそその成果でもあるようだ。「事後学習」では、活動を通じて見えてきた自分の適性・志向についてふりかえり、どんな仕事に活かせるかを考える。

「とびだせ!がってん」カリキュラム

事前学習	仕事するってどんなこと 働くことの意義を考えるきっかけづくりをする。
体験学習	市場調査 一般消費者に向けたアンケートを地元スーパーマーケットなどで行い、お客様のニーズを探る。 分析を踏まえた商品開発 アイデアを出し合い、商品開発に取り組む。 商品評価会 地域の専門家の指導と評価を受け、売れる商品づくりに取り組む。 販売企画検討 販売個数と価格を子どもたちが決定。出資を募り、模擬株式会社を立ち上げる。 宣伝評価会～販売活動 ポスター貼り、チラン配りに取り組み、一般消費者に向けて販売までを計画・実行。
事後学習	プロジェクトを終えて 自分の得意をいかす仕事について、この体験を踏まえてふりかえりながら考えます。

地域の産学連携によるキャリア教育 特徴③

地域資源の協力による授業実施

地域ネットワークを 活用した 校内・校外での学習

産学連携によるキャリア教育には、地域の協力が不可欠です。地元産業界や教育委員会、自治体、PTAなどの地域の関係者が「地域の子どもたちをみんなで育

てよう」と、キャリア教育の旗印の下でつながることにより、従来の学校だけでは困難だった効果的なキャリア教育が実現できるので

場合と、主に単一の学校が主体となり地域に協力してもらって実施する場合などが想定できます。どちらにしても地域の方々や伝統産業、お祭りなどの「ヒト・モノ・コト」が、キャリア教育を実現していく上では重要な「地域（教育資源）」だと考えられます。特に地域への関心を高めるには、地場産

業に従事する方々などの協力は重要です。また「体験学習」を実施する際には地域ボランティア（保護者、大学生、サポーター、OB人材など）の協力も有効です。学内だけでなく、地域にネットワークを広げることで、幅広い学習が可能となります。

「新たな名物づくり」をテーマに 地域活性&キャリア教育

愛媛県大洲市は観光地として知られているが、過疎化が懸念されている地域でもある。そこで、地域活性化の意図も含め、地元の行政・教育界・産業界が一体となり、市内の三つの小学校でキャリア教育が行われることとなった。子どもたちの地域理解や職業観・勤労

観の育成とともに、子どもたちによる「新たな地元名物づくり」もひとつの狙いとなった。小学五年生を対象に地域の特性や特産品を活かした「お菓子の企画」をテーマに、お菓子づくり体験やオリジナルのお菓子を考案するカリキュラムを



「大洲らしさって何?」。地域の歴史や特産品について、大洲に詳しい外部講師を招いて授業が行われた。

実施。民間コーディネーターであるNPO法人ベンチャー・アライアンス協会を中心に、地元のお菓子製造業者、経営者、ケーブルTVなどさまざまな地域資源のネットワークによって支えられている。

「お土産の持つ意味やターゲット」について説明してもらったり、会社見学、お菓子づくりの体験や企画審査を担当してもらったため、地元のお菓子製造業者や商店街などとの連携は欠かせない。教育に関わることは初めてであっても「地域の子どもたちのためなら」と協力してくれる方が多いという。各小学校では校内で企画発表会を行い、学校の代表チームを選出。その後、三校合同でお菓子の企画発表会を行い、ここで入選した企画を地元のお菓子製造業者が試作。最後に試食会を開催し、子どもたちの体験学習は終了する。

また地元の農業高等学校でもキャリア教育を行っているが、彼らの学習の環境でお菓子づくりを行う小学生の授業に協力。サブ講師として「地元農産物の紹介」をしたり、「お菓子の企画」の際には「一緒にアイデアを出す。高校生が小学生に教えることで学ぶ」という画期的な試みとなっている。

こうした活動は地元ケーブルTVで放映され、大洲のキャリア教育の認知度アップにつながっているという。



地元のプロのお菓子屋さんを招き、実際にお菓子づくりを体験。子どもたちは自分たちの企画を活かそうと講師の話に真剣に耳を傾ける。

歴史ある「薬の都」富山を 子どもたちに伝える

富山県富山市は約三百年にもわたって配置薬業が盛んな地域。富山の「売薬さん」が築いた資本や技術は、現在の県の産業発展の基礎となっている。このような歴史ある故郷を子どもたちに知ってもらおうと、地元の小学校では、地域資源の「薬」をテ

マにしたキャリア教育を実施。民間コーディネーター・社団法人富山県経営者協会の地元のコネクションを活かして、薬メーカーや新聞社、印刷会社などの協力を得て授業を行っている。子どもたちは事前授業で、基礎知



体験施設で石うすや薬研を使ってスパイスや入浴剤づくりに挑戦。昔ながらの薬づくりの道具に子どもたちは興味津々だった。

識を得るために売薬の歴史や手法を学び、薬草園や問屋、新聞社、博物館などの施設を見学する。体験学習では薬を使ったオリジナル商品を企画。五年生全員で地元の体験施設に行き、ハーブなどの薬草を混ぜた入浴剤や、香辛料作りにチャレンジ！普段使わない石うすがうまく使えず、何度も失敗する子どもたちも、次第にコツをつかみ、グループで協力し合って商品を完成させた。出来上がった商品は、学校行事やイベントで地域の人に販売。売薬さんや企業担当者には販売のコツを聞いたり、パッケージも色やデザインを考えたりと少しでも売れるように工夫。発表会ではグループごとに体験学習の取り組みについてふりかえった。「商品売るのにこんな準備が必要だとは思わなかった」「暑い日も寒い日も全国を飛び回る売薬の仕事を知ってびっくり。とても興味を持ちました」と一連のカリキュラムを通して、子どもたちは働くことや販売することの大変さを実感。以前より地元への関心も増したという。



自分たちが作った商品を地域の人に販売。大声を出してPRしたり、効果を詳しく説明したりと売れるよう工夫した。

第2章 キャリア教育を プランニングする

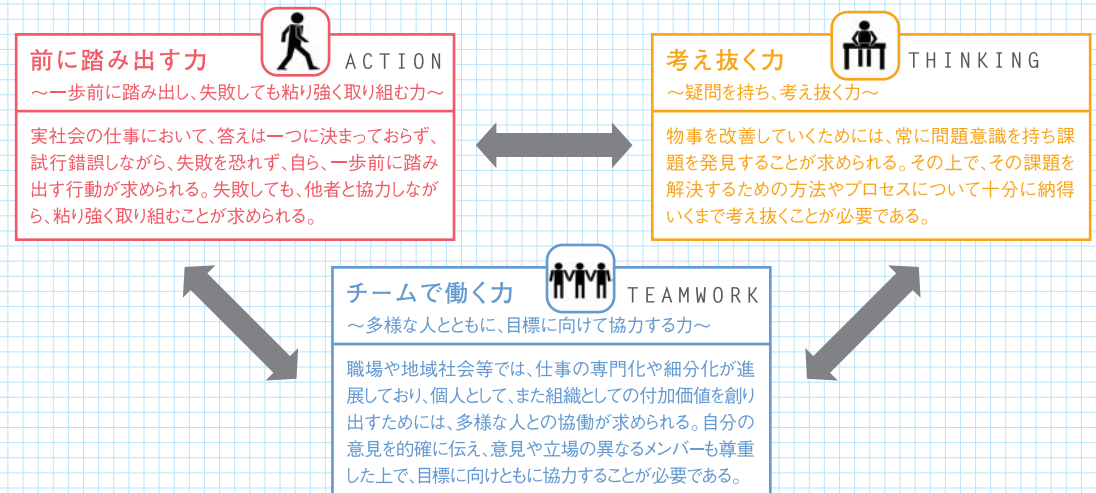


●● 参考資料 社会人基礎力



人は職場や地域社会で自分の能力を発揮し、豊かな人生を送りたいという意欲を持っています。
 「社会人基礎力に関する研究会」では、こうした願いを叶えるために職場や地域社会で仕事をしていくために必要な能力を「社会人基礎力」と名付け、3つの能力、12の要素に整理しました。
 近年のビジネス・教育環境の変化を踏まえつつ、幅広い関係者から共通の理解を得られるよう、わかりやすく、焦点を絞ったものであることを特に注意して作成されたものです。
 キャリア教育の「学習目標」を選択する場合のひとつの指針となります。

+ 社会人基礎力を構成する3つの能力 +



+ 社会人基礎力12の要素 +

分類	要素	内容	分類	要素	内容
前に踏み出す力 ACTION	主体性	物事に進んで取り組む力 例) 指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む。	チームで働く力 TEAMWORK	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力 例) 自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える。
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力 例) 「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていく。		傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力 例) 相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出す。
	実行力	目的を設定し確実に行動する力 例) 言われたことをやるだけでなく自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む。		柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力 例) 自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する。
考え抜く力 THINKING	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力 例) 目標に向かって、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する。	チームで働く力 TEAMWORK	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 例) チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する。
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 例) 課題の解決に向けた複数のプロセスを明確にし、「その中で最善のものは何か」を検討し、それに向けた準備をする。		規律性	社会のルールや人との約束を守る力 例) 状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律する。
	創造力	新しい価値を生み出す力 例) 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える。		ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力 例) ストレスを感じるがあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する。

(社会人基礎力に関する研究会「中間とりまとめ」2006)

さあはじめましょう！ キャリア教育を計画する

まずは全体の流れを把握した上での計画が大切です

キャリア教育を教員たったひとりで推進していくことは、大きな負担を伴います。数カ月にわたるプロジェクトを実践していくためには、準備段階での「体制づくり」と「目標の設定」が成功のカギを握ります。詳細なカリキュラムなどは、目標と地域資源の組み合わせの中で決めていくことができますし、実践していく中で状況によって変化させていくことも可能です。継続的な実施を視野に入れると、校長のリーダーシップのもと、学校経営方針にキャリア教育を位置づけられるとベストですが、例えば、担当のクラスでシヨートホームルームを活用しながら進めていくこともできますし、学年行事を通じて、

学年の活動として進めていくこともできます。

また「学校だより」などを通して保護者に事前に広報し、キャリア教育の理解を得るとともに、授業実施の際にも協力いただけるように働きかけておくことも有効です。

多様な大人と関わることで子どもたちは多くを学びます。さまざまな気づきを子どもたちに与えるために、多様な大人たちが参画できるように工夫している学校もあります。

授業開始までの流れの見直しをつけて、早めに必要な外部協力者などにも声をかけておくことができますと、後の動きがラクになります。

**準備万全！
とはいかなくても大丈夫です**

とはいえ三年間の実践をふりかえってみると、準備万端整えてスター

トしている学校ばかりではないのも事実です。

「新しい教育ができそうで、面白そう」というひとりの教員の方の発案から始まった学校もあります。「総合的な学習の時間で何か有効な取り組みはないか」と苦肉の策で、体験型の教育をはじめた学校もあります。

万全な準備ができないから失敗する、というものでもありません。ある先生はこうおっしゃいました。

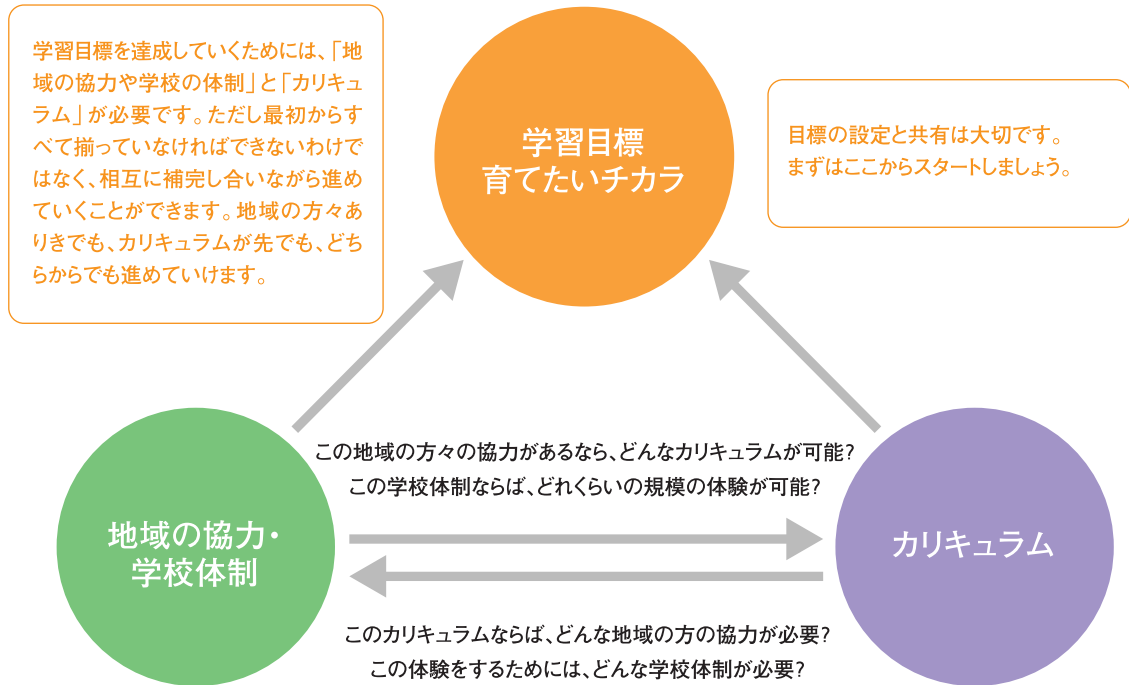
「失敗があってもいい。うまくいかないことから学べることだっていっぱいあります」。こんなことをおっしゃった先生もいます。「まずは教員が楽しむことが大切。教員が楽しめば子どもと一緒に面白い授業をつくっていくける」

カリキュラムと、地域のヒト・モノ・コトの教育資源の両方が完全に揃って始まった学校はほとん

どありません。協力者がいれば、そこから「この人が協力してくれらるなら、こんな授業ができて、こういう教育効果が期待できる」という見通しがたち、カリキュラム案をつくっていくけます。逆にカリキュラムやテーマが先で「地域特性を活かしたこの体験から学ばせたい。そのためにどんな地域の方の協力が不可欠か？」という考え方で策定していく方法もあるでしょう。

該当学年の発達段階や、育てたいチカラなどの学習目標が先にあれば、カリキュラムと教育資源は少しずつ揃えていきます。また大人たちがきれいにお膳立てした体験学習ではなくとも、子どもたちの力を伸ばすための経験・機会のひとつとして子ども自らが職場体験受け入れ先を探し、交渉するなど「体験学習をつくるという体験」からも学ばせることも可能です。

最初から準備万全といかなくても補完しあいながら キャリア教育は作っていきます



〈準備計画例〉

準備	学校	担当教員	外部協力先
	<ul style="list-style-type: none"> 体制 学年、教科別連携 PTA、学校運営協議会への通知、等 教員研修① 	<ul style="list-style-type: none"> 対象生徒の現状把握 育てたいチカラの明確化 授業時間の確保 活用すべき地域資源調査 対象学年の教科、指導計画との関連性 地域や保護者の子どもへの意見や願いの聞き取り 	<ul style="list-style-type: none"> 調査対象 産業 文化 歴史 イベント、行事 人、団体等
三カ月前	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担 協力先名の周知 名刺、学校案内の準備 学校行事等と調整 	<ul style="list-style-type: none"> おおまかなカリキュラム案 実施までのスケジュール 協力先への依頼交渉 具体的な打ち合わせ 日程調整 	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の現状と学習目標の共有 企業内での周知 学校の見学
一カ月前	<ul style="list-style-type: none"> 協力先企業の見学(教員研修②) 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細な指導計画 詳細な打ち合わせ 準備物の確認等 	<ul style="list-style-type: none"> 必要なもののリストなどの提供
カリキュラムスタート			

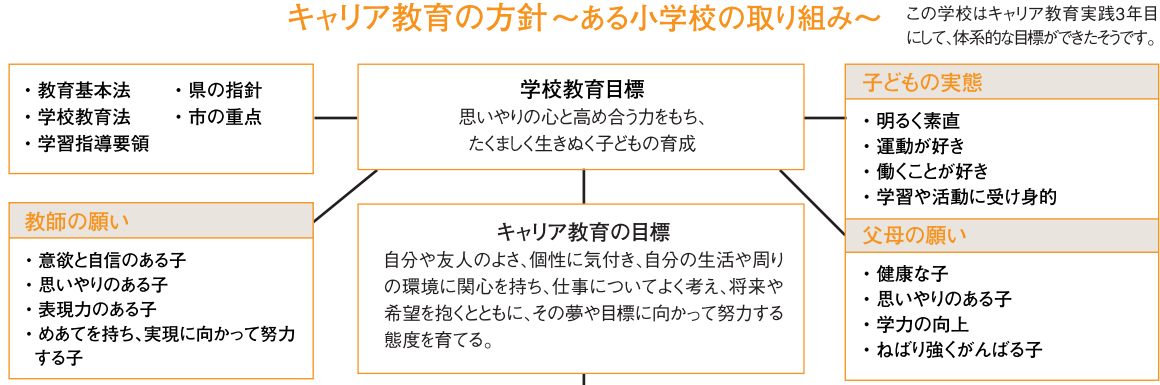
地域や子どもの実情にあわせ 学習目標を話しあい共有しましょう

**体験ありき、ではなく
めざすべき目標が
大切です**

キャリア教育には「キャリア教育を通じて育みたいチカラなどの目標」づくりが必要で、この目標をいかにつくるか。

各学校には教育全般における学習目標があり、学年目標があり、クラス目標があります。これを基盤に、キャリア教育の目標をつくるという方法がまずは考えられます。「将来社会に出て行くにあたって知っておいてほしいこと」「獲得しておいてほしい能力や考え方」などについて話し合うことからスタートされてはどうでしょう。

目標は曖昧な言葉になりがちですが「どんな場面でもどんなことができる子」なのかを具体的にしておくと、明確に目標が共有できます。



各学年の重点目標		
低学年	中学年	高学年
<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の好きなことや大切にしたいことをきちんと言うことができ、友達と仲良く遊び、助け合う態度を育てる。 2 係や当番活動の大切さやその方法を理解し、しっかりと取り組むことができるようになる。 3 目標をもつことの大切さに気付き、日々のめあてを設定し実行する態度を育てる。 4 新しい環境に慣れ、意欲を持って規律ある学校生活を送ろうとする態度を育てる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分のよさや友達のよさを認め合い、励まし合う態度を育てる。 2 世の中の仕事について知り、現在の学習内容が将来とどのように関係していくのが気づかせる。 3 将来の夢や希望について考え、どのような人間になりたいか目標を掲げることができるようにする。 4 中学年としてどのような態度で生活することが自分にも周囲にもいいことになるのか考えさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分らしさを発揮し、所属する集団に貢献する態度を育てる。 2 啓発的な体験学習等を通して、職業に対する関心を持たせ、働くことの意味について考えさせる。 3 将来のことを考えさせる大切さを理解し、そのために自分が何をすべきかを考えることができるようにする。 4 中学校生活への適応指導を図り、夢を持ち、目標に向かって努力する態度を育てる。

指導援助の方針	指導体制	評価について
<ul style="list-style-type: none"> ・係や当番活動、委員会活動の充実 ・啓発的な体験学習の充実 ・コミュニケーション能力の重視 ・地域とのかかわりを大切にした指導の充実 ・キャリアカウンセリングの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育担当を中心とした調整会議の実施 ・地域との連携を重視した指導体制 ・系統的な指導計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年ごとの「キャリア発達にかかわる諸能力」の到達目標の設定 ・キャリア教育に関わるポートフォリオの活用 ・地域からの評価及び外部講師からの評価

各教科・領域等でのキャリア教育の方針			
国語	筋道を立て、的確に話したり、相手の話の中心や意図をつかみながら、話し合おうとする態度を育てる活動を通して、人間関係形成能力をはぐくむ。	図工	豊かな発想を大切に、表し方を大切に造形活動を通して人間関係形成能力をはぐくむ。
社会	地域や自国の産業、生活、及び政治や国際社会における我が国の役割について理解する課題解決学習活動を通して、将来設計能力を高める。	家庭	衣食住に関する実践的・体験的活動を通して身近で働く人々、及び職業への興味・関心をもたせ、将来設計能力をはぐくむ。
算数	四則の基本的な計算や資料の数理的な処理の仕方、また、各単位や計器の学習等を通して、日常生活と学習内容の関連を理解させ、情報活用能力をはぐくむ。	体育	各種の活動の課題を持ち、活動を工夫して互いに励まし合って、協力して楽しく活動することを通して、意思決定能力をはぐくむ。
理科	見通しをもって、観察、実験などを行い、見出した問題を興味・関心を持って追究する活動を通じて意思決定力をはぐくむ。	道徳	葛藤場面のあるさまざまな資料を活用して、道徳的な判断力を育てる学習を展開し、キャリア教育との関連を図る。
生活	具体的な活動や体験を通して、社会の一員として適切に行動できるようにする学習や、それを通して気づいたことや分かったことを表現する活動を通して、情報活用能力を育てる。	総合	児童の興味・関心を大切にした単元構成を考え、キャリア発達にかかわる諸能力の育成を目指す。
音楽	曲想や音楽を特徴づけている要素を感じ取って工夫して表現する活動を通して人間関係形成能力を育てる。	特活	望ましい集団活動として係活動や当番活動などの集団の一員としての自覚を深める活動を通して、キャリア発達に関わる諸能力の育成を図る。

【地域との連携】	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活科」や「総合的な学習の時間」等における地域を活用した学習の充実 ・地域における各施設の利用 ・地域の教育力の活用 	【家庭との連携】	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との情報交換や連帯 ・「生活科」や「総合的な学習の時間」等における家庭との連携
		【中学校との連携】	<ul style="list-style-type: none"> ・学区内中学校との情報交換会、授業交流の実施

※宮城県教育研修センターの「キャリア教育全体計画」をアレンジで作成しました。

たとえば「考えるチカラを育成する」という目標も「困難にぶつかってもとことん考えて道を発見していく子ども」というイメージを共有することで、カリキュラムづくりや運営が行いやすくなります。目標は能力につながるものでなくても「多様な価値観に気づく」「世界観を広げる」などでもよいでしょう。目標を決めるために周囲と話し合うことは、他の教員の方にもキャリア教育の必要性を感じてもらおうきっかけにもなります。学校ぐるみでキャリア教育への期待感を高めることも有効かもしれません。

**地域の方々と
目標や目的を
共有しましょう**

また地域と協力することで作り上げるキャリア教育には、さまざまな立場の大人（教員・保護者・

地域住民・行政・企業など）が関わります。その方々も、何らかの目的を持って（子どもに対する思いや、今の子どもに対する危機感・課題など）キャリア教育に関わろうとしている場合が多くあります。

「子どもたちに郷土の良さを知ってほしい」「働く楽しさを伝えたい」「日本ではなかなか実現しないお金の教育を子どもにしていきたい」…。

まずは学校が考えるキャリア教育の目標を話し、地域の人たちが持つ子どもに対する期待や課題とすりあわせていきましょう。多少の意見の違いがあっても、ある程度議論したら後は実践してみても、終了後に目標の立て方を見直すことも必要です。

こうした目的の確認や目標設定がされないままキャリア教育がスタートしてしまうと、それぞれの立場から考えた「学習目標」が多数存在してしまうことになります。運

営中に、教育の方向性のブレが起きたり迷った時に戻ってくる原点がなくなります。

また学習目標がはっきりしないと結果の検証もしにくいいため、終了後の反省や改善も難しくなります。キャリア教育の現場で時折聞かれる「効果が見えにくい」という声は、目標が共有化されていないからため起こることも多々あるようです。

だからこそスタート時点で「この学校のキャリア教育の学習目標」「この地域で育てたい子ども像」などを関わる人たちが全員で共有することが重要なのです。地域で話し合い、共有することによって、より地域に根付いた独自性の強いキャリア教育を行うことができます。

おおまかな

カリキュラム案をつくりましょう

教育課程との

関連性を考えて

カリキュラムをつくる

キャリア教育を実践する上で、大切な要素のひとつに「カリキュラム」があります。どんなカリキュラムをつけさせるために、地域のどんな教育資源を使うキャリア教育にするのか。検定教科書がないキャリア教育では、教員の方が自分でカリキュラム案を選択・策定していく必要があります。

見通しのあるカリキュラムを立案するためには、ふたつのポイントがあるようです。

ひとつめはどのような教科や機会を利用してキャリア教育を行っていくのかです。総合的な学習の時間や各教科、道徳においても取り上げたり、関連づけさせたりすることも可能です。あるいは既存

の学校行事、たとえば社会見学や修学旅行などを利用することもできます。

また各教科の単元の学習を通して、キャリア教育を行うこともできます。

子どもに特別な経験をさせていくことから学べるものもあれば、教科授業の運営の中で外部講師を呼んで「学習と仕事の関連」を話してもらったり、議論をさせたり実験などを増やしていくことで学べることもあるのです。

同じテーマでも

短くも長くもできるし

違う目標のためにも可能

ふたつめのポイントは、何を核とした体験とし、そこから何を学ばせ、何時間をキャリア教育に費やすかです。

カリキュラムは絶対的なものはありません。たとえば「このカ

リキュラムだとこの力がつく」「この販売体験には三十時間必要」というものではないのです。

「核となる体験を何にするか」よりも、学習目標を達成するために「そのカリキュラムの中にどんな学びをいれるか」が重要です。たとえば「主体性をつけさせたい」という目標で、ものづくりを核とした体験のキャリア教育を行うこともできますし、販売体験でも、企画立案でも可能です。

また時間も固定的なものではありません。キャリア教育に対して何時間費やせるのかは学校や学年によって異なります。今回二十八団体が実施したカリキュラムも、実は学校の事情により時間数を変更している場合が多くあります。

どんなカリキュラムも、プログラムのようにいくつかの「プログラム」にわかれており、この組み合わせ

によって長くしたり短くしたりすることができるとです。

「事前学習」「体験学習」「事後学習」の組み合わせにさえなっ
ていれば、目標や生徒の実情にあ
わせて付随する学びを入れたり、
逆にスリム化することができると
です。

どこかの学校のカリキュラムを参考にする場合でも、生徒や地域の実情や学習目標に応じて、学校側が「プログラム」を取捨選択してはかがでしよう。「このカリキュラムには必ず何時間必要だ」「必ずこの学習が必要だ」と固定化せずに、自校の子どもの実情にあわせて変更していくことが大切です。

● キャリア教育を教育課程とどう連動させるか

教科の授業を活用する	既存の学校イベントを活用する	総合的な学習の時間		
実践事例1 (P30.P31) ・教科に外部講師 ・選択授業を活用	実践事例2 (P32.P33) ・社会見学や修学旅行を利用	実践事例3 (P34.P35) ・ゲームを組み込む	実践事例4 (P36.P37) ・外部講師を呼ぶ	実践事例5 (P38.P39) ・校外学習を取り入れる

● カリキュラムを構成する「プログラム」例

(今回の実践で見られたプログラムから抜粋)

事前学習プログラム例

調べ学習	インタビュー学習 (マーケティングなど)	マナー学習	会社づくり	お金の学習
体験学習に必要な基礎知識を知るとともに興味関心を深める。	体験に必要な知識や情報、あるいは動機付けとなる話を聞く。	職場体験などで社会の実情にあったマナーを学ぶ。	役割分担、理念・社名づくりなどを通してチームワークを学ぶ。	お金の意味や経済・社会の仕組みについて学ぶ。

体験学習プログラム例

企画立案	ものづくり	雑誌・新聞づくり (インタビュー学習など)	販売体験	職業体験
あたえられたミッションに対して考えさせ、プレゼンテーションさせる。	何かのテーマにあったものづくりをさせる。	目的をもって人の話を聞いて書く、読み手のために本を作る。	どこからか仕入れる、あるいは作ったものを販売する。	実際の職場に出かけ職業体験をする。

事後学習プログラム例

教科連動	ふりかえり	IT学習	プレゼンテーション学習	ライフプラン作成
教科の単元とキャリア教育を連動して深める。	一連の体験をふりかえらせ、感想文などに書かせたり、発表させる。	発表用の資料づくりにIT学習を絡める。	発表を通じて、人に伝える技術や声の出し方などを学習する。	一連の学習をふまえて自分の将来を見つめ直させる。

地域の資源（ヒト・モノ・コト）を教育資源化しましょう

地域に協力してもらおう
体制づくりを
行っていきましょう

キャリア教育のテーマは身近なところの方が、子どもたちは自分の身におきかえて考えたり、日常的な視点から取り組むことができます。

地域の抱える課題や、あるいは地域の歴史や産業などは、キャリア教育のテーマにふさわしいものだと思います。

また地域の独自性を取り入れることによって「地域総がかりで行う必然性」が発生します。地域の資源「ヒト・モノ・コト」を理解し、そこにつながる人たちとタッグが組めると、キャリア教育を推進する強力なグループの完成です。

さらに日本中の多くの地域で、子どもたちの地域への興味の薄さや知識の無さ、あるいは愛着の低

さが問題となっています。しかし

地域について言葉で伝えようとする場合、どうしても講義形式となつてしまい、結局子どもにとっては実感もわかず遠いまま、地域の勉強が終わるということも少なくないようです。

けれどもキャリア教育のテーマとして地域を取り上げ「教育資源化」することによって、子どもたちは聞いて学ぶだけでなく、体験から自然に感じ、考えるようになっていくことができます。

光の当て方を

変えることで自由自在に教育資源となります

地域の「ヒト・モノ・コト」をそのまま題材にすることも可能です。たとえば秋田県の小学生が「きりたんぼ」をつくって販売する。「き

りたんぼ」は秋田では日常的な家庭料理ですが、最近ではスーパーマー

ケットでも売っているため、手作りしたことがある子どもはさほど多くはありません。「手作業でのものづくり」と「販売体験」というキャリア教育の中で「きりたんぼ」を使うことで、子どもたちにとって郷土の味はより身近なものになりました。

また、ひとひねりしたり、光の当て方を変えることで同じモノでもいろいろな形で教育資源として活用していくことが可能です。

たとえば観光地として成り立っている地域なら、「観光パンフレットをつくる」というテーマで活動できます。あるいは「特産品を使って新しい名物をつくらう」というテーマも可能です。「価値観の多様性」に気づかせるために、「観光客と地域に住む人とお土産屋さん、考

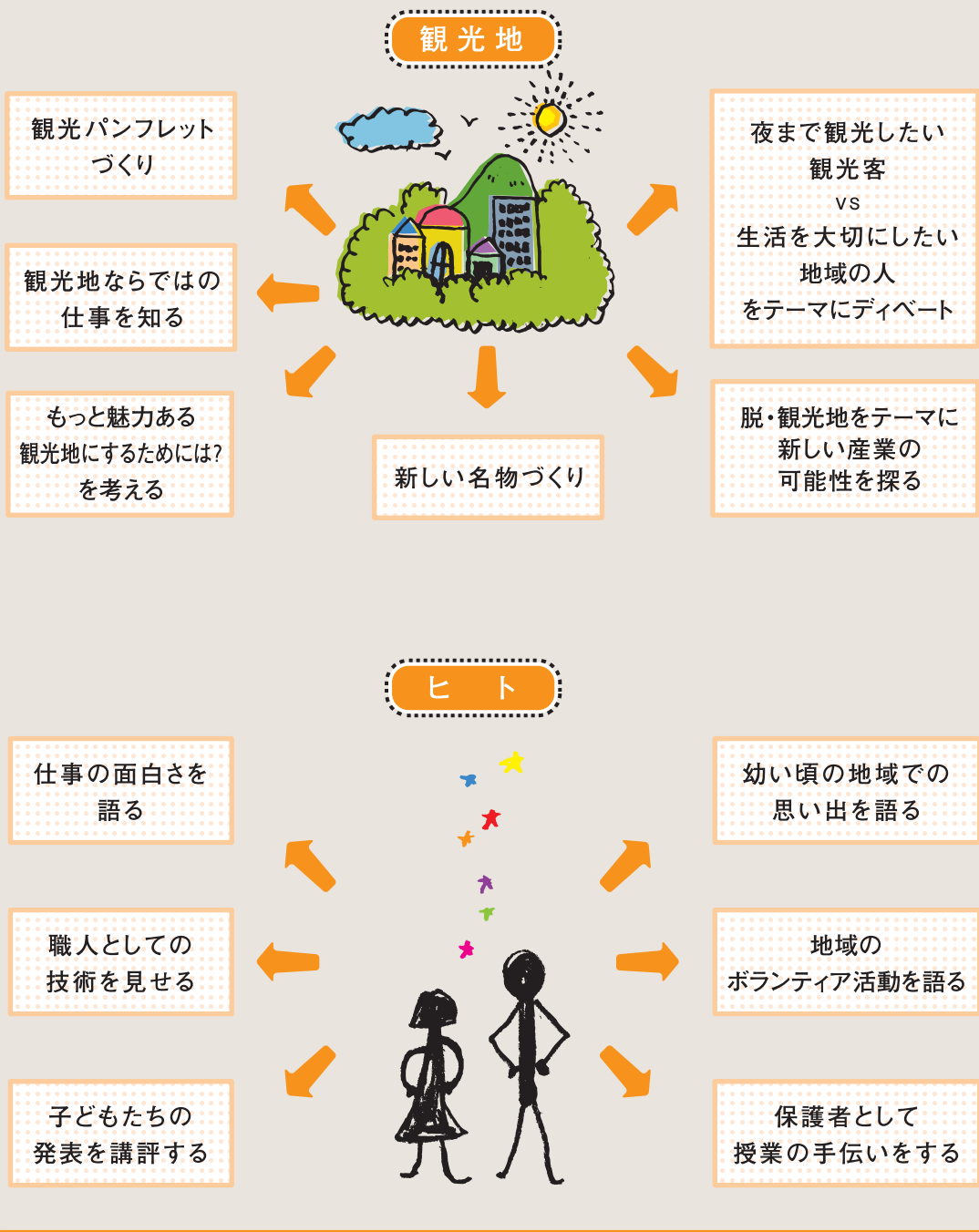
えがぶつかりがちな三者の希望をどう叶えるか」というテーマでもいけます。

あるいは同じ「地域のヒト」でも仕事の面白みを語ってもらうのか、幼い頃の地域の思い出を語ってもらうのか、技術を見せてもらうのか、などによってその方から学べることは大きく異なります。

地域の「ヒト・モノ・コト」をどう教育資源化していくのかには、無限の可能性があります。キャリア教育で「どんなチカラを育てたいのか」などの目標によって、身近な「ヒト・モノ・コト」を題材に組み立てていってはいかががでしょうか。



地域のヒト・モノ・コトを さまざまな角度から 「教育資源化」しましょう!



実践事例①

教科の授業を活用する

教科の授業で
キャリア教育を実践する

各教科の学習指導要領には、キャリア教育を通じて目ざすものと関わりが深い項目がたくさん見受けられます。キャリア教育を教科の授業と関連して行うことができると、

教科学習と社会や仕事の結びつきが理解でき、職業観などが育つだけでなく、教科の学習意欲が高まるのが期待されます。

また高等学校においては、専門教育に関わる各教科・科目の学習などにキャリア教育を利用することで、実際の仕事場面などを意識

しながらより専門的な知識や技術を学ぶことができます。

こうした学習には「各教科（あるいは単元）での学習内容」と「それに関連する地域資源（外部講師）」をキャリア教育の視点で結びつけたカリキュラムが必要となります。外部講師に授業進行をすべて任せ

るのではなく、子どもたちが理解しやすいように教員が補足するなど、協力しながら学習を進めることが大切となります。

勉強と仕事がつながれば、
理科の授業が面白くなる！

千葉県ではさまざまな小学校が、民間コーディネーター・NPO法人企業教育研究会の協力により、教科の授業にキャリア教育を取り入れている。教科での学習と世の中の仕事の結びつきを実感させ、子どもたちの学習意欲の向上や職業観の醸成に



単元のなかでキャリア教育を取り入れることによって、「今学んでいること」と「社会」をつなげて考えられるようになる。

役立てようというものだ。

たとえば、六年生の理科の「電磁石のはたらき」の単元。九時間の単元学習が始まる前に、これから学ぶことの興味関心を高めるため、事前学習として二時間を地元マブチモーターの社員が講師となった。時計などを分解してその中にモーターが使われていること、そのモーターには電磁石とコイルがあることを確認し、電磁石が身近に役立っていることを実感させる。教員は九時間の単元を行いながら、実験として「最強の電磁石をつくろう」とグループごとに製作させる。事後学習として二時間、事前学習を行った講師に再度来校してもらい、子ど

もたちは彼らに対して各自の「最強の電磁石」を発表。講師自身も子どもたちと同じ材料を使って電磁石を製作し、プロの技術を見せる、という全部で十三時間の授業となった。

一連の実験をしながら、子どもたちは「生活に役立つ知識」として電磁石に興味・関心をもって学ぶことができた。また働く大人の仕事への思いやりや仕事内容にも興味を持たせることができた。子どもたちがさまざまな工夫をしたのにもかわからず、講師の電磁石には子どもの二倍の磁力があり、プロの技術のすごさにも尊敬の念を抱く機会となったようだ。

他にもこんな授業が

- 中学校・国語「ものづくりの知恵」という文章読解の際に、ものづくりに携わる企業の方を講師で招く。
- 中学校・数学「一次関数」の単元で、キャラクターが関数のグラフ上を動くプログラムとプログラマーのビデオを使い、関数がゲーム制作と関係することを教える。
- 小学校・家庭「住環境」の単元で、ハウスメーカーの方を招く。
- 小学校・社会「国土と環境」について学んだあと、エコツアーを企画し、旅行会社の方にコメントをもらう。
- 高等学校・情報「電子商取引」について学び、インターネットショッピングの企業の方にお話を聞く。

授業の内容と
世の中が繋がった！

兵庫県姫路市の商業高等学校は、課題研究の授業において多数の選択コースを設けている。この選択クラスにおいて民間コーディネーター・株式会社キャリアリンクの協力のもとキャリア教育を実施した。介護福祉ビジネスコースのテーマ

は「地域福祉の推進のための商品アイデア企画」。全三十時間のプロセスを通じて効果的な情報収集に焦点をあて、論理的に組み立てて考えることや、地域社会の一員として地域福祉に積極的に関わる姿勢を身につけさせることを目標とした。

事前学習としての姫路市保健福祉政策課の出前授業などの後、体験学習としてグループで「地域福祉推進の商品」を企画・試作・プレゼンテーションを実施。

その後、福祉施設での実習を活用して、「商品の想定使用者」に試作品に対する声をヒアリング。そこでもらった意見をもとに、再考して発表した。

子どもたちからは「商品作りにこんなに手間がかかっているとは知らなかった」「今までの自分の視野の狭さを実感した」「社会に出たら責任を持って仕事をやり通さなければならぬと思った」などの声があがった。

ゲスト講師の授業と、実習での経験、グループワークを組み合わせることで、目的意識が高まり、生徒たちの自発性やモチベーションを向上させることができた。

高等学校の専門課程ではキャリア教育を授業の中に取り入れることは比較的スムーズにできるため「どの学年のどのコースの生徒たちにどんな力をつけさせたいか、目的を明確にしてキャリア教育を取り入れれば、その力の定着が見込めることを感じている」と担当教師や民間コーディネーターは話している。



グループで企画・試作・プレゼンテーションを行う。生徒たちは専攻が異なるので、役割分担をして作業をする。

実践事例②

既存の学校イベントを活用する

修学旅行や社会見学…、 学校でのイベントを 活用する

学校にはさまざまな行事やイベントがあります。「修学旅行」「社会見学」「宿泊体験」「職場体験」…。他にも各学校独自の行事があ

るはずです。こうした既存のイベントをキャリア教育に活用することもできます。

たとえば「職場体験」や「社会見学」を核となる体験学習に位置づけ、キャリア教育の視点で「事前・事後学習」を総合的な学習の時間などで行い、体験の意味を深くす

ることもできます。あるいは「修学旅行」や「文化祭」などをキャリア教育の成果発表の場とし、その日を目指に何らかの体験や学習を行っていくというカリキュラムも可能です。子どもたちにとっては、より思い出深いイベントとなるはず

また、こうしたイベントはもともと地域の方々や企業・大人たちに協力してもらっている場合が多く、わざわざキャリア教育のために他の地域資源を探したり協力を仰いだりする必要がないのもひとつのメリットです。

身近な企業を題材に 産業のしくみを学ぶ

長野県長野市の小学校では、民間コーディネーターであるNPO法人キャリア・起業家教育学会の協力のもと、五年生を対象に体験学習として「社会見学」を活用したキャリア教育を実施している。農業を画期的な技術革新により工業にした企業を

題材に、子どもたちに対して創意工夫の大切さや、社会におけるビジネスの価値などに気づかせることを目的としている。

社会見学先は、全国的にも有名なキノコ栽培メーカー。キノコのキャラクターが登場する企業CMは、子

どもたちに馴染み深い。しかしその一方で、事業内容や取り組みについてはあまり知られておらず、真っ白な白衣に着替えて最先端の栽培工場内を見ることがだけでも子どもたちにとっては新鮮な経験となる。



映像資料を見ながら長野市の産業や見学先について知識を深める子どもたち。こうした事前学習によって社会見学の効果がよりアップした。

見学の前に事前学習として、長野市を支える産業の特徴や、人工栽培などの技術革新を伝える。「社会科」を使って「食料自給率を考える」授業も行う。「安いものを輸入すればいつってホント?」たとえば戦争、たとえば安全性…、さまざまな視点から自給率についての議論をさせる。

見学に臨んだ。

見学後、企業側から「小学生をキノコ好きにさせるオリジナル料理を考えよう」という課題が提出され、子どもたちが考えた料理を親子で協力して自宅で調理。パスタや炊き込みご飯など、出来上がった料理を写真に撮って持参させた。事後の授業ではポスター形式を使った発表会で、社会見学体験や調理体験について発表。子どもたちにとって、地域の産業をより身近に感じる事ができ、工夫して新しいものを作る喜びを味わう経験となった。



見学先では、キノコの培養や菌、収穫、包装といった連の製造工程に子どもたちは興味津々。子どもたちから多くの質問が飛び交った。

修学旅行を晴れの舞台に 小樽の魅力伝える!

北海道小樽市の小中学校、高等学校では古くから受け継がれてきた職人文化を活かし、小樽市独自のキャリア教育に取り組んでいる。職人を招いての講習会や工房でのものづくり実習といったプログラムを通して、小樽市に育つ若者に地域産業に対す

る理解を深めてもらうことを目的に始められた。

小樽市立向陽中学校では、「修学旅行先の盛岡で、小樽のPRイベントをする」というキャリア教育を行った。小樽市内のさまざまな分野の職人が組織したNPO法人北海道職人



「限られた予算でも、もらった人が喜ぶものを」。そんな思いで子どもたちは、職人と一緒にオリジナルの工芸品を制作した。

義塾大学の協力により、中学三年生たちが職人のもとに短期入門し、グループごとに染め物やうちわといったオリジナルの小樽グッズを制作。約一週間の制作を経て「100円ショップの商品と見た目は変わらないものでも、実際に作ると大変だった」と、ものづくりの厳しさを実感した。

修学旅行当日、子どもたちは盛岡市内の商店街で買い物客を相手に小樽のPRを行った。オープニングでは小樽市民が潮まつりで踊る「潮音頭」とYOSAKOIソーランを披露。踊りや歌で買い物客を集め、自分たちが作った小樽グッズを配布しながら町を売り込む作戦である。そのようなプレゼンテーションの段取りも子どもたちが工夫して考え、一カ月以上前から練習を重ねた。発表後、買い物客からは大きな拍手が沸き起こり、配られたグッズの出来映えに驚く人もいた。

子どもたちは「グッズづくりは大変だったけど、すごく喜んでくれて楽しかった」と達成感に満ちた表情。また小樽をPRすることで故郷への愛着心なども強くなったようだ。旅行から帰った後、子どもたちはお世話になった「師匠」を訪ね、報告と感謝の想いを伝えた。



小樽PRの舞台は盛岡市内の商店街や福祉施設。子どもたちは揃いのハジを着てYOSAKOIソーランを披露し、最後に工芸品を配布した。

実践事例③

ゲーム・ワークショップを組み込む

比較的短時間でできる ゲームやワークショップを 取り入れる

キャリア教育には、すでに何度も試行され、ある程度の効果が期待できるゲームやワークショップがあります。比較的短時間の取り

組みで行えるものもあるためこのゲームなどを体験学習と置き、事前・事後学習をつけていくこともできますし、他に核となる体験を設け、その「事前学習」、あるいは「事後学習」としても使用可能です。シンプルなルールのゲームでは学べる内容もはっきりしている場



合が多いので、目的にあわせて採用することが必要です。

また子どもたちの発達段階や目的によってルールを変化させられる複雑なゲームの場合には、ファシリテーターとなる教員に研修などが必要な場合もあります。

自分の未来の夢を 描いてみよう！

大阪府大阪市の小中高のモデル校では、民間コーディネーター・NPO法人日本教育開発協会（JAE）の協力により、さまざまな企業を学校に招いて「企画開発型キャリア教育」を展開している。文具メーカーの協力で自分が使いたくなる文具を、

家電メーカーの協力でユニバーサルデザインの家電を企画開発するなど、企業の方を招きさまざまな業種の商品開発の企画・プレゼンテーションをグループ単位で行っている。企業によってさまざまな企画が行われるが、特徴的なのは事後の授業。



グループワークで商品の企画、プレゼンテーションを行う様子。企業の方のアドバイスをもとに試行錯誤する。

最後は必ず子どもたちが自分のライフプランを作成する。この「ドリカムプラン」は、これだけでも単独で行えるプログラムである。

「ドリカムプラン」とは社会と自分のつながり、現在と未来のつながりを見つめさせることから始まる。なりたい自分を思い描き、今の自分と未来のなりたい自分をつなげて考え、どうやって自分の夢をかなえるのか、計画させるのである。子どもの発達段階に応じてフォーマットを変え、より具体的に書き出せるように工夫をしている。

作成後はグループ内で発表する時間を設け、各自が発表。「既になりたい職業がある子ども」「具体的なイメージはないけれど、抽象的にこんな大人になりたいという子ども」…中には恥ずかしがってなかなかシートに書けない子もいるが、「最初は恥ずかしかったけれど、発表をすることでその夢をますますかえたいと思った」という感想も。具体的に将来の自分をイメージできない子もいるが、自分の将来像を描けないことに直面することも大きな学びとなるという。



自分の夢が具体的ににならない子どもには、大人たちが少しアドバイス。夢を書けなくても書けないことに直面することが大切。

お買い物ゲームで お金の意味を実感！

国内唯一の「国際情報通信・金融特区」に指定されている沖縄県名護市。この地域の小学校では、民間コーディネーターであるNPO法人金融知力普及協会の協力のもと、五年生の子どもたちが生活とお金、仕事とお金の関わりについて学べるよう「お買



ゲーム性も高いため、熱中する子どもたち。迷ったり、喜んだり、がっかりしたり。高ポイントを目指す。

い物ゲーム」を活用したキャリア教育が行われている。

「お買い物ゲーム」は、大人が一人ゲームマスターとして立ち会い、一グループ五〜六人が個人で競う。子どもたち一人ひとりが三千円をもって、その月に自分の身に降りかかる

出来事を表したイベントカードを引く。例えば、「お手伝いをする」というカードを引くと、お手伝いをしてお小遣いをもらえる代わりに買い物の時間がなくなる。ときには、「お財布をなくす」というカードもあり、引いた場合は手持ちのお金をいくらか払わなくてはならない。さまざまなイベントを繰り返しながら、お金で買い物もする。お金の出入りがあればお小遣い帳をつけていき、最後に手持ちのお金と購入したものをポイント換算し、ポイントが高かった人が勝ちという仕組みだ。お金を最後までたくさん持っていた人が勝ちではなく、「有益なモノを買う」ことは高いポイントとして換算されるようになっていく。もちろん意味のないムダなお買い物はポイント換算されづらい。

こうして子どもたちは、お買い物ゲームを通して「社会の中でのお金の役割」や「自分とお金の関係性」を学んでいく。名護市の場合、このゲームの後に仕事調べや金融機関のコールセンター実習を体験させるカリキュラムになっているが、他の地域ではこの後に販売体験などを行わせている小学校もある。事前に二時間、ゲームで二時間、事後に一時間、計四時間で「お金」と「自分」と「働くこと」の結びつきをより身近に感じさせることができるカリキュラムとなっている。



「お買い物ゲーム」後、コールセンターの方を招いた実践授業の様子。子どもたちは、お金と仕事の関係を体感していく。

実践事例④

外部講師を校内に呼ぶ

外部講師と教員が協力しあいながら授業をつくっていく

キャリア教育のあり方として、教員が中心となり外部講師をさまざまなポイントで利用していく方法と、外部講師からの直接の指導

を中心に教員が学習をサポートする方法があります。教育の主体が教員であることは変わりありませんが、あえて外部講師を中心に据えることによって、さまざまな効果が得られる場合もあります。仕事の疑似体験に近いプロジェクト型（課題解決型）の場合には、

実際には体験内容を教員も知らない場合が多く、プロからの指導が必要で、しかし外部講師は、子どもの発達段階などに対する知識のない場合があります。カリキュラムは講師に任せきるのではなく原則として教員も一緒に作りましょう。授業実施においても、難しい

言葉は教員がかみくだいて伝え直すなどの協力体制が必要です。また、長時間かかる作業を行う場合には、教員だけで指導する時間をとる必要もあります。作業の進め方など指導のポイントを外部講師からヒアリングし、外部講師と同じ指導をしていくことが大切です。

**アニメのプロたちと
大好きなアニメーションを制作！**

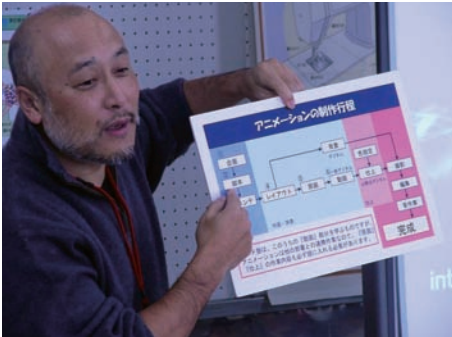
東京都三鷹市の六つの小学校では、民間コーディネーター・NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構を通してアニメーションを用いた授業を展開している。三鷹市には日本でも有数のアニメーションスタジオがあり、アニメ関係のスタジオが点在している。平成

十三年には「三鷹市立アニメーション美術館」も開館。この地域資源のひとつでもあるアニメーション産業を活用し、「アニメーションコンテンツ制作」のキャリア教育を実施している。事前学習として、アニメ制作会社の方がアニメーションの作り方を指

**自分だけのロボットを作り
合同大会で優勝を競う**

岐阜県羽島市の小学校九校、中学校五校、ロボット産業界の次世代の産業界に協力を惜しまない企業の方と民間コーディネーター・羽島商工会議所の協力のもとに、「ロボット製作」をテーマとしたキャリア教育を取り入れている。

当初は「必須クラブ」「選択技術」の時間を使って、時間を確保した。ロボットの製作を通じて、C言語プログラミングについて学び、最後に個人がロボットを製作し発表。製作したロボットを持ち寄り、九つの小学校・五つの中学校合同ロボット大



アニメーションの制作過程を説明する外部講師。予想外の手順の多さに子どもたちは驚きを隠せない。



クレイアニメーションの制作。グループで議論、意見衝突がありながらも協力して作業を進めることができるようになった。

導。生徒たちに、いつも気軽に見ているアニメができるまでの苦勞を伝えてもらう。実際の制作に入る際には、グループを作り、進行管理係を決めるなどして役割分担から始まる。全部で約三十時間の制作時間内のいくつかのポイントで、プロデューサーやクリエイター、アニメーターたちが学校を訪れ、さまざまなアドバイスを与えていく。最後は、子どもたちの作品に対してプロたちが講評を行った。「真剣に作ったものだからこちらも真剣に」と、あえて厳しい意見を出してくるプロたちの言葉を真摯に受け止めている子どもたちの姿が見られた。

最初は楽しいことだと安直に考えている子どもも多いが、細かな作業の積み重ねで制作されている事実を、身をもって体験することで「苦勞の先にある喜び」「協力の大切さ」を学ぶことができた。また事後に「仕事」という言葉から連想されるものを聞くと、どの子どもも以前より語彙や表現が増えてきているという。作る側の思いや制作の苦勞に思いを馳せるようになってきているのだらう。

協力企業の方々は「絵が上手下手というよりも、物事をしっかり見て、理解し、表現することを子どもたちに経験してほしい」という。また制作物を「三鷹の森アニメフェスタ」というイベントでも紹介したことで、キャリア教育に対する協力者が増え始めている。



小学校「ロボット製作授業」の様子。容易なプログラミングで動くロボットを活用した。



外部講師から子どもたちへアドバイス。ロボット大会という目標に向かって、子どもたちが積極的に取り組むようになった。

会を開催している。

基本的にはロボット産業界のプロたちが教員と協力しあいながら、講師として教壇に立ち、生徒個人の製作を手伝っていく。試行錯誤を繰り返しながらロボットづくりに熱中する子どもたちの姿は、日頃の教科授業ではなかなか見られない姿であり、教員たちも予想以上の反応だと驚きを隠せない様子。ロボット製作後には、ロボット大会で自分の作ったロボットを戦わせ、優勝を決定。大会も大変盛り上がるという。

子どもたちも「自分が行ったプログラミングによって、ロボットが思い通りの動きをしてくれるようになることがとてもうれしかった」と授業を楽しみながら、自発的に学習に取り組む喜びも理解したようだ。

子どもからも教員からも評判が良かったため、このキャリア教育は羽島市内の全ての小中学校に広がることになった。また全ての子どもたちがこの体験をできるようにと、必須クラブ、選択授業としてだけでなく、中学校の技術科「必修技術・B情報とコンピュータ」の授業の中で授業用教材として容易なプログラミングロボットを利用した授業もスタート。地元産業界と協力した授業を今後も展開する予定で、ますます盛り上がりを見せていくようだ。

実践事例⑤

校外学習を積極的に取り入れる

校外学習を うまく取り入れた ダイナミックな学習

キャリア教育は地域資源を利用することで校内の枠を超えた学びとなりますが、校外での活動を取り入れることでよりダイナミック

な学びとなります。

たとえば「販売体験」などは、校内の文化祭などで行うことも可能ですが、地域のお祭りやスーパーマーケットなどの一角を借りて行うことができます。さまざまなリスクが考えられますので事前の入念な準備や協力者の確保などが不

可欠ですが、校内とは違った緊張感の中で子どもたちにとって「味違った学びがあるようです。」

またこうした校外活動を通して地域の方と触れあうことは、キャリア教育の理解者や支援者を増やす機会ともなります。

校外学習を広い意味でとらえると、

同じようにキャリア教育に取り組む他校との交流も、子どもたちには大きな刺激となります。遠方の場合はメールやインターネットなどの情報学習との連動も有効です。

店舗実習を活かして、 わが町の名物菓子をつくらう！

福岡県飯塚市は新産業創出に向けたまちづくりの取り組みとして、市を代表する産業である「菓子づくり」と、これからの中核産業となる「IT」を組み合わせたキャリア教育を実施している。市内の小中学校四校では、民間コーディネーターであるレベル

アップ株式会社の協力のもと、地元のお菓子メーカーなどからものづくりの仕組みや売り方、安全対策、顧客満足などを習得。そして子どもたち自らが架空の会社を作り、商品コンセプトから売り上げ・利益計画、デザイン、販促まで、独自の新商品

県外の友だちと 自分の地域の良い所を紹介しあおう！

和歌山県の近野中学校と京都府の大原中学校では、「地域の観光・産業の学習」というテーマにもとづいて二校が連携してキャリア教育を実施している。もともと学校独自でキャリア教育を行っていたが、「近畿地区内の観光地にある学校として互い

に理解と親睦を深めてはどうか」と、それぞれ和歌山県、京都府で活躍するオフィスマイト株式会社と財団法人京都高度技術研究所が連携して進めた。

両校はまず第一回の交換授業として、お互いの地域に関するアンケ



事前学習で子どもたちは飯塚市のお菓子の歴史を勉強し、菓子老舗会社「さかえ屋」の社員から直接ビジネスマナーを教わった。



「わたしはデザインを考えたい」「僕はエクスセルで売上表を作るよ」などと、グループ内のメンバーが分業で商品づくりに励んだ。

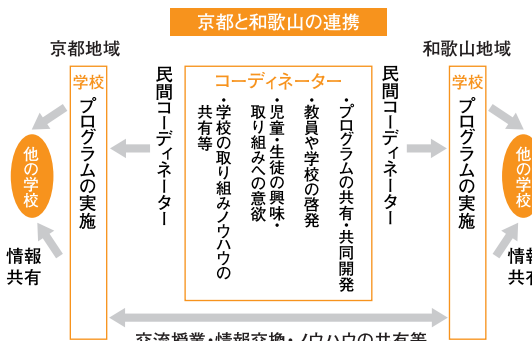
開発のビジネスプランをパソコンで作成して発表した。

カリキュラムの中には、校外学習として地元商店街での『店舗実習』が含まれており、仕事の仕方や販売方法を直接インタビュしたり、接客、呼び込みなどの体験をした。子どもたちは「想像していたよりも大変だったけど、おもしろかった」「お客さんに商品を渡すときは緊張しましたが、笑顔が心がけました」などと、働くことの意義や自身の商品開発のヒントを学ぶことができた様子。協力した商店街の人たちも、「子どもたちの一生懸命な姿に、私たちが学ばせて頂いたような気がします」「子どもたちが商店街、そして町全体にとって大きな活力につながると思います」と、キャリア教育が商店街の活性化につながることを期待している。

カリキュラムの最後には、各校の代表グループが市内の大きなイベントホールで発表会を開催。同じカリキュラムを実践している小中学校が合同でプレゼンテーションを行うため、競争意識で子どもたちのモチベーションも上がり、パワーポイントの制作や発表の練習も入念に行われた。発表会当日には、子どもたちの保護者や店舗実習に協力した商店街の人々など多くの市民が参加して盛り上がりを見せた。



「自分の地域を知らない人にどう伝えよう...」。頭を悩ませながら見やすい資料作り、理解しやすい発表方法を編み出していた。



トを実施。京都は「大原」、和歌山は「熊野古道」、共にそれぞれが観光資源として誇る題材を聞き取った。ところが和歌山からは「大原って専門学校?」、京都からは「熊野古道ってクマが通った道?」という声が聞かれ、子どもたちは他地域と自分たちの認識がかなり違うことを実感。その上で「知らない人にどうやって自分たちの土地への想いを伝えられるか」を課題に、教員と一緒にディスカッションや資料づくりに励んだ。また、相手校の地域に関する事前学習や手紙の交換などを重ねることで、徐々にお互いの距離を縮めることができ、教員同士もコーディネーターを交えた会議を行うことで理解や親睦を深めていった。

最後に子どもたちは、各々の学校内で自分たちの勉強や実習の成果を発表。時間や場所の都合上、顔を合わせて発表することはできなかったが、インターネットなどを利用して資料や映像を送り、学校間で情報の共有や意見交換に励んでいた。学校側は今後も相手校との連携を強め、子どもたちに幅広い職業観を身につけてもらいたいと意欲的な姿勢を見せている。

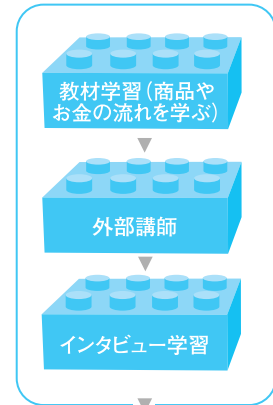
物語編七つのカリキュラムを分解してみると...

物語編で紹介した七地域の取り組みも複数のプログラムの組み合わせで成り立っています。カリキュラムを分解してみました。

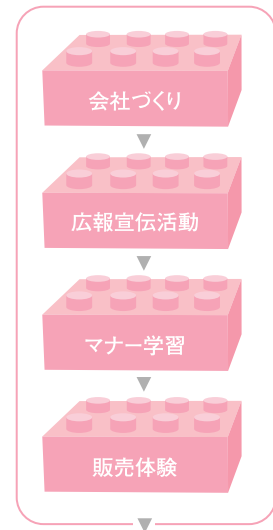
佐賀県佐賀市の小学校での取り組み

「環境」をテーマに販売体験を実施。子どもたちがお店をつくり、商品を仕入れ、本物のお金を使って地域の人たちに販売した。

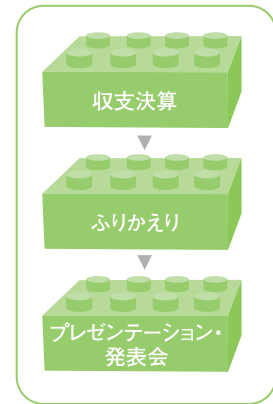
事前学習 約20時間



体験学習 約30時間



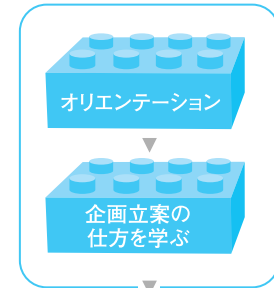
事後学習 約10時間



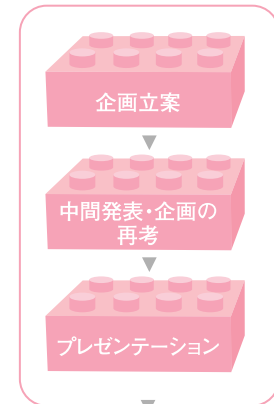
大阪府堺市の小学校での取り組み

地元の伝統産業などのメーカーからミッションを受け、子どもたちは商品の企画に挑戦。

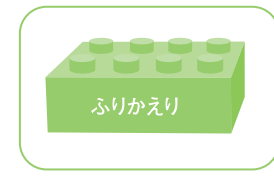
事前学習 約5時間



体験学習 約22時間



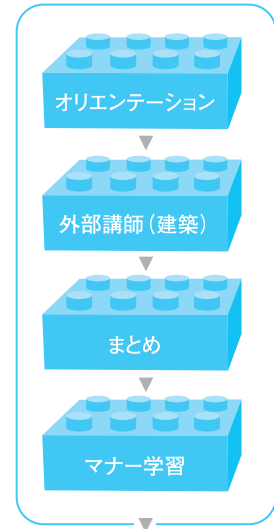
事後学習 約3時間



北海道札幌市の小学校での取り組み

地域資源の代表格「札幌ドーム」をテーマに、館内の見学や働く人へのインタビューを実施。学習したことを各自新聞にまとめた。

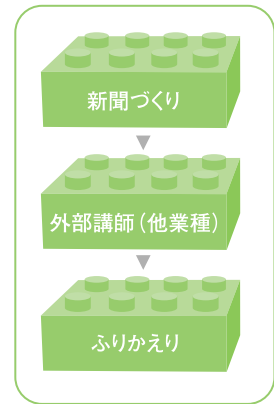
事前学習 約8時間



体験学習 約8時間



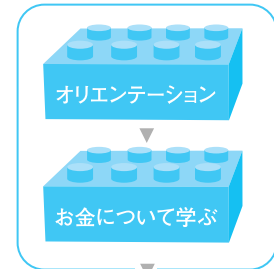
事後学習 約8~10時間



秋田県大館市の小学校での取り組み

地元名産の「きりたんぼ」を加工し、グループごとにオリジナル商品を企画。商品を実際につけて地域の人たちに販売した。

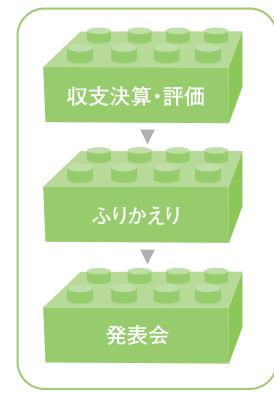
事前学習 約4時間



体験学習 約34時間



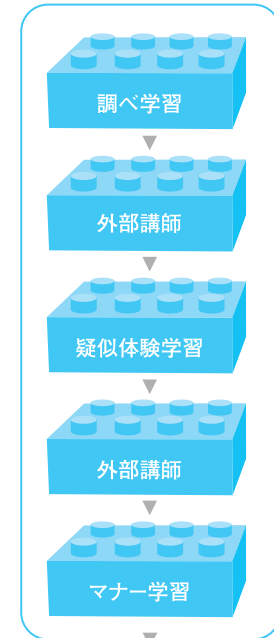
事後学習 約8時間



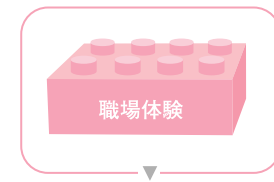
愛知県瀬戸市の中学校での取り組み

働くことやさまざまな職種について市民講師に話を聞いた後、3日間にわたり、2年生81人が60カ所の職場で体験学習を実施。

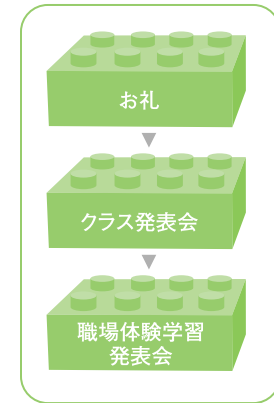
事前学習 約7時間



体験学習 約0.5~5日間



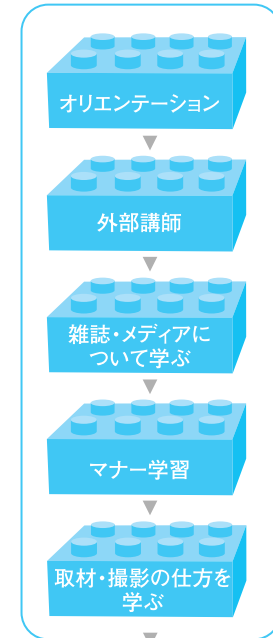
事後学習 約5時間



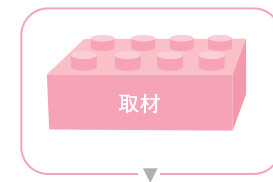
東京都の中学校での取り組み

修学旅行先や職場体験で仕事についてのインタビュー取材・撮影を実施。取材内容をフリーペーパーにまとめて発表した。

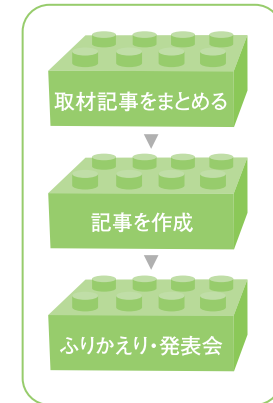
事前学習 約9時間



体験学習 約2時間~数日間



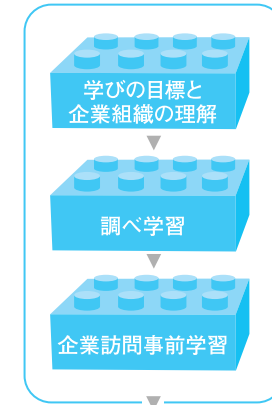
事後学習 約7~10時間



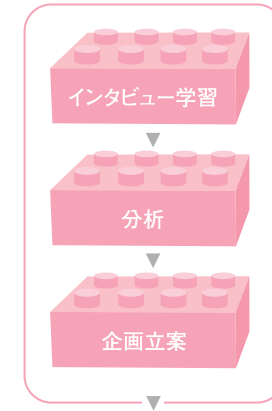
岩手県の高등학교での取り組み

企業や仕事への理解を深めるため、企業へ訪問インタビューを実施。その後、企業の課題を解決するために必要な戦略を考えて発表した。

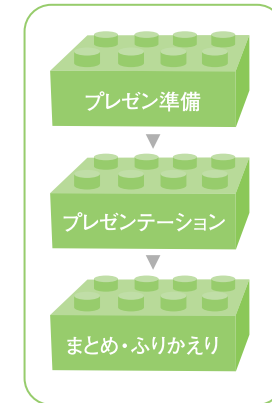
事前学習 約5時間



体験学習 約18時間



事後学習 約3時間



第3章

キャリア教育を 実践する



参考資料 職業的(進路)発達にかかわる諸能力



人間の成長・発達の過程には、いくつかの段階(節目)と各段階で取り組まなければならない発達課題があります。国立教育政策研究所生徒指導研究センターでは「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」を開発し、その中で児童生徒が将来自立した社会人・職業人として生きていくために必要な能力や態度、資質を(表1)のような「4つの領域と8つの能力」で提示しました。

また児童生徒の発達段階や発達課題をキャリア発達の視点から見ると、学校段階別に(表2)のように考えられます。

キャリア教育の「学習目標」を選択する場合のひとつの指針となります。

＋ 職業的(進路)にかかわる4領域8分野能力(表1) ＋

領域	領域説明	能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切に行動していく能力 【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力 【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力 【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力
意思決定能力	自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力 【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

＋ 学校段階別に見た 職業的(進路)発達段階・発達課題(表2) ＋

	小学校段階	中学校段階	高等学校段階
職業的(進路)発達段階	進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期	現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
職業的(進路)発達課題	<ul style="list-style-type: none"> 自己及び他者への積極的関心の形成・発展 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成 進路計画の立案と暫定的選択 生き方や進路に関する現実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解の深化と自己受容 選択基準としての職業観・勤労観の確立 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実吟味と試行的参加

(国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)2002」)

体験への興味・関心を高める

「事前学習」効果的な実践のポイント

単なるイベント体験で終わらないためには事前学習が重要

何らかの「体験」を中心に置くキャリア教育では、体験が単なる「面白かった」「楽しかった」という一過性の活動とならないように、事前・事後の学習を充実させることが大切です。

特に事前学習でこれから行う「体験」がもつ意味や、そこから学んだり、感じてほしいことを理解させておくことは重要です。

大きな目的を理解させるだけでなく、子どもたちによくつかの視点や情報を与えておくことができれば、子どもたちは多くの情報や気づきを得ることが出来ます。

また、大変な経験だったとしても、諦めずに成果を出すことへの動機付けも大切です。

例えば販売体験を行うある学校では、利益を発展途上国の子どもたちに寄付することを目標としています。社会の時間を使った事前学習で、発展途上国の実情について学習し、販売体験に対する動機付けのひとつとしています。

あるいは次の授業への期待や関心を高めておくことも大切です。たとえば外部講師の授業の前には「どんな背景を持つどんな人が、どんな話をしてくれるのか」などを説明し、子どもたちに質問を考えさせておくなども有効でしょう。

もちろんそのためには外部講師との事前打ち合わせが大切になりますが、教員自身がその方の仕事や生き方に対して興味・関心を抱いて事前学習で語ることができると、子どもにもそれが伝わります。

体験のために必要となる知識だから学習意欲が高まる

また体験学習を行うために必要な知識や技術を身につけさせることも事前学習では大切です。

たとえば職場体験や販売体験の前にマナー学習。ただマナー学習を行うだけでは学習意欲もなかなか高まりませんが、「実際にその知識や技術が必要な場面がある」ことが理解できれば、子どもたちは真剣に覚えようとします。実際の場面を想定しながら、大きな声を出したり、丁寧にうなづきをする練習が自然にできます。

あるいは販売体験の前の金融学習。実際に現金をやりとりして利益を出すという経験が控えていれば、日頃は算数や数学が嫌いな子どもも目をキラキラさせながら学ぶこ

とができるかもしれません。

体験の時間が少なくても、事前学習を充実させていくことで、効果的なキャリア教育をつくることもできます。

事前学習を通して、キャリア教育の目的を子どもたちと共有しておくことで、子どもたちの自発的な学びも期待できるのです。



たとえば、こんな事前学習

マナー学習

社会で失礼のない挨拶の仕方やお辞儀の仕方、話し方などを身につけさせる。

学校内に疑似ハローワークをつくり、企業の求人票に対して自己PR書を書かせる

社会の仕組みを体感し、自分の価値観や希望を認識させて表現させる。

ライフプランの作成

今までのふりかえりとこれからの人生を描かせる。それによって訪問先の選ぶ視点を明確にさせる。

自分が思いつく職業を書き出し、グループで話し合う

仕事や社会に対して興味を持たせるとともに、知識を増やす。

外部講師から仕事の話聞く

「働く」ということについて、新しい視点や価値観に気づかせる。

自分で企業に対して受け入れ交渉をする

自ら働きかけていくという成功体験を味わわせるとともに、職場体験への動機付けを高める。

職場体験



(5) 体験活動の充実

このため、現在、特別活動や総合的な学習の時間などにおいて行われている様々な体験活動の一層の充実を図ることが必要になる。その際、体験活動をその場限りの活動で終わらせることなく、事前に体験活動を行うねらいや意義を子どもに十分に理解させ、活動についてあらかじめ調べたり、準備したりすることなどにより、

意欲をもって活動できるようにするとともに、事後に感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返り、文章でまとめたり、伝え合ったりすることなどにより他者と体験を共有し、広い認識につなげる必要がある。これらの活動は、国語をはじめとする言語の能力をはぐくむことにもつながるものである。

(中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」一部抜粋)

体験からの学びを深める

「体験学習」効果的な実践のポイント

働く大人や職場との

関わりの中から

働くことの意味を学ぶ

体験学習を核としたカリキュラムを実施していく中で、さまざまな地域で効果が見える体験学習のポイントがいくつか見えてきました。

そのひとつが「働くことを楽しんでいられる大人や職場との関わりを持つこと」です。これは「働く＝お金のため」と思っている子どもにとつて、勤労観を大きく変化させる出会いとなる場合が多くあります。また「働く」ことが身近に感じられると日常的な教科学習と社会とのつながりにも関心が向くようになります。

平成十六年一月に公表された「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」の中でも、「特に職場体験やインターンシッ

プなどの体験活動には、勤労観、職業観の形成、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等様々な教育的効果が期待され、子どもたちに、現実に立脚した確かな認識をはぐくむ上で欠かすことのできないものである」としています。

仕事の疑似体験を通して「誰かのために」という視点を学ぶ

ものづくりや販売体験などから学べることのひとつには「〜(誰々)のために」という視点があります。

これらの体験の多くは「誰のために何を作るのか」「誰のために何を売るのか」を考えるとところからスタートします。「仕事は顧客のニーズがあつてこそ発生する(お客様に役立つことが大切)」という産業界の考え方を学ぶことで、「仕事とは、誰かのために何かしてあ

げること」だという新しい概念を知ることとなります。

「〜のために」という視点を掘り下げていくことで、人の価値観の多様性に気づいたり、人に対する思いやりの気持ちが芽生えたり、あるいはニーズを拾うことを通じてコミュニケーションの大切さに気づくことも多いようです。

またすべての仕事に「品質と納期」を問われるように、キャリア教育にも「課題と期日」を設け、真剣さを育むことも大切です。

グループ活動を通して「私」ではなく「私たち」という視点を学ぶ

品質の高さと納期にこだわると、子どもたちはグループで行う意味に気づいていきます。自分ひとりよりもグループ制作の方が早く、いいモノができるからです。

グループ活動には役割分担が大きいものです。「この役割をやりたい」と個人の要望が生まれても、さらに「チームで最大効果を出して課題を達成する」ためには、自分中心の視点から、チームみんなでの課題達成を大切にすると視点が求められます。「私」ではなく「私たちが」という広い視点。大人でも欠けがちなチームワークの視点ですが、体験を通して気づいていく子どももいるようです。

またグループ活動の中で子どもたちは「言いたいことを伝える大切さ」「相手の言葉を聞く大切さ」などコミュニケーション能力の必要性に気づいていきます。



全学年で取り組む！「ユーザー視点のものづくり」

長野県諏訪市の小中学校では、民間コーディーネーターのエプソニーテリジエンス株式会社の協力により「ユーザー視点のものづくり」授業をキャリア教育として実施。総合学習や図工、美術、技術で行われていたものづくりの授業に「自分以外のユーザーのため」という視点を取り入れることで、使う人(相手)の身になって考えるという発想法を身



出来上がった東屋は障害児の施設で使用してもらい意見を聞いた。大きな構造物を使う人の立場を考えて作る貴重な体験になった。

につけ、「仕事とは誰かの役に立つモノ」という職業観を醸成することを目標としている。

ものづくりのテーマは学校や学年ごとに異なる。低学年では、はさみやのりで作れるような簡単なものから始まり、学年が上がるにつれて道具や技術も高度になっていく。諏訪中学校では、学校近くの障害児の施設の生徒と交流し、施設から要望のあった休憩できる東屋(あずまや)を製作。二年がかりで構想図面や模型を作成し、専門知識をもつ「ものづくりサポーター」の指導を受けながら、木材の加工・組み立てを行った。ユーザーは学外だけとは限らず、六年生が在校生にアンケートを実施し、卒業記念品を作って贈ったり、逆に在校生が卒業生に贈ることもある。これによって、学年を超えたコミュニケーションも生まれるようになったという。

活動の中で欠かせないのが「ワークシート」。贈る相手の要望、構想図、工夫点などを書き込み、常にこれを見ながら作業を行わせる。その都度、

文章化することで自分の考えが明確になり、ふりかえりにも役立つ。人に贈るものだけに真剣に取り組むため、集中力が増すという効果も出ているという。この取り組みをより進めるために、諏訪市は教育特区を申請。平成二十年度より「相手意識に立つものづくり科」を新たな教科として全市の小中学校で採用することとなった。



相手を意識することで、色や形状を工夫するなど作るものが変わってくる。また相手に喜んでもらうことが達成感や満足感につながる。

体験のふりかえり、記憶の定着

「事後学習」効果的な実践のポイント

単なる体験で終わらせないためのふりかえり

地域と関わるキャリア教育は、教員と生徒だけの教科授業とは全く異なるため、子どもたちにとってはインパクトの強い体験となることが多いようです。「面白かった」「驚いた」「楽しかった」という感動体験としての感想を残す児童生徒は多くいます。

もちろんこうした情動は、それだけでも意味があるものですが「この体験から何を学んだのか」と、体験をふりかえらせる事後学習は大変有意義なものになります。また「記憶の定着」という意味でも、ふりかえりは役立ちます。何かができたという達成体験は、子どもにとっての大きな自信になります。達成体験の記憶を持って

いる子どもは、ものごとに向かって積極的に取り組んだり、困難なことにぶつかっても頑張り続けていく傾向にあるとも言われています。またうまくいかなかった経験も「なぜできなかったのか？」をふりかえり、自分の課題を見つけて自信ができれば、次への意欲や自信につながるとも考えられています。

個人で感想を書かせるだけでなく、グループでその感想を話し合うことや意見を聞き、自分とは全く違う感想やものの見方を知ること、「体験」に新しい意味を付加できます。

発表会・プレゼン大会は「コミュニケーションを学ぶ機会となる

感想文やアンケートやグループ討議でふりかえったことについて、

発表する機会を設けることも学びにつながるようです。

ひとつには明確なゴールができることで、真剣にがんばりぬくことが出来ます。また発表会の準備のために、資料づくりのIT学習やコミュニケーション学習を取り入れることもできます。

また発表では、過度にきれいな発表資料を作らせることよりも、自分の感動や考えたことをわかりやすく伝えさせることが大切です。コミュニケーションを学ぶ機会として、アナウンサーやDJの方を外務講師として招き、「人前で話す技術や姿勢、心構え」を教えるもらった学校もあります。

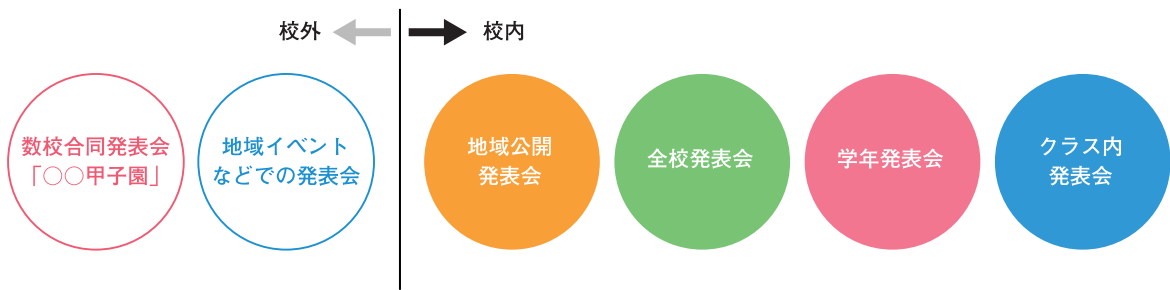
個人で発表するのかグループなのか、校外か校内か、関係者をどれくらい招待するか、講評をもらうか、順位をつけるか、などによって「発表会」自体の作り方は大きく変わります。

く変わります。発表会にどんな目的を持たせるのか、によって演出方法を選ぶことも可能です。

地域の方やPTAを発表会に招待することは、キャリア教育について深い理解を持つ支援者を増やしていくことになります。せっかくの発表の機会ですから、こうした「広報」の役割を持たせることもおすすめです。

また高学年の発表を、下の学年の子どもたちに見せておくことで「〇年生になったら、わたしたちもあの活動をするのだ」とキャリア教育に対する動機形成となる場合もあるようです。

発表会・プレゼンテーション大会（※）



※プレゼンテーションとは、企画提案などをする際に行われるコミュニケーションの一種であり、ただ言いたいことを言う一方通行の「演説」とは一線を画します。目的は相手に「これはいい!」と理解し納得・合意してもらうことであり、感情や思考に訴えることが大切です。



子どもたちは自分たちが調べた仕事をクラスで出し合い、さまざまな仕事が自分の身のまわりに存在していることに気づいた。

茨城県つくば市では小中高一貫カリキュラムとして、民間コーディネーター・有限会社つくばインキュベーターラボの協力のもと「つくば市キャリアパスポート事業」を実施している。小学三年生は「地域の人の「おしごと見学」を題材に、中学二年生は「職場体験」を通して学んだことを、自分の成長記録としてキャ

テレビの向こうの友達に、工夫を凝らしておしごと紹介！

リアポートにまとめて発表。発表では市内の全市立小中学校を結ぶテレビ会議システムを使い、学校間で互いの体験を共有できるようにしている。

テレビ会議での発表会は主に、市内でも異なる地区にある小学校間で行われ、同学年の子どもたちがグループになって地域の商店街の仕事や工場見学で学んだことなどを紹介し合う。発表の準備では、テレビ画面の大きさや時間といった制限を考慮した上で、「目の前にいない相手にどうやって伝えたら良いか」を子どもたちが教員と相談しながら発表方法を考えた。なかには店での体験を劇で再現したり、クイズ形式で進行したり、また実物のかわりの模型をつくったりするなど工夫を凝らして発表するグループもあり、見ている側の子どもたちも興味津々。「へえ、そんな仕事があるんだあ」と、全員が画面に釘付けになって他校の発表を聞き、積極的に質問をしていた。プログラムの実践を通し、子どもたちはさまざまな仕事が自分たちの



テレビの向こうにいる相手にうまく伝えるように、緊張しながらも生懸命大きな声を出して発表をした。

第4章

キャリア教育を地域に 根づかせていくために

●● 参考資料 PISA型学力とキャリア教育



PISA2006は、57カ国約40万人の15歳児を対象とした学習到達度調査です。義務教育終了段階の15歳児が持っている知識や技能を実生活のさまざまな場面で直面する課題にどの程度活用できるかを重視しています。

思考のプロセスの習得、概念の理解およびさまざまな状況でそれらを活かす力を重視しています。

キャリア教育と通じる部分もあるため、キャリア教育の「学習目標」としてPISAを活用する学校や地域もあります。

科学的リテラシー ●●●

科学的リテラシーは、個々人の次の能力に注目する。

- 疑問を認識し、新しい知識を獲得し、科学的な事象を説明し、科学が関連する諸問題について証拠に基づいた結論を導き出すための科学的知識とその活用。
- 科学の特徴的な諸側面を人間の知識と探究の一形態として理解すること。
- 科学とテクノロジーが我々の物質的、知的、文化的環境をいかに形作っているかを認識すること。
- 思慮深い一市民として、科学的な考えを持ち、科学が関連する諸問題に、自ら進んで関わること。

読解力及び数学的リテラシー ●●●

【1】読解力

読解力とは、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」である。

【2】数学的リテラシー

数学的リテラシーとは、「数学が世界で果たす役割を見つけ、理解し、現在及び将来の個人の生活、職業生活、友人や家族や親族との社会生活、建設的で関心を持った思慮深い市民としての生活において確実な数学的根拠にもとづき判断を行い、数学に携わる能力」である。

(6) 学習意欲の向上や学習習慣の確立

PISA の調査の結果からは、学力の重要な要素である学習意欲やねばり強く課題に取り組む態度自体に個人差が広がっているといった課題が認められる。

また、全国学力・学習状況調査においては、子どもたちの正答率の分布が二極化しているような状況は見られなかったが、一方で、特に中学校の数学を中心に、一部に都道府県や学校による平均正答率の差が見られた。

学習意欲や学習習慣に課題がある背景には、雇用環境の変化や社会の風潮等による将来への不安、様々な家庭環境などがあり、これらは学校教育のみで解決できるものではない。しかし、学校においては、次の(7)の自分に対する自信の欠如

も学習意欲が高まらないことの一因でもあることにも留意しつつ、子どもたちに対して、次の4つの観点を踏まえた対応が必要である。

第三は、観察・実験やレポートの作成、論述など体験的な学習、知識・技能を活用する学習や勤労観・職業観を育てるためのキャリア教育などを通じ、子どもたちが自らの将来について夢やあこがれをもったり、学ぶ意義を認識したりすることが必要である。また、職業資格、語学や漢字、歴史などについての各種検定への取組など具体的な目標設定の工夫も重要である。

(中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」一部抜粋)

キャリア教育を改善し、 継続していく

ふりかえりや調査をもとに
目標の確認・変更を行い
カリキュラムを改善する

キャリア教育で大切なことは継続していくことです。この「キャリア教育の継続」にはふたつ側面があります。

ひとつは、学校内で「キャリア教育のカリキュラム」を改善しながら継続していくことです。カリキュラムが終了したら、子どもたちや保護者のアンケートデータや感想などを集めて分析・検証したり、コーディネーターや外部講師の方々などと授業内容やそこでできごとをふりかえり、次年度のキャリア教育を考えていきましょう。

一年目は誰にとっても初めての経験であるため、途中で方向性を修正しながら学習を進めていくと

いうことも難しいのではないかと思います。一年たって落ち着いてふりかえり、次年度のキャリア教育を組み立て直すことは大切です。

新しい試みを付加させるだけでなく、冗長になりがちな部分は省いてメリハリつけることも大切です。あるいは必要となる煩雑な事務作業は軽減したり、誰かに支援してもらいなどの工夫をすることで、教員がより学習づくりに集中できる環境をつくることも大切です。

また同じカリキュラムを次の年の同学年にそのまま使っても、同じ効果が出ない場合もあります。学年によって子どもたちの様子も違えば、課題も違います。基本路線は継続しながらも、その学年にあわせて目標やカリキュラムを修正していくことが大切なようです。

小中高の連携した
キャリア教育の
実現に向けて

そもそもひとつの「継続」は、「タテの継続・連携」です。子どもの健全な成長という観点で見ると、発達段階にあわせて小中高が連携しながら積み上げていくキャリア教育が大切となります。

この継続を実施していくためには、学校の体制づくりや地域で育てていきたい子ども像の共有など課題は多く残ります。キャリア教育が浸透した後、次の大きな課題として、各地でさまざまな試みが模索されています。

キャリア教育を継続・実践していく中で「キャリア教育こそが自校の特徴です」「キャリア教育は新しい伝統です」と校長が語る学校が登場してきました。

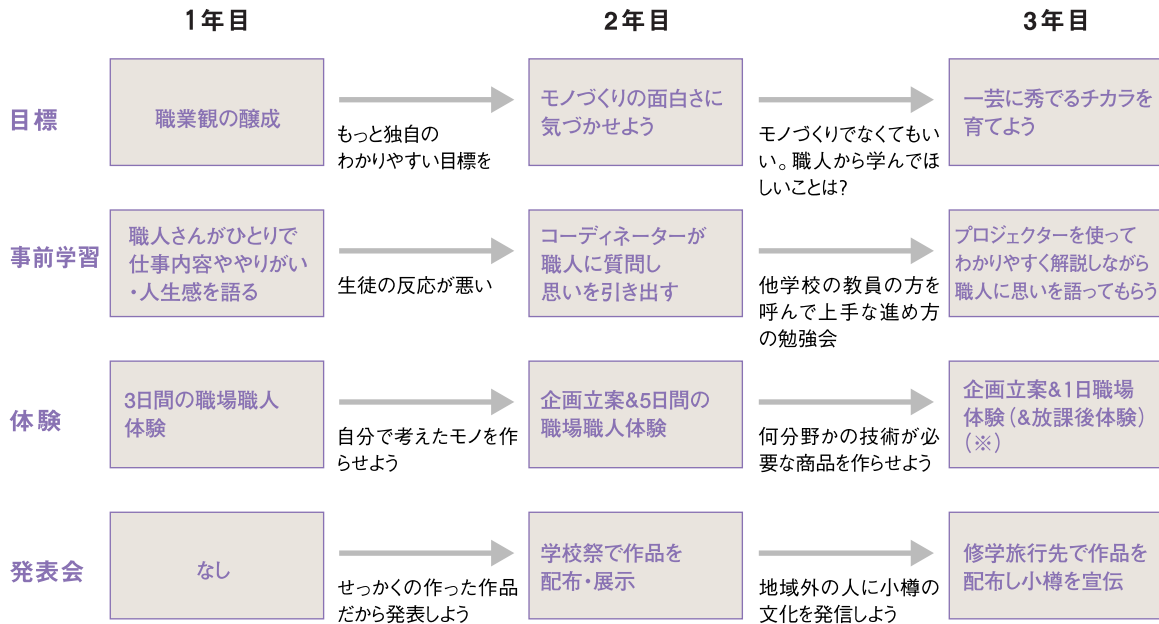
継続していく中で、確かな効果が生まれ、子どもたちの変化を感じ取っている教員もいます。またキャリア教育と学力との関係性は証明されていますが、キャリア教育を継続することにより「学力が上がった」「学びへの姿勢が高まった」と感じる学校も少なくないようです。

「キャリア教育」の可能性に気づくと、教員も変わりはじめるといいます。社会科の時間に自分の人脈で外部講師を呼んできたり、国語科でディスカッションの時間を多く設けるようになるなどの工夫をするようになった教員の方も少なくありません。継続していくことでさまざまな効果が期待できるのです。

職業体験から「企画立案・ものづくり」学習へ改善

北海道小樽市の中学校で2年生に対して「職人の仕事」をテーマに行われたキャリア教育。1年目は「職人仕事を体験する職場体験」であったが、2年目、3年目とキャリア教育を経験していく中で「もっとわかりやすく」「もっとチカラが磨ける体験を」と、学校側とコーディネーターが考えながら改善していった。3年目にはユニークで壮大なカリキュラムに変貌を遂げ、職人と生徒が長時間関わることで「師匠と弟子」に近い関係が築けるまでになった。

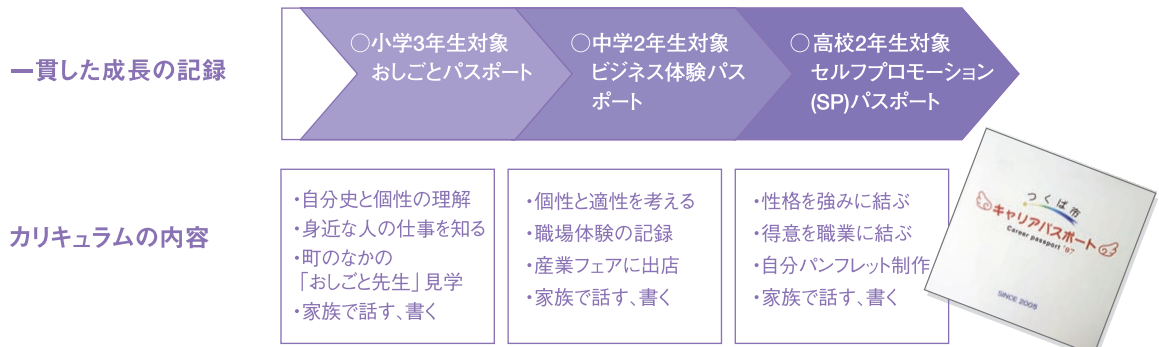
継続しながら
カリキュラムを
改善していく



小中高のキャリア教育の足あとを残す

茨城県つくば市のモデル校では、「キャリアパスポート」というオリジナル教材を使ったキャリア教育を実施している。1冊の「キャリアパスポート」は3部構成になっており、小中高等学校時代のキャリア教育を通して学んだことを「キャリアパスポート」に書きとめられるようになっている。就職活動などの節目のときに、自分の成長を実感し、進路の目標や動機を確認できる。関わっているまわりの大人たちも、子どもたちの成長の過程を知る材料として役立てることができる。

ひとりひとりへの
キャリア教育を
経年継続していく



効果的な広報で協力者を増やす

さまざまな方法で
知らせていくことで
ネットワークが広がる

キャリア教育には、保護者も含め多くの協力者が必要です。今年の協力者に「来年も協力しよう」と感じてもらい、新しい協力者を増やしていく仕組みがあると、次年度以降もスムーズに継続していきます。

そのためには、さまざまな方法で、キャリア教育の取り組みやその結果などについて広報していくことが大変有効です。

学校には保護者向けの「広報物」がいくつか存在しています。「学校だより」「学年だより」、ほかにも「学級新聞」などを発行している教員の方もいます。こうした広報物を利用して、ことあるごとに「キャリア教育」の取り組みを伝えていきましょう。

広報の際のポイントは「いつ何があったか」だけではなく、「何を目的にしているか」、あるいはそれによって「子どもからどんな反応があったか」「どんな風に子どもが変わったか」という効果や物語を掲載していくことです。保護者は、学校が主語となる話ではなく、子どもが主語となる話を聞きたいのです。

また、子どもにとってよいものだと判断した保護者からクチコミで他学年の保護者にも伝わり、今ではものづくりや販売体験の時には保護者が大活躍してくれるようになった学校もあります。

またインターネットでの広報も大変有効です。最近はやりのブログ（インターネット上での日記形式）による広報は、以前の情報を掲載したまま新しい情報を書き込める利点があります。コメントなども

つけられますので、協力者の方がご自分の感想などをつけくわえていくこともできます。

新聞・テレビ・ラジオなどのマスコミも有効な広報手段となります。キャリア教育がまだ珍しい地域では、ニュースとして取り上げられることもあるでしょう。販売体験や発表会など大きなイベントがある時に情報を流すとよいでしょう。

**発表会や報告会も
地域に根づかせるための
有効な広報手段です**

たとえば企画立案型のプロジェクトでは晴れ舞台となるプレゼンテーション大会、あるいはキャリア教育をふりかえっての発表会なども広報の大きな手段となります。

全校児童生徒の前で行えば、下級生たちに対す一種の期待感

を持たせることができます。また、

保護者や地域の方にも見学を促すとともに、実際に外部講師などの形で関わっていただいた方々をご招待してはいかがでしょうか。

子どもたちが自分の言葉でいきいきと発表する姿は、関わった人たちに感動を与えます。

またイベントへの出品やお祭りなどを活用した販売体験などを通して広報していくことも有効です。

地域の人々は、教員の方々が思っている以上に教育に対して関心を持っています。新しい教育の芽吹きを伝えるだけでも、地域の人にはうれしいニュースでしょう。また草の根的に広報していくことが、いずれ学校側から声をかけた時、快く協力していただける協力者の獲得につながっていくのかもしれない。また校外の人の目から、キャリア教育を見直すことで、改善につながられます。



★Web・ブログ

授業の内容や、子どもたちの反応についてブログで掲載。リアルタイムで保護者や関係者に広報できるだけでなく、キャリア教育の記録として残しておく。ブログを書く学校が複数校集まれば、情報交換をしたり成功事例などを比較的容易に取り入れることができる。

★イベント参加

三鷹市の「アニメづくり」をテーマにしたプロジェクトでは、「三鷹の森アニメフェスタ」という市のイベントで子どもたちの作ったアニメを上映すると共にパネルで活動内容展示。こうした広報活動により、学校の卒業生などが次年度のキャリア教育の協力者になってくれた例も。

★マスコミ利用

キャリア教育の取り組みを行っている学校は、まださほど多くはないので新聞や地方局のテレビやラジオなどが取り上げてくれる場合もある。授業の何かマカをマスコミを含め一般公開するように決めておく方法も有効なようだ。

★広報誌

学校でキャリア教育の報告広報誌を制作。校内で配布するだけでなく、新入生の保護者に配布したり、協力していただいた方々にも配布。職場体験の受け入れ企業名を掲載すると、企業側からの反応がいい。お金をかけずにワードなどで作成も可能。



★のぼり・ステッカー

職場体験を受け入れてくれた商店や企業に「のぼり」や「ステッカー」を渡した学校もある。のぼりやステッカーを使って「教育に協力的な会社」であることを地域にアピールしてもらえる。普通は「見えない貢献」が、こういう形で「見える」ようになると、企業の受け入れ意欲は高まる。



社会・地域・企業との 継続的なネットワークを作りましょう

子どもたちの 教育に対して 社会の関心が高まっています

この複雑な社会の中で、次世代を担う子どもたちを教育・育成することは大変な難しい仕事だということ、社会や地域、企業は分かっています。学校の教員の方々に大きな負担がかかっていることも、国民の多くが理解しています。

平成二十年一月に最終報告書を提出した教育再生会議では「社会総がかりで教育再生を」をスローガンとして掲げました。社会全体が教育に関心を持ち、教育を支援しようという働きかけでした。

「まちおこし」の視点から、教育に関わろうと考えている地域や地元企業も多く存在します。目的は次世代の地域の発展だけではないようです。キャリア教育を通して

地域の人々が集まり、一緒に活動していくこと自体が地域の活性化を呼び起こしている場合もあるようです。

経済界でも教育に積極的に関わろうとする機運が芽生えています。企業の社会貢献として、企業やビジネスマンが教育を支援しはじめています。また近年では「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の重要性も叫ばれています。

地域や企業が参加するキャリア教育を育み支援する土壌は、いま少しずつではじめています。

「教育への協力を依頼する」「依頼を受ける」という関係ではなく、「地域全体で教育を担う人々を支援していく」「地域全体で子どもたちを育てる」という意識改革が、すべての人に求められているのかもしれません。

地域ボランティアなど 教育を支えてくれる 継続的な輪を作ろう

キャリア教育を継続していくためには、こうした社会・地域・企業の協力は大切です。

教育に関心があり、機会さえあれば協力したいと考えている地域の方々も意外に多いものです。

そうした方々に必要な研修などを受けていただき、講師や支援者として活動していただくようにするのにもキャリア教育を継続していくためにはひとつの方法です。何らかの責任ある役割を担ってもらうことは、関わる地域の人にとっても「やりがい」などにつながるようです。実際にPTAボランティアとしてキャリア教育に参加していた保護者が、それをきっかけに教育に興味をもち、自分の子ども

が卒業した後も継続的に活動してくれるなどの例もあります。学校や自治体が教育参加の入口を積極的に作ることで、その後の継続性や広がりも期待できるのではないのでしょうか。

教育基本法（平成18年12月22日）

（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）

第十三条

学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。

教育再生会議～第三次報告～「社会総がかりで教育再生を」

～学校、家庭、地域、企業、団体、メディア、行政が一体となって、全ての子供のために公教育を再生する～
（平成19年12月25日）（※一部抜粋）

6. 社会総がかりでの子供、若者、家庭への支援 ～青少年を健全に育成する仕組みと環境を～
（3）幼児教育を充実する、子育て家庭、親の学びを地域で支援する

子供が小さい間は家族が夕食を囲むことができる「ノー残業デー」や、授業参観や学校行事に保護者が参加できる「学校行事休暇」などを設ける企業を、国や自治体が支援するなど、子育て世代の育児を支援するための環境づくり（ワーク・ライフ・バランス）を推進する。

日本商工会議所「教育再生に関する意見」

～商工会議所は社会総がかりでの教育の中心的な役割を担う～（平成19年4月19日）（※一部抜粋）

（3）企業の役割

企業も社会的責任という観点のみならず、将来のわが国の経済や社会を支える担い手の育成に最大限尽力する必要がある。企業にとっても、教育支援活動は、将来的に次代を担う優秀な人材に自社を選んでもらえるよう、魅力あるメッセージを子どもや保護者や教員に発信していく手段として有効である。また、少子高齢化に伴う労働力不足が顕在化する中、社会人としての基礎力や厳しい国際競争に打ち克てる高いコミュニケーション能力や創造性・実践力のある優秀な人材を育成していくことが、企業は勿論のこと、日本経済自体の底上げのために必要である。

IV. 商工会議所の役割 ～社会総がかりでの教育再生の中核としての役割を担う～

1. 社会総がかりでの教育再生の中核として、教育支援活動を支援する（企業における教育支援活動の推進）
～キャリア教育等の支援、学校と企業・地域間のコーディネーター機能の強化～

商工会議所は、商工業の発展を通じて地域社会の発展に寄与することが使命である。そのため、市民、企業、NPO法人、各種団体による社会総がかりの教育再生の取組みの中心的な役割を担い、既に様々な教育支援活動を実施しているが（別添「商工会議所教育支援活動一覧」参照）、今後、「放課後子どもプラン」「学校へ行こう運動」、「地域親づくり」等の活動のオーガナイザー、或いはコーディネーターとしての役割を積極的に担っていくこととする。

日本経団連「企業行動憲章実行の手引き」の改訂（平成19年4月）（※一部抜粋）

4-1 ワーク・ライフ・バランスを推進するとともに、多様な人材の就労を可能とする人事・処遇制度を構築する。

（3）経営トップのリーダーシップ発揮と職場の意識改革

経営トップが柔軟な働き方と多様な人材の就労参加を重要な経営上の基本方針の一つとして位置づけ、少子化、人口減少社会にも対応できるようにする。その一環として、従業員が育児や学校教育に、積極的に参画する機運を醸成する。また、職場の意識改革を徹底し、メリハリのある働き方を実現する。

内閣府「ワーク・ライフ・バランス推進官民トップ会議」による「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」の制定（平成19年12月）（※一部抜粋、改訂）

<仕事と生活の調和推進のための行動指針>

本行動指針は「仕事と生活の調和が実現した社会」を実現するため、企業や働く者、国民の効果的な取組、国や地方公共団体の施策の方針を定める。「仕事と生活の調和が実現した社会の姿」は具体的な3つの社会の実現である。

- ① 就労による経済的自立が可能な社会
・若者が学校から職業に円滑に移行できること。
- ② 健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会
- ③ 多様な働き方・生き方が選択できる社会

社会・地域・企業との継続的ネットワークの事例

独自の資格認定で学校の取り組みを後押し

温泉・景観・歴史など名高い観光地があり、楽器や自動車などの「ものづくり」産業でも有名な静岡県。この地域特性を活かし、静岡県全域では、県庁や県教育委員会の全面的なバックアップ体制のもと、小中高等学校を対象に「観光」「ものづくり」をテーマにしたキャリア教育が行われている。



技術支援のため、企業から講師を招いて授業を実施。高度な専門技術に触れることが、子どもたちの技術の向上・習得へとつながった。

この地域ではカリキュラムの実施にあたって、地域の住民や企業OB等が活躍し、各学校で子どもたちに専門的な技術や知識を提供している。

また産業界との連携も強く、メーカーが材料費を負担したり、子どもたちに設計図や企画書の実技指導などを行っている。

各学校に合ったキャリア教育を効果的に実施するために、企業や専門性を有する地域の方、教員や企業のOBを「地域サポーター」として組織し、各キャリア教育実施学校に派遣。このプロジェクトのねらい、キャリア教育の意義、各学校の特色などを理解してもらった上で、指導・助言にあたってもらった。さらにキャリア教育普及に活かすため「地域サポーター養成講座」を実施。この講座を修了した方や、二年間にわたり継続して「地域サポーター」として顕著に尽力した方を「しずおかキャリア教育マイスター」に認定。今後、キャリア教育普及の中核となって実施を考えている学校のプログラム考案、講師の紹介といった「キャリア教育アドバイザー」的な役で活躍を

してもらう計画である。こうした地域サポーターを活用することで、各学校の教員が企画したキャリア教育に対してその学校に合った協力体制ができていく。子どもたちはプロの話に熱心に耳を傾け、積極的に質問や受け答えをする前向きな姿が増えた。また、支援者を尊重するなど人との関わり方も上手くできるようになった。



イベントに参加し、お茶や椎茸など地域の特産品を紹介。実物や写真を使うなど、表現方法を工夫することで相手により伝わることを学んだ。

地域サポーター養成講座	
内容	<p>① 座学 ・学校教育（総合的な学習の時間について、学習指導法等）やキャリア教育について学ぶ。 ・フリーター、ニートについて学ぶ。</p> <p>② 演習 ・モデル校の学習プログラム検討に参加する。</p> <p>③ 見学 ・モデル校の授業を見学する。</p> <p>④ 実習 ・モデル校の授業において、グループ活動や地域見学等、生徒の活動を支援する。</p> <p>⑤ 発表 ・学習したことをまとめ発表する。</p>
回数	10回
修了者	しずおかキャリア教育マイスターに認定

保護者やボランティアなどの地域人材を積極的に活用

広島県三次市のすべての小学校では、民間コーディネーター・株式会社ウイール・シードの協力のもと、国（チーム）対抗で楽しみながら世界経済や社会の仕組みを学ぶビジネスゲームを使った「仕事疑似体験」カリキュラムを実施している。

このゲームはクラス単位で楽しめるが、担任ひとりでは実施できない。そのため「授業サポーター」制度を導入し、保護者に授業サポーターとして授業に協力してもらっている。

また地域ボランティアを効果的に活用するため「キャリアアドバイザー登録制度」を設立。職業・生き方に関する講話をするゲストティーチャー、ゲームの進行役として講師ができる人材を募集した。ゲームの進行役となる方には三日間講習に参加していただき、プログラムの理解とファシリテーション訓練を受けてもらうなどキャリア教育への本格的な理解を求めた。



教室をひとつの世界に見立て、国対抗で一番豊かな国になることを目指す。ゲームの細かな仕掛けが子どもの豊かな発想や行動特性を引き出した。

もらったのキャリア教育には、子どもたちの変化だけではない効果がある。授業サポーターとなった保護者は、子どもと共通の話題ができることで親子のコミュニケーションが増え、教員との距離が縮まるというメリットを感じているようだ。初年度に経験し、次年度も自分の子ども以外のクラスに対してもボランティアとして参加を希望する保護者も多い。また地域の横のつながりが強い保護者をネットワークに組み入れることにより、カリキュラムの地域への理解が深くなっているという。

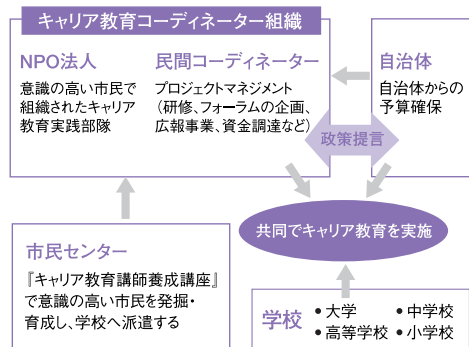
市民が手と手を取り合い、「自分づくり教育」の拡大をめざす

宮城県仙台市では仙台市教育委員会が中心となり、キャリア教育を「自分づくり教育」と位置づけ、教育テーマの最優先課題として取り組んでいる。カリキュラムのプランニングは民間コーディネーター・ハリウコミュニケーションズ株式会社が、市内の小中学校を中心に地域のネットワークを活かした教育プログラムを実施。実際の授業実践は教育に関心のある市民たちが立ち上げたNPO法人『まなびのたねネットワーク』が行っている。また市民センターでは「キャリア教育講師養成講座」を開催、意識の高い市民を発掘してファシリテーターを育成し、継続性のあるキャリア教育をめざしている。

カリキュラムの特徴は、外部のコーディネーターと教員が一緒になって、自分の家族や友人、地域とのネットワークの中で子どもたちに「仕事と自立」について考えさせること。「仕事とは」と一方的に教え込むのではなく、ワークショップを取り入れた参加型・

双方向型の授業を構築している。二人組になってお互いの得意分野や性格を分析しながら、向いている職業の推薦状を作って発表する授業や、フリーターと正社員の違いを考える授業、自分たちが住みやすい街づくりのための事業を考える授業などがある。

仙台市教育委員会は今後も地域のネットワークを維持・強化し、キャリア教育のさらなる拡大を目指している。



企業にも教育ネットワークに関わってもらいましょう

企業にとっても
地域の子どもは
次世代につながる宝です

いきいきと働く大人たちとの出会いは、「働く」ことの意味がよく理解できていない子どもたちにとって非常に大切なことです。多くのキャリア教育カリキュラムの中には、働く大人が外部講師として「仕事について語る」プログラムが登場します。

企業で働く大人が教育に関わるためには、その所属する企業の協力は不可欠です。逆に言うと「企業という組織」に教育ネットワークに入ってもらうことができれば、そこで働くさまざまな価値観を持つさまざまな職種の人たちに教育に関わってもらうことが可能となるのです。

一方、企業側にも教育に関わろうとする動きがあります。

「CSR（コーポレート・ソーシャル・レスポンスビリティ）＝企業の社会的責任」という言葉をご存じでしょうか。企業が自らの利益追求だけでなく、社会を構成する一員として持続可能な社会をつくるために地域や環境に配慮した経営・活動を行うことを意味します。このCSRの一環として「教育」に関わりはじめている企業があるのです。いわば社会貢献活動のひとつです。

けれども単なる社会貢献だけではないようです。実際に教育に関わっている企業からは「子どもたちに自分の仕事を語ることで社員の働く意欲が高まった」「子どもたちの会社見学をきっかけに社内清掃への関心が高まった」など、自社も何らかのメリットを感じているという声が聞こえてきます。また地域を支える次世代の育成

は、企業にとっても将来的な人員計画に大きな影響を持つもの。自立した優秀な働き手が地元で育つことは、産業の担い手を増やすという意味で大変有意義なのです。

遠慮しすぎず
甘えすぎず
信頼関係を結びましょう

企業に協力してもらおう場合、「お忙しい中お越しいただいているのだから」と、学校側が遠慮しすぎてしまう場合があるようです。何度も繰り返し述べているように、キャリア教育には目的・目標があります。目標を共有する対等な関係であることが大切です。

ですから企業に依頼する際には、教育の目的と、果たして欲しい役割や話してほしい内容などをしっかりと伝えておきましょう。大企業の中には教育パッケージ

を開発している場合もありますが、自校にあうようにアレンジを依頼してもいいでしょう。ただし企業によって宣伝色を強く出し過ぎたり、逆に学校に遠慮して特色を発揮しきれない企業もあります。長く続けていくためには、お互いによく話し合っって信頼関係を結ぶことが大切です。

遠慮しすぎず、甘えすぎずは教育に関わるすべての支援者に対する基本姿勢と同じです。

授業終了後には学校側と企業側で「ふりかえり」を行い、課題などがあれば早めに解決しておくのがよいでしょう。

お世話になった企業の方を招いて、発表会を開くことも感謝の気持ちを伝え、次につなげていく重要なステップです。

「CSR活動」支出比中、首位に!

日本経団連は毎年、主に経団連会員企業を対象に「社会貢献活動実績調査」を実施しています。幅広いCSR活動の中でも「教育・社会教育」分野は年々注目を集めており、2005年度の調査ではトップとなりました。

順位	項目	前年度順位
1	教育・社会教育	前年度順位3
2	文化・芸術	前年度順位1
3	学術・研究	前年度順位2
4	環境	前年度順位4
5	地域社会の活動	前年度順位5

2005年度社会貢献活動実績調査(社団法人日本経団連体連合会)中、「分野別の社会貢献活動支出比率」より作成

教育CSRフォーラムが開催されました



2007年11月29日、産業界が教育活動に参加することの意義・必要性を考える「教育CSRフォーラム」が開催されました(主催:経済産業省)。企業が教育に協力することの意義やメリット、また教育現場のさまざまな現状など、産業界・教育界それぞれの観点や立場から意見交換が行われました。当日は教員、企業のCSR担当者をはじめ、企業と学校の仲介役として教育活動を支援するコーディネーター、社会人OB、学生などが参加し、教育CSRに対する関心の高さが感じられたフォーラムとなりました。

企業はこんな形でも学校教育に協力しています!

理科実験
教室
プロジェクト

経済産業省では、文部科学省との連携の下、地元産業界の技術者やOB等を活用して、子どもたちが学ぶ理科と実社会を結びつけ、子どもの興味を引き出す活きた理科授業の実施を支援するため、平成19年度より、「理科実験教室プロジェクト」を実施しています。この事業では、小学校5年生・6年生の理科の授業を対象に、単元に基づいた、分かりやすい理科実験プログラムを作成し、地域の教育委員会と連携を取りつつ、学校の先生と企業講師が共同して実施する理科授業を支援しています。



三鷹市では、企業講師を招いて、小学校6年生の理科の単元「大地のつくりと変化」の授業が実施されました。子どもたちは、実際のボーリング調査と同じ原理を使ったミニチュアボーリングマシンに興味津々。安全な建物を建てるためには、どんな地層が理想なのか?子どもたち自身が考えとともに、用意された4種類の土の固さが自分たちの予想通りか調査しました。



広島市では、企業講師を招いて、小学校5年生の理科の単元「てんびんとてこ」の授業が実施されました。担任から「支点・力点・作用点」の学習を復習した後、企業講師から実際に「てこの原理」が応用された道具(くぎぬき・ピンセット)を説明。さらに、「ステープラ」等を体験し、「てこの原理」が誰でも便利に使える製品開発へ活かされていることを実感しました。

ものづくりの歴史や思いを知ってもらいたい

■ 取り組みの概要

キャリア教育モデル事業「ドリカムスクール〜Academic〜」に他社とともに参加し、子どもたちの夢創造・生きるチカラの醸成につながるよう授業への講師派遣を開始。またパナソニックセンター等の同社施設を活かした課外授業の支援などを行う。

教育CSRに取り組んで分かった 驚き・喜び・発見!

社会や働くことへの興味・関心を深めさせるため、ものづくりの歴史や思いを語るとともに、子どもたちに夢の新商品の企画と販売プランを立ててもらいました。企画内容はもちろん、発表の仕方も自由。約1カ月後のプレゼンは予想以上で、斬新な創作力はもとより、BGMを流したり、ドラマ仕立てにしたりとその表現力にも圧倒されました。子どもたちから「とらわれない心」で発想する大切さを見つめ直すいい機会をもらいました。

社員の声

・子どもたちの新鮮な感覚に大いに良い刺激を頂き、もっと広い視点で商品を企画していく必要性を実感しました。

企業DATA ■ 社員数/約32万8000名 ■ 業種/総合エレクトロニクスメーカー



子どもの声

・1つの家電製品に何百人の人の力が必要だということを、初めて知りました。大切にしたいです。(小学5年生)

・将来を見据えて考えること、プレゼンの経験、人の話をしっかり聞くことが勉強できてよかったと思います。子どもたちのいい刺激になりました。(教員)

ものづくり体験を通して協力する楽しさを知る

■ 取り組みの概要

主に中高生を対象に、礼儀やマナーの話を含め、現場の人たちと働く職場体験プログラムを実施。平成19年からは中堅社員教育のプログラムの一環として小学校に社員を派遣し、「ものづくり」などをテーマに授業を行う。その他、工場見学も毎年受け入れている。

教育CSRに取り組んで分かった 驚き・喜び・発見!

「学校では競い合いながら共同作業をする機会が少ない」と先生から伺いました。そこで協力する楽しさを知ってもらうために、グループ同士で「箱作りゲーム」を実施。いつもは大人しい子が先頭に立って参加したり、リーダーがうまく役割分担したりと子どもたちの意外な一面を発見できました。一方、社員は子どもに教えることの難しさを知り、コミュニケーションの重要性を再認識するいい機会になったようです。

社員の声

・簡単なことでも教えることってとても難しい。これまでの部下への指導もきちんと伝わっていたのだろうかと思いましたが、工場見学の受け入れ準備のため、小学生の目線で職場を点検したら、普段気づかない危険箇所が発見できました。

企業DATA ■ 社員数/1173名 ■ 業種/分電盤等の電器機械製造業



子どもの声

・みんなで協力することって大事だと思った。製品として売するには、速さだけでなく正確さも必要だと分かった。(小学5年生)

・グループワークを通して、子どもたちのいつもと違った一面を見ることができ、新鮮でした。(教員)

地元の産業を見直そう

■ 取り組みの概要

約10年前より地場産業のアピールと後継者育成を目指し、地元の小中高等学校を中心に工場見学やインターシップを実施。昨年から生徒の大半が梅農家出身という中学校で「地場産業を考える」授業の一環として梅業界の現状、働く苦労、展望について講義。

教育CSRに取り組んで分かった 驚き・喜び・発見!

梅農家の後継者が多い学校での講演。梅産業についてどのような思いを持っているか、非常に関心がありました。授業当日、生徒からは思いのほか悲観的な意見が多く、食文化の変化により進む梅干離れや、梅の価格下落に不安を感じているようでした。そこで当社の梅干を生徒全員で試食。低塩で食べやすく加工した梅干は大好評で、初めて口にする生徒もいたほど。この機会により商品開発における梅産業の可能性と、地場産業について見つめ直すことができました。

社員の声

・今回は「地場産業を考える」授業の一部をお手伝いさせて頂いたわけですが、最後の研究発表会を観覧させていただいた際、梅の新商品のアイデアや新しい食べ方の提案など、生徒たちの前向きな取り組みが感じられ嬉しかったです。

企業DATA ■ 社員数/約195名 ■ 業種/食品メーカー(梅干・梅酒・梅関連商品の製造・販売)



子どもの声

・梅の仕事の聞き、現場にはまだまだ私たちの知らない努力があること、私たちは梅に育てられ、梅の町を担う一員なんだと思いました。(中学3年生)

・授業で得た仕事の苦労・充実感を少しでも人生に役立ててくれればと思います。(保護者)

21世紀の自転車企画しよう

■ 取り組みの概要

「21世紀の自転車を企画してほしい」。授業は児童・生徒へミッションを与えることからスタート。何より本物に触れてもらうことが一番だと、校内に実際の商品を搬入して工夫点を説明。また企画書作りのレクチャーや、発表会では企画の審査も行った。

教育CSRに取り組んで分かった 驚き・喜び・発見!

「物事を思考し、伝え、評価し、その評価を次の思考に活かす力を子どもたちに身につけさせたい」。これを授業の狙いにしてきました。当初は実際に自転車に触れて知ること、子どもたちが自転車に興味を持ち、子どもらしい発想で考えてくれたら充分だと思っていたんです。ところがその発想力は想像以上。懸命に取り組む姿に感動しました。プレゼンテーションでは試作品を手に発表するグループ、寸劇を取り入れるチームなど、発表方法にもこだわっていたことも印象的でした。

社員の声

・自転車の周りに「めっちゃカッコいい!乗りたい!」と言って、目を輝かせながら集まる子どもたち。「カッコええものつくろぞ!」と新たな意欲が湧いてきました。

企業DATA ■ 社員数/7711名(連結) ■ 業種/自転車部品、釣具、冷間鍛造品及びスノーボード用品の製造販売



子どもの声

・授業では自転車を作るだけでなく考える力・話す力・解決する力をもらいました。(小学6年生)

・授業で学んだこと。それはどんなちっぽけな物でも人が人のために考えて、作られているということ。人の意見を聞いて、自分で考えて行動するうちに自信ができました。(小学6年生)

お菓子づくりを通して地域を好きになってもらおう

■ 取り組みの概要

平成17年から、小学校5年生を対象にした「お菓子の企画」の授業に参加。学校でのお菓子づくり体験指導のほか、地域オリジナルのお菓子を考案する授業では、企画発表会の審査員や入賞作品の試作等を行う。また、中高生向けに職場体験の受け入れも実施。

教育CSRに取り組んで分かった 驚き・喜び・発見!

一番の目的は「お菓子づくりを通して、子どもたちに地域を好きになってもらう」こと。このため授業では、地域の食材や名産品を使い、そのルーツや文化を紹介しながら、実際のお菓子づくりを見せています。オープンやスチーマーの熱でさまざまな形に変化していく様子に子どもたちは興味津々。自分たちにとっては日常的な技術でも、子どもたちが歓声をあげて驚く姿がうれしく、改めて仕事への誇りを感じました。でも、彼らの一番の楽しみは試食だったみたいです(笑)。

社員の声

・作り手本位で商品を考えてしまいがちだが、子どもたちの考えに触れて、これではいけないと反省。気持ちを新たにできた。

企業DATA ■ 社員数/約25名 ■ 業種/和洋菓子製造販売業



子どもの声

・地元を代表する名産品をもっと増やしていきたいと思いました。(小学5年生)

・最初は丸い練り物が熱や蒸気を加えて、いろんな形の和菓子になっていくのに驚いた。(小学5年生)

職場体験で接客の難しさ、面白さを学ぶ

■ 取り組みの概要

サービスをする立場から仕事を知ってもらおうと、中高生を対象とした接客業の職場体験を実施。2、3日間で挨拶、接客マナー、お好み焼き作り、片付けなどを教える。また社長がゲスト講師として学校に向いて、自らの経験をもとに話をすることも。

教育CSRに取り組んで分かった 驚き・喜び・発見!

初日は緊張していた子どもたちも、2日目は慣れてきて生き生きと業務に取り組んでいました。教える時は楽しく、そして時には厳しく、簡単なことでも分かりやすく説明するよう心がけました。教え方に配慮することが、従業員の学びや成長にもつながったようです。体験終了後、送られてきた子どもたちの感想にもびっくり! 独自の視点で仕事を捉え、学ぶ感性の素晴らしさにただ驚かされましたよ。

社員の声

・子どもたちに教えることで、逆に接客の難しさと大切さを再確認でき、勉強になりました。

企業DATA ■ 社員数/約300名 ■ 業種/飲食業(お好み焼き)、イベント業、レンタル業



子どもの声

・今まで持っていた考えが変わり、仕事は苦しいだけじゃない、楽しいんだ!と感じることができました。(高校2年生)

・お水をサービスした時の「ありがとう」というお客様の言葉がすごく嬉しくて、こういうところがやりがいがあるのかなと感じました。(高校2年生)

第5章

民間コーディネーター という存在



●● 参考資料

ひと足早くキャリア教育を経験した僕から、
いまから始めようとする先生方へ



僕も最初は、何からやっていいのかわかりませんでした。

「教務主任として総合学習でキャリア教育を進めるように」と言われて、仕方ないから、まずはキャリア教育の研修会に行ったわけです。そこでワークショップを初めて経験してオモシロイと思った。僕らは、自分がオモシロイと思ったことを子どもたちに伝えることはプロですから。僕ら教員が本当に面白ければ、面白い教育ができると僕は信じています。

自分なりのプランを考えて、A4用紙1枚に三学年分の簡単な計画を書いて職員会議に出して。ここからスタートでした。

ひとりでいいから「それ、すごいやん!」と盛り上がって、ひっぱっていく教員がいてピラミッドができれば、あとは走りながらなんとかなるものです。

よく言われることですが、キャリア教育には「理念や目標」が大切。これは事実。でも最初はウチでも単なるお題目みたいなものでした。ただ進めていくと、やっぱり理念や目標は大事なんだってことが徐々にわかってきます。理念や目標さえ変わらなければ、カリキュラムなんてものはその年の担当の教員が変えていけばいい。逆に理念や目標がはっきりすることで、教員が自由につくっていただけるのです。



ウチでは2年生の職場体験をする際には、受け入れ交渉もすべて生徒たちにさせています。自分で企業を探して、自分で電話で約束を取って、自分で交渉するのです。1人は寂しいけれど、3人集まると甘えが出る。だから同じ企業も一緒に行けるのは2人までと決めて。僕らは電話の横に一緒にいてやって、何度も断られる生徒に最後までつきあって。交渉するのもチャレンジ体験の延長だし、うまく交渉できればそれだけで子どもにとっては大きな経験です。

ウチで職場体験を始める前に、他の学校の教員に聞いたら「職場探しは本当に大変だ」という。だったらそこはあえて子どもの学びにしよう、と。

そのかわり企業からお叱りの電話がかかってくると、僕らが飛んでいく。「子どもたちが直接電話をかけてきた。学校からひとこともないとは何だ!」。まずはお詫びし、それも教育の一環なんだと理解していただくのが教員の役目。怒られることくらいは、覚悟の上です。けれども、子どもたちは自分が本当に行きたいところを探しているから、職場体験でも本当によく働く。

アンケートで「来年も受け入れていただけますか?」と企業に聞いていますが、中には「来年はダメ」と言われる場合もあります。何かよくないことをしたのでしょうか。このコメントは隠さず子どもにフィードバックします。「何がダメだったと思う?」と一緒にふりかえって反省する。

大切なことはキャリア教育の場面や、職場体験で失敗しないことではないんです。逆に失敗することが、本当にいい学びになることもある。

キャリア教育で教員ができることは、子どもたちのワクワクドキドキの枠組みを作ること。あとはその中で失敗したり、成功したり。子どもも教員も面白がってしまえばいいと思うんです。

(キャリア教育を3年間経験 中学教諭)

教員を支援する

民間コーディネーターという存在

キャリア教育への取り組みに戸惑いを感じる教員が多いワケ

「キャリア教育をやった方がいいことはよくわかっている。いや、やらなくてはいけないこともよくわかっている。でもね……」。

現役のたくさんの方々の教員の方々からそんな言葉をお聞きしています。

「でもね」の後に来るのは、教員の方々の多忙さです。業務が多いだけでなく、保護者への対応など問題も複雑化しています。

そんな時に「キャリア教育も」となれば、意欲がある教員でもそう簡単には手を伸ばせないのではないかと思えます。

経済産業省では全国でキャリア教育を行ってきましたが、三年間続けてこられたのは「民間コーディネーター」という存在が大きかったのではないかと感じています。

たのではないかと自負しています。

教育に理念を持ち

キャリア教育を支援する

民間コーディネーター

民間コーディネーターは教育や町おこしなどに自分たちなりの理念を持ち、学校のキャリア教育を支援しています。その情熱に大きな違いはないと思います。しかし民間コーディネーターと学校側の関わり方はさまざまです。

学校や教育委員会から要望された内容に従い、コーディネーターがカリキュラム開発をしたところもあります。キャリア教育に取り組んだことがない学校に対し、コーディネーターが「キャリア教育」というものについてお話しするところから始めたところもあります。膝詰めで教員とコーディネーターが何度も話し合いながら、いい関係

係を築いていきました。

また人やモノの手配や、事務手続きの支援も、コーディネーターの大きな役割でした。

外部講師を選び、交渉し、キャリア教育の理念に共感していただき、学習の中での役割を理解していただく。あるいは、ものづくり体験で、事前にモノを準備したり会場を整えておく。販売体験のために場所を探して交渉したり、雨天のために TENT を張ったり。子どもたちが手作りしたチラシを大量に印刷しておいたり。

あるいは年間を通じてキャリア教育に関わることができ存在として子どもたちの中間制作物に対して、あえて辛口のコメントを発する大人という立場をとったところもあるようです。担任教員が子どもたちを励まし、コーディネーターが厳しくする。あるいはその逆の

役割を分担することを事前に打ち合わせておき、教育効果を上げた学校もあります。

学校によって要望は違ったようです。大きな枠組みから小さな事務的な準備まで、学校側が難しいと感じられる部分を担当し、キャリア教育を実現させていくのが民間コーディネーターなのです。



こんな人たちが民間コーディネーター および支援者としてキャリア教育に参加

「地域の将来を担う人材育成」を目的として作られたNPO法人が参加。



NPO法人

多くの若者に出会ってきた人材採用関連企業が、いまの若者の現状に危機感を感じて参加。



人材採用関連企業

地元産業の衰退に危機感を感じた商工会議所やNPO法人が、次世代の育成のために参加。



商工会議所・NPO法人

地元の良さや歴史を子どもたちに理解させたい企業ネットワークが参加。



企業ネットワーク

職人育成のための組合が、職人の仕事を通して子どもたちに仕事を理解してもらうために参加。



職人育成組合

キャリア教育に参加した保護者が、授業の意義や面白さを感じて次年度からもサポーターとして参加。



保護者

大学の教育学部が母体のNPO法人が、企業とのキャリア教育を模索して参加。



教育関連のNPO法人

民間コーディネーターはこんな活動をしてきました

3年間のキャリア教育の実践の中で、民間コーディネーターはさまざまな活動を行ってきました。その一部をご紹介します。



協力者を巻き込む

学校の行いたいキャリア教育に協力してくれる企業を探し、キャリア教育の意義について説明するとともに支援を依頼した。

減農薬野菜を販売するため、栽培している農家を探した。販売体験の当日朝、子どもたちが収穫するだけでなく農家の仕事について語ってもらえるようにする。



授業のサポーターや保護者の理解を得るために、地域の大人が参加できる模擬授業を行った。深くキャリア教育に関わることを希望する人には、事前研修を行った。

学校・企業・地域・自治体・教育委員会などを巻き込んだ「キャリア教育協議会」をつくり、事務局となって運営した。

外部講師として活動していきたい人に対して講座を行う仕組みをつくった。



授業をつくる



学校の方針や目的、対象となる子どもたちの様子をヒアリングした上で、学校ごとにカリキュラムを提案。

企業を探すだけでなく、企業の要望と学校の要望を共に聞いた上で、意見を調整してキャリア教育を実施していく。

より学習を深めていくために、既存の「職場見学」などに絡めて新しいプログラムを導入するなどの提案をする。



事前研修として子どもたちが体験するキャリア教育を事前に教員にも体験してもらい理解を深める。

授業の運営に必要な「ワークシート」などを作成し、教員と共に相談しながら、ブラッシュアップさせていく。

授業を運営する

ものづくりの準備のために地域の企業を探し、交渉。準備をスムーズに行えるようにした。

コーディネーター自身の経験や本業を活かして、地域の外部講師として授業を行う。

授業前には、その日の授業について教員と講師とコーディネーターが打ち合わせをし、終了後も同じメンバーで「子どもたちの反応」を出し合って改善点をチェック。次回の授業に活かした。

中間発表（発表会の事前練習）の時、審査員役となり、子ども扱いせず厳しい質問をして突っ込む。子どもたちに評価を与えることで、より深い学習につなぐ。

子どもたちが作った販売体験用のリストを元に、仕入れ先に発注。仕入れ先から商品を受け取り、検品した上で、前日に体育館に搬入。大量の商品を、当日の朝、学生ボランティアと共に販売場所に移動させる。

子どもたちに自分の親や家族の仕事を調べさせ、黒板にふせんではりつけて、その仕事の社会の中での役割や関係性などを解説。さまざまな仕事や業界を知っているコーディネーターだから可能だった。

その他



他地域キャリア教育のコーディネーターと情報交換し、お互いの学習を助け合ったりする。

保護者や地域への認知を広げるためにキャリア教育新聞を作った。

協力企業に対し、授業実施後のお礼や感想を届けるなどのフォローを行った。



キャリア教育を実践する人たちの募集、グループ化してNPO法人を立ち上げた。

地域の取り組みを広げるためにプレスリリースを行った。

カリキュラムが終了した後、どんな成果があったかのアンケートを実施。

第6章 資料編



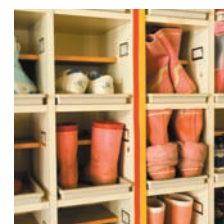
最初のうち何もわからない時に、たたき台となるカリキュラム提供をいただきました。3年間学校でキャリア教育を行ってきたとはいえ、担当の教師は毎年変わります。何かわからないことがあるとすぐコーディネーターの方にお電話してお聞きしていました。また企業の方々とパイプ役になっていただいたり、事務的な業務もずいぶん支えていただきました。教育について情熱を持って語れる方だからさまざまな方々を口説いて連れてこられるのだと思っています。保護者の方でもできなくはないと思うのですが、ただ「学校の代理」的な方では難しいのでは。(小学校教諭)



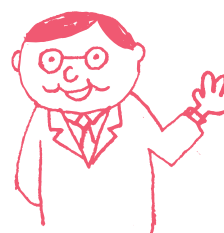
コーディネーターの方がホームページ上に、授業の内容や子どもたちの様子について、率直な感想を書いてくださるのが本当にありがたいです。どうしても自分の授業に対して主観が入りますし、子どもたちの意外な姿が見えたりして、いつも励みにしています。また他の学校の授業の様子も紹介されているので、参考にさせてもらっています。(小学校教諭)



こちらが考える目的に応じて、ものすごい企画力を発揮して、僕たちでは思いつかないプログラムを提案してくれました。またその企画にあわせて大物、社長や編集長を連れてきてくれました。教師の人脈を使っているだけでは、到底こうした人たちは引っ張ってこれなかったでしょう。相手が大物だと教師も覚悟がいりますが、そのメリットはすごく大きい。子どもたちにも緊張感がでてきて、生徒たちの提案の完成度が高くなっていく感じがありました。(中学校教諭)



広く学校外の人材を登用したいとは常々思っていることですが、人材の確保や連絡折衝に膨大な時間がかかるため、なかなか実現できないのが現状でした。今回のキャリア教育ではそうした部分のほとんどをコーディネーターの方々に請け負っていただいたので、我々の負担も少なくて済みました。また、数年来「キャリア教育」についての研修をしなければ…と考えていた折でもあり、今回のキャリア教育で生徒の様々な能力の向上につながったことはもちろんですが、自身の勉強にもなったことを感謝しております。(中学校教諭)



子どもたちは体験的な活動をととても好みます。また、見学に出かけたり、専門的な知識をお持ちの方から教えてもらうことも喜びます。ただ、日程や時間のやりくり、打ち合わせ、交通手段など、計画するまでに時間がかかることも事実で、今までは実行に移せないこともありました。今回、コーディネーターの皆さんが講師の方との交渉や、体験先までの生徒の交通費まで考慮してくださったことで、学習の流れがスムーズでした。理想的な総合的な学習の時間でした。ありがとうございました。(中学校教諭)



学校側から見た
民間コーディネーター

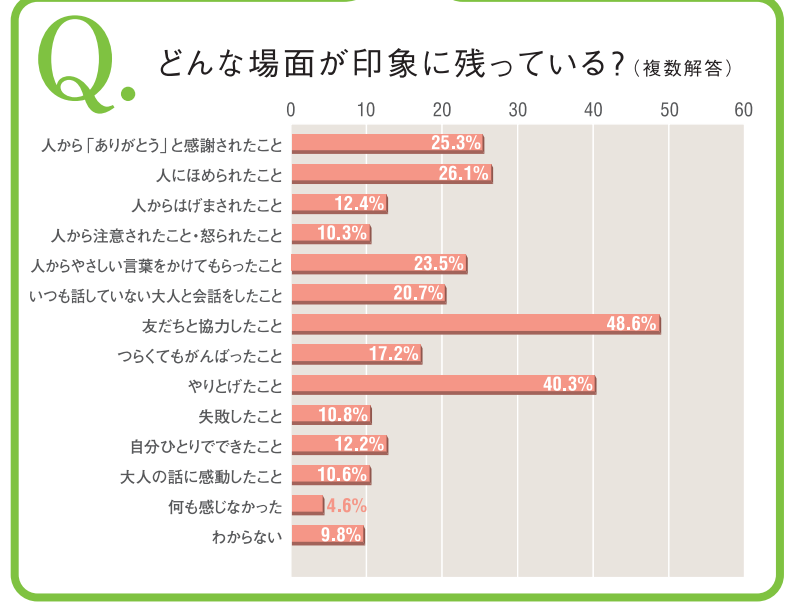
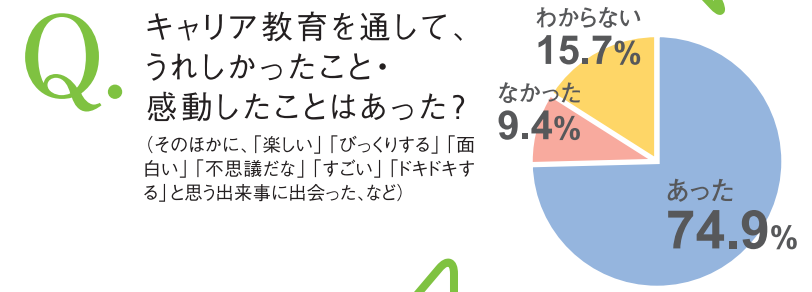
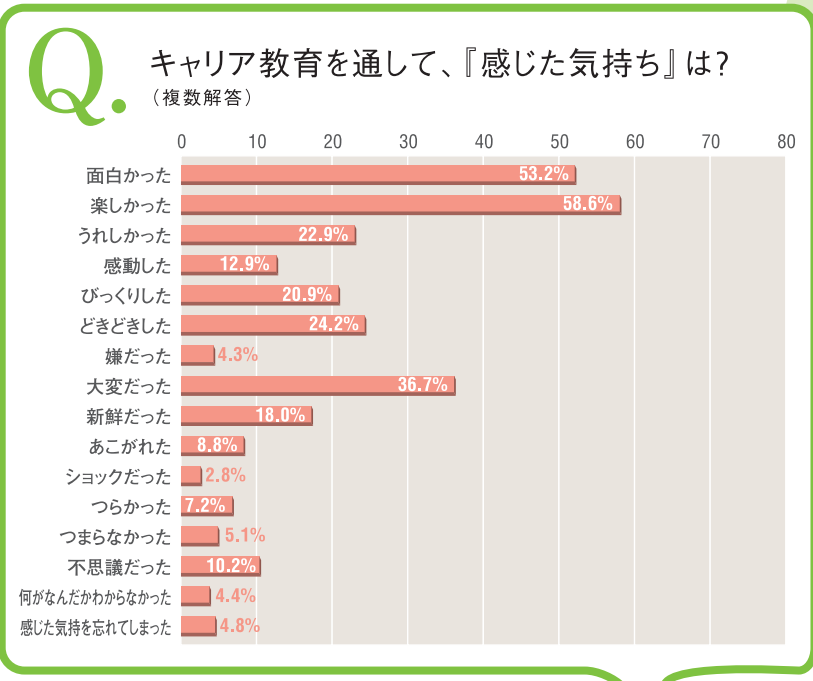
全国二十八地域で実施されたキャリア教育についての意識調査（平成十九年度）

キャリア教育、
どうだった？



生徒アンケート！
集計結果

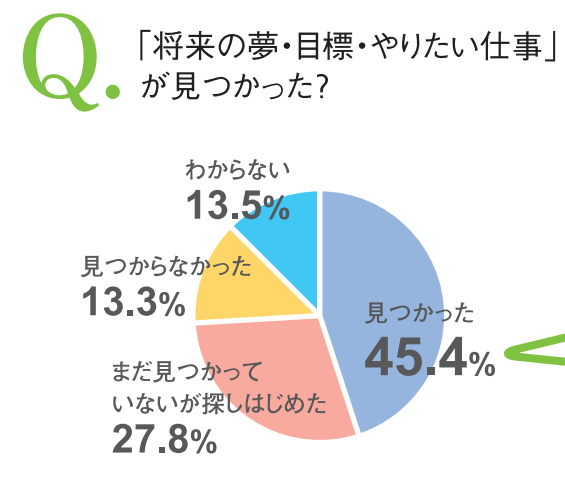
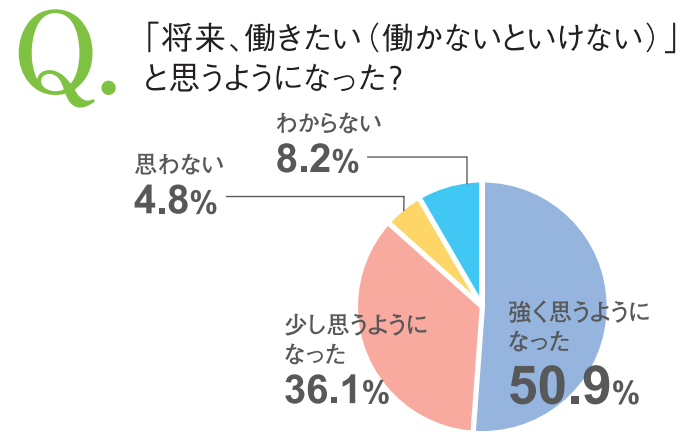
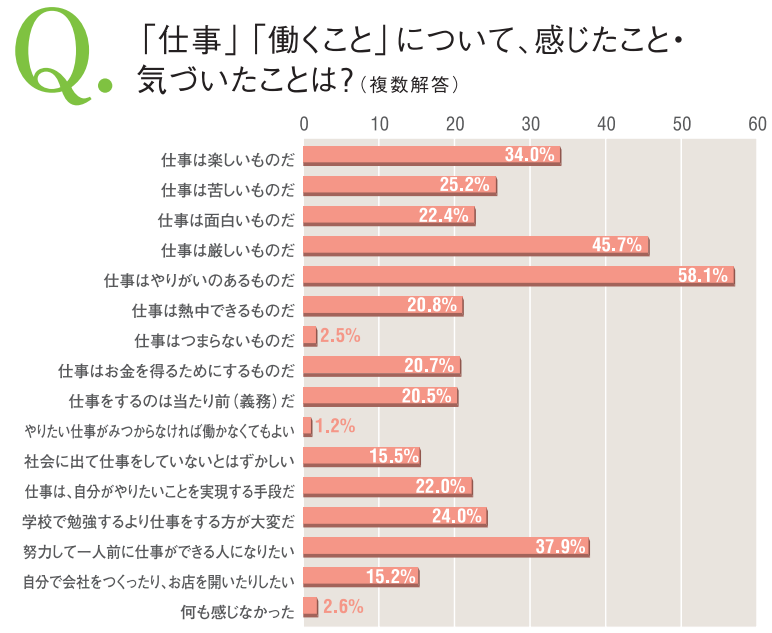
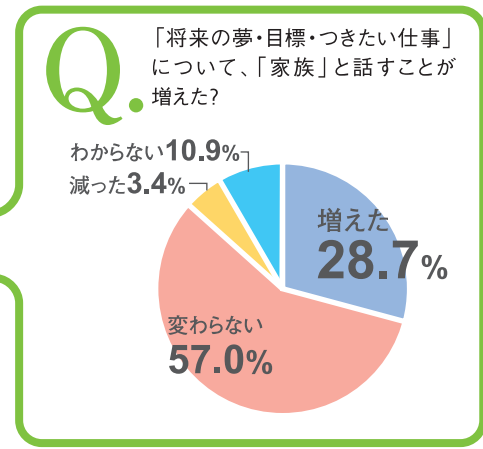
対象
小学校・中学校・
高等学校の
児童・生徒
合計18,675名



キャリア教育を通して、「うれしかったこと・感動したこと」が『あった』と答えた児童・生徒は全体の約四分の三。なかでも、「友だちと協力したこと」や「やりとげたこと」、「人にほめられたこと」、「人から『ありがとう』と感謝されたこと」などが印象に残っているようで、「楽しかった」「面白かった」「大変だった」という感想が多くみられた。

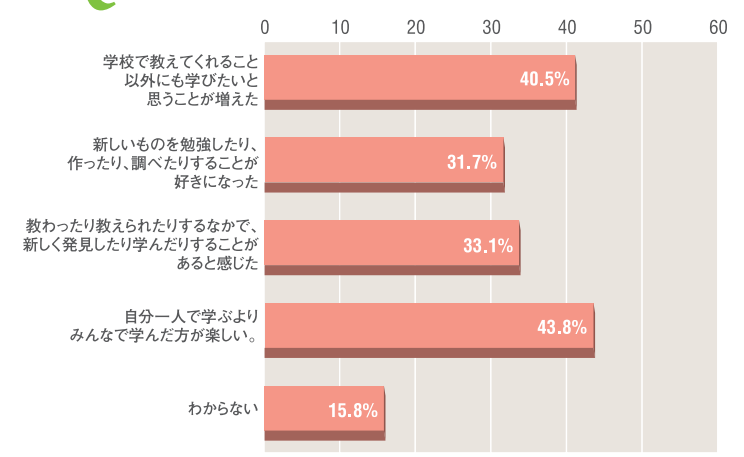
「仕事」「働くこと」
「将来」への気づき

地域の大人と会話をし、産業や歴史・文化を知り、仕事の現場を体感する。「仕事はやりがいのあるもの」と理解する一方で、「仕事は厳しいもの」ともとらえている結果から、子どもたちが「仕事とは？」「働くとは？」の本質をからだで感じ取っている様子がうかがえる。キャリア教育を通して「将来働きたいと思うようになった」「将来の夢が見つかった」という回答が多数得られたことは、キャリア教育の成果のひとつといえよう。

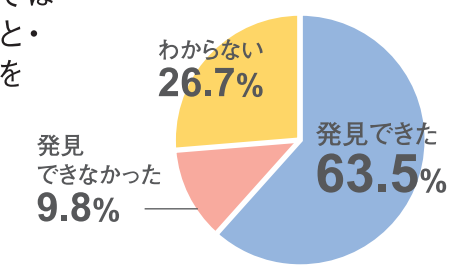


「学び」「学習と社会のつながり」への気づき

Q. 「学ぶこと」について、感じたことは？（複数解答）



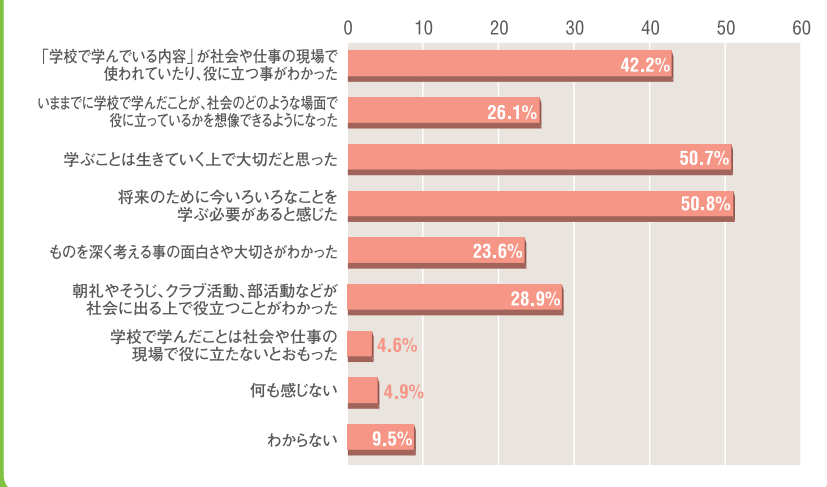
Q. 教科の勉強だけではわからなかったこと・知らなかったことを『発見』できた？



「教科の勉強だけではわからなかった・知らなかったこと」を『発見できた』と回答した児童・生徒は過半数を超えた。「学ぶことは生きていく上で大切だと思った」「将来のために、今いろいろなることを学ぶ必要があると

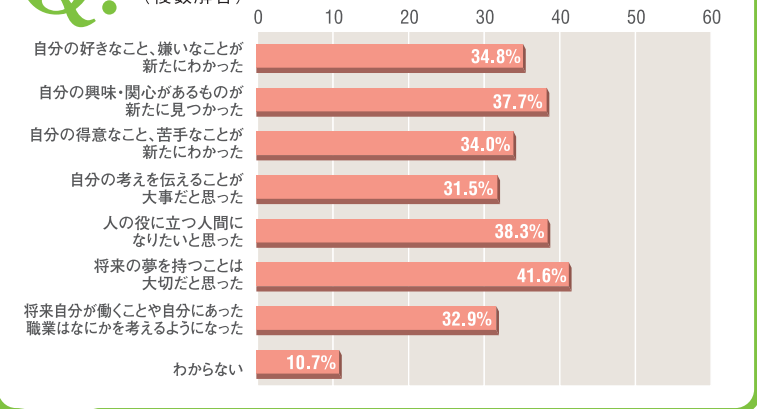
感じた」「学校で学んでいる内容が社会や仕事の現場で使われていたり、役に立つことがわかった」など、キャリア教育を通して「学びの大切さ」を実感した子どもも比較的多かったようだ。

Q. 「学校での学習と社会（よのなか）のつながり」について、感じたこと・気づいたことは？（複数解答）

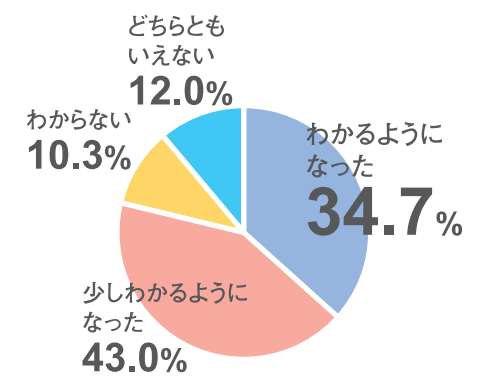


「自分」「他者」への気づき

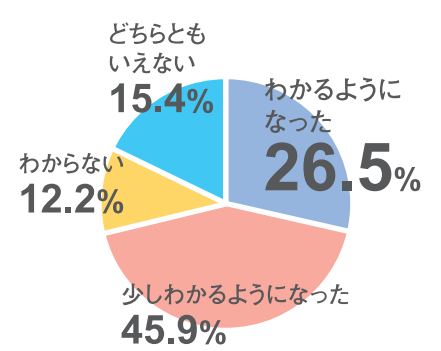
Q. 「自分」について、感じたこと、気づいたことは？（複数解答）



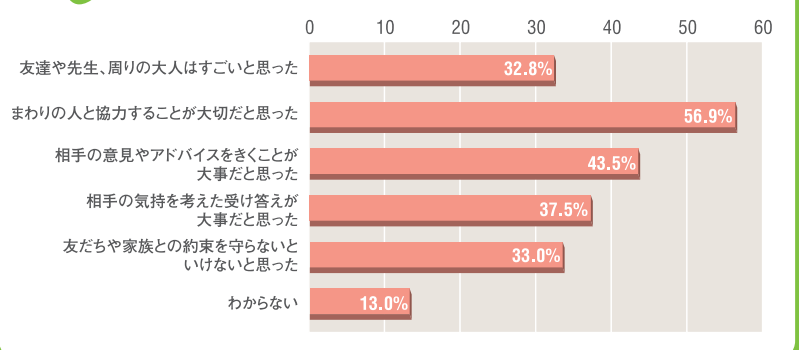
Q. 「自分らしさ」がわかるようになった？



Q. 「他者（友だち・家族・まわりの大人）」の気持ちがより深くわかるようになった？

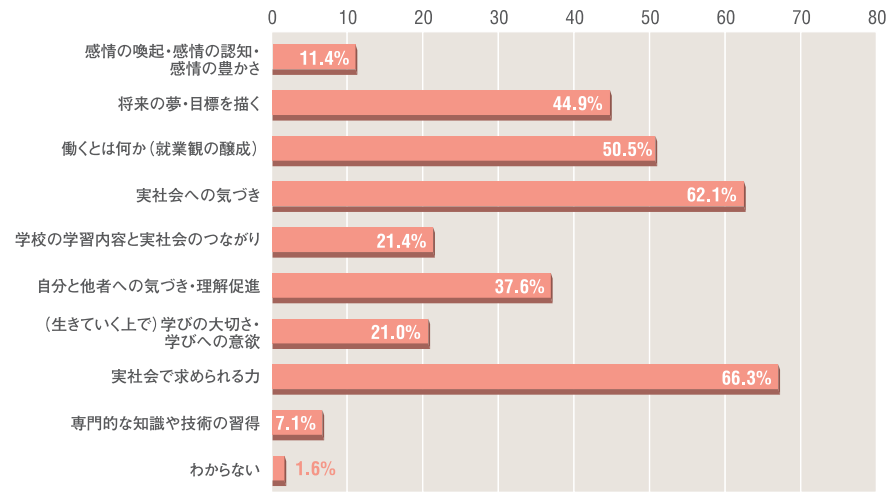


Q. 「他者」について、感じたこと・気づいたことは？（複数解答）



キャリア教育を通して、「自分らしさ」や「他者の気持ち」をより深く理解できた児童・生徒が多かったようだ。「他者」については「まわりの人と協力することが大切だと思った」「相手の意見やアドバイスをきくことが大事だと思った」などの回答が多かった。キャリア教育は自分と他者の理解にも少なからず影響を与えていることがわかる。

Q. 今回のキャリア教育を通して、児童・生徒にどのような力や意識が身についたと感じますか？



教員も変わる!?

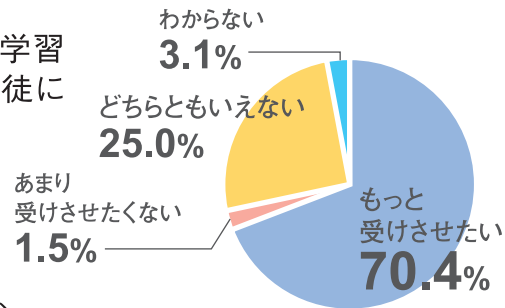


教員アンケート
集計結果

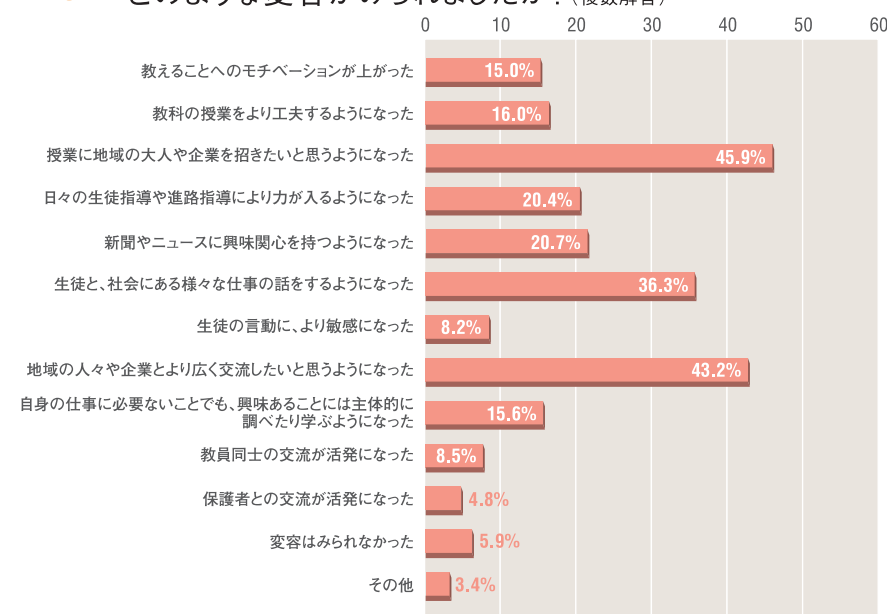
対象

小学校・中学校・高等学校の教員
合計673名

Q. 地域と連携して行う体感型の「総合的な学習の時間」の授業を生徒に受けさせたいですか？

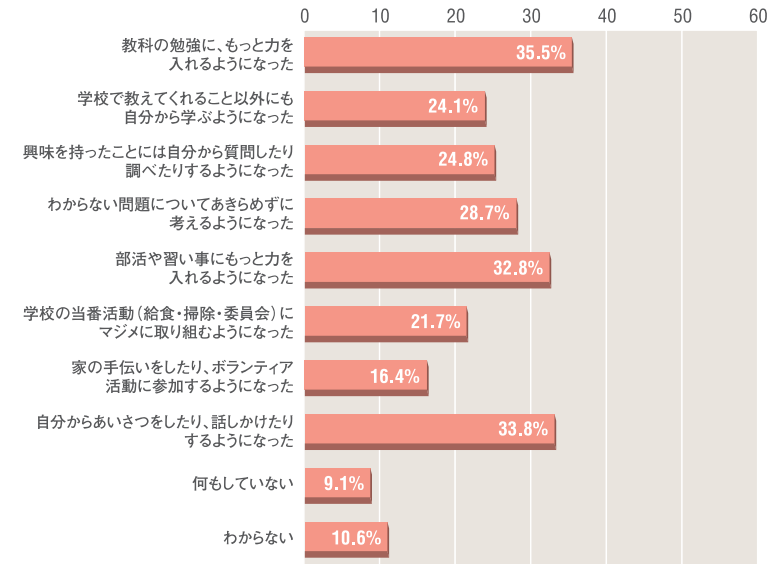


Q. キャリア教育を通して、教員(自身や周りの教員方)にどのような変容がみられましたか？(複数解答)

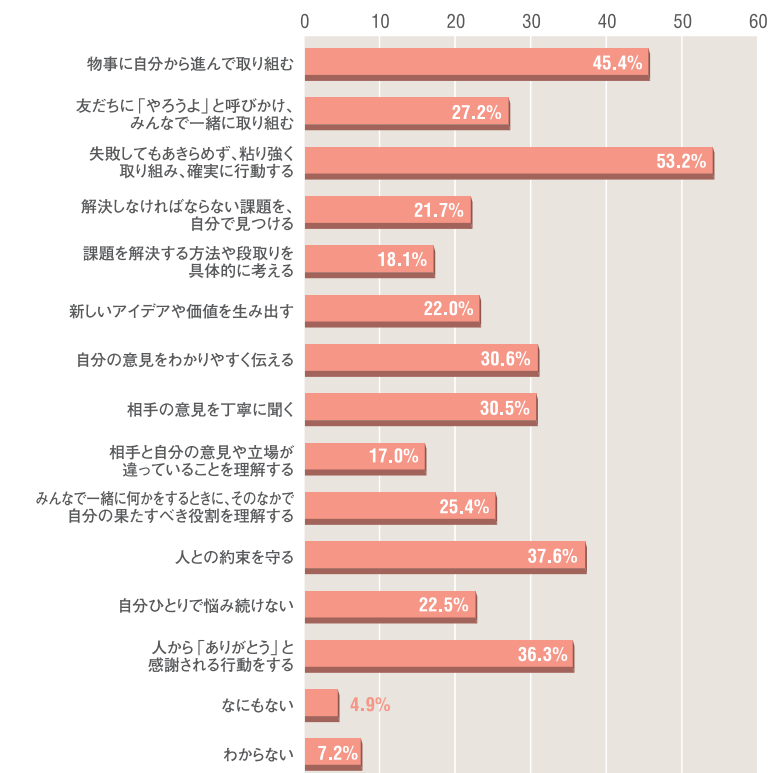


「キャリア教育の成果・効果」として、児童・生徒について「実社会で求められる力」「実社会への気づき」を上げる声が多い一方で、教員自身については、「授業に地域の大人や企業を招きたいと思うようになった」「地域の人々や企業とより広く交流したいと思うようになった」という回答が目立った。

Q. キャリア教育を体験して「心掛けてするようになったこと」は？(複数解答)



Q. キャリア教育を通して、「これからもっと自分が身につけたい」と思ったことは？(複数解答)



行動が変わった!?

キャリア教育を通して、毎日の生活の中での「心掛けてするようになったことが増えた」などの回答が多数みられた。「これからもっと自分が身につけたい」と思ったことについては、社会人基礎力でいう「実行力」「主体性」に関連する回答が多かった。

ふりかえりのアンケート

平成19年度「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」のふりかえりは次のような質問項目で実施されました。
アンケート作成の際の参考にして下さい。

キャリア教育【「生きる」とは?「働く」とは?】についての意識調査 調査のお願い(小学校・児童用)

- ①この調査はテストではありません。【キャリア教育プロジェクト】の学習で、あなたが感じたこと、いま現在していることを答えてください。
- ②質問には、あなたの考えにもっとも近いものや当てはまるものを選んでください。
- ③必ずすべての質問に答えてください。

問1 今回のキャリア教育の授業や活動で、うれしかったこと・感動したことはありましたか。【1つだけ選ぶ】
(そのほかに、「楽しい」「びっくりする」「面白い」「不思議だな」「すごい」「ドキドキする」など)

- 1 あった 2 なかった 3 わからない

問2 どんな場面が印象に残っていますか。
【あてはまるものをすべて選ぶ】

- 1 「ありがとう」と言われたこと 2 ほめられたこと
- 3 はげまされたこと 4 注意されたこと・怒られたこと
- 5 やさしい言葉をかけてもらったこと
- 6 いつも話していない大人と会話をしたこと
- 7 友だちと協力したこと 8 つらくてもがんばったこと
- 9 やりあげたこと 10 失敗したこと
- 11 自分ひとりのできたこと 12 大人の話に感動したこと
- 13 何も感じなかった 14 わからない

問3 『感じた気持ち』は?【あてはまるものをすべて選ぶ】

- 1 面白かった 2 楽しかった 3 うれしかった
- 4 感動した 5 びっくりした 6 どきどきした
- 7 嫌だった 8 大変だった 9 新鮮だった
- 10 あこがれた 11 ショックだった 12 つらかった
- 13 つまらなかった 14 不思議だった
- 15 何がなんだかわからなかった
- 16 感じた気持ちを忘れてしまった

問4 「将来、働きたい(働かないといけない)」と思うようになりましたか。【1つだけ選ぶ】

- 1 とても思うようになった 2 少し思うようになった
- 3 思わない 4 わからない

問5 「仕事」「働くこと」について感じたこと・気づいたことは?【あてはまるものをすべて選ぶ】

- 1 仕事は楽しいものだ 2 仕事は苦しいものだ
- 3 仕事は面白いものだ 4 仕事はきびしいものだ
- 5 仕事はやりがいのあるものだ 6 仕事は熟中できるものだ
- 7 仕事はつまらないものだ 8 仕事はお金を得るためにするものだ
- 9 仕事をするのは当たり前だ
- 10 やりたい仕事が見つからなければ働かなくてもよい
- 11 社会に出て仕事をしていないとはずかしい
- 12 仕事は、自分がやりたいことを達成するための方法だ
- 13 学校で勉強するより仕事をする方が大変だ
- 14 仕事が一人前にできる人になりたい
- 15 自分で会社をつくらったり、お店を開いたりしたい
- 16 何も感じなかった

問6 「将来の夢や目標・つきたい仕事」が見つかりましたか。【1つだけ選ぶ】

- 1 見つかった 2 見つからなかった
- 3 まだ見つからないが、探しはじめた 4 わからない

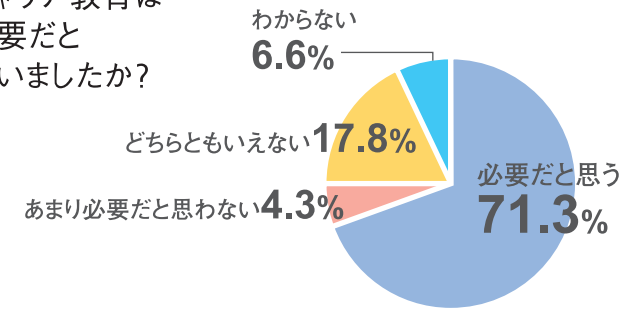
問7 自分の将来の夢・目標やつきたい仕事について、「友だち」と話すことが増えましたか。【1つだけ選ぶ】

- 1 増えた 2 変わらない 3 減った 4 わからない

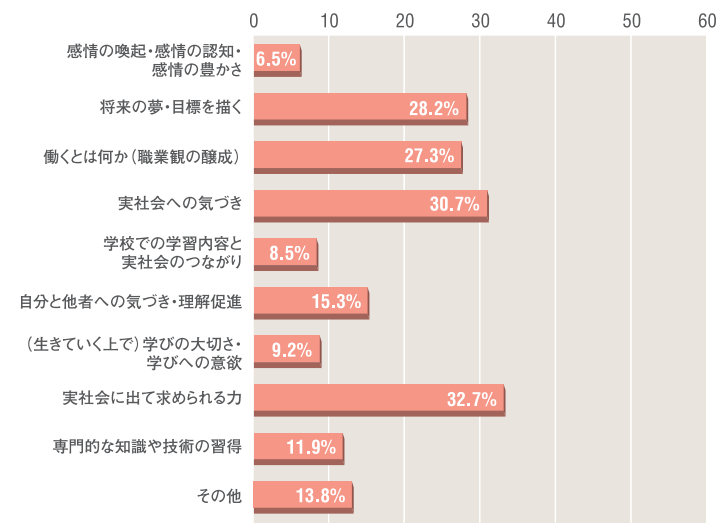
問8 自分の将来の夢・目標やつきたい仕事について、「家族」と話すことが増えましたか。【1つだけ選ぶ】

- 1 増えた 2 変わらない 3 減った 4 わからない

Q. キャリア教育は必要だと
思いましたか?



Q. キャリア教育を通して、
お子様にどのような力や意識が
身についたと感じますか? (複数解答)



キャリア教育 は必要!?

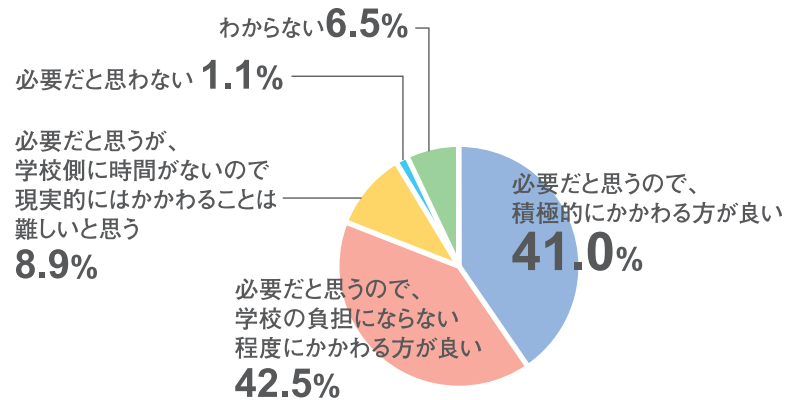


保護者アンケート
集計結果

対象

小学校・中学校・
高等学校の保護者
合計11,521名

Q. 学校が「地域とかかわる」ことについて、
どう感じますか?



「キャリア教育は必要だと思う」と回答した保護者は全体の約7割。キャリア教育は保護者からも幅広い理解と厚い支持を受けているようだ。子どもの変容については「実社会に出て求められる力」「実社会への気づき」「将来の夢・目標を描く」「働くとは何か(就業観の醸成)」などの回答が目立った。

問9 将来の夢にむけて、今から何をしたらいいのかわかるようになりましたか。【1つだけ選ぶ】

- 1 わかるようになり、それをやっている
- 2 わかるようになった
- 3 少しわかるようになった
- 4 あまりわからない
- 5 まったくわからない

問10 国語・算数・理科・社会・音楽・図工・体育などいつもの授業だけではわからなかった・知らなかったことを「発見」できましたか。【1つだけ選ぶ】

- 1 発見できた
- 2 発見できなかった
- 3 わからない

問11 「社会（よのなか）」（いろいろな仕事や自分の住んでいるまちなど）について気づいたこと・感じたことは？【あてはまるものをすべて選ぶ】

- 1 社会にはいろいろな人がいるとわかった
- 2 社会にはたくさんの仕事があると感じた
- 3 社会の仕組みやニュースに興味をもった
- 4 社会には仕事以外にも、ボランティアや住んでいるまちの行事などがあると知った
- 5 家の人の仕事について知りたいと思った
- 6 大人は何のために働くかを考えるようになった
- 7 いま住んでいるまちの歴史や伝統的なものをもっと知りたいと思った
- 8 いろいろな大人ともっと話したいと思った
- 9 いま住んでいるまちが好きだと感じた
- 10 わからない

問12 「学校での学習と社会（よのなか）とのつながり」がわかりましたか。【1つだけ選ぶ】

- 1 よくわかった
- 2 少しわかった
- 3 わからなかった
- 4 どちらでもない

問13 「学校での学習と社会（よのなか）のつながり」について気づいたこと・感じたことは？【あてはまるものをすべて選ぶ】

- 1 「学校で学んでいる内容」が社会（よのなか）や仕事の現場で使われていたり、役に立つことがわかった
- 2 いままで学校で学んだことが、社会のどのような場面で役に立っているかを想像できるようになった
- 3 学ぶことは生きていく上で大切だと思った
- 4 将来のために今いろいろなことを学ぶ必要があると感じた
- 5 ものを深く考えることの面白さや大切さがわかった
- 6 朝礼やそらじ、クラブ活動、部活動などが社会に出る上で役立つことがわかった
- 7 学校で学んだことは社会（よのなか）や仕事の現場で役に立たないと思った
- 8 何も感じない
- 9 わからない

問14 「自分」について、気づいたこと・感じたことは？【あてはまるものをすべて選ぶ】

- 1 自分の好きなこと、嫌いなことが新たにわかった
- 2 自分の興味があるものが新たに見つかった
- 3 自分の得意なこと、苦手なことが新たにわかった
- 4 自分の考えを伝えることが大事だと思った
- 5 人の役に立つ人間になりたいと思った
- 6 将来の夢を持つことは大切だと感じた
- 7 将来、自分がやりたい仕事はなにかを考えるようになった
- 8 わからない

問15 「自分らしさ」（自分の好き・嫌い・得意・苦手・向き・不向きなど）がよりわかるようになりましたか？【1つだけ選ぶ】

- 1 わかるようになった
- 2 少しわかるようになった
- 3 わからない
- 4 どちらともいえない

問16 「友だち、家族、周りの大人」について気づいたこと・感じたことは？【あてはまるものをすべて選ぶ】

- 1 友だちや先生、周りの大人はすごいと思った
- 2 まわりの人と協力することが大切だと思った
- 3 相手の意見やアドバイスをきくことが大事だと思った
- 4 相手の気持ちを考えて話すことが大事だと思った
- 5 友だちや家族との約束を守らないといけないと思った
- 6 わからない

問17 「友だち、家族、まわりの大人」の気持ちがより深くわかるようになりましたか？【1つだけ選ぶ】

- 1 わかるようになった
- 2 少しわかるようになった
- 3 わからない
- 4 どちらともいえない

問18 国語、算数、理科、社会、音楽、図工、体育などいつもの勉強が以前より好きになりましたか。【1つだけ選ぶ】

- 1 好きになった
- 2 以前と変わらない
- 3 好きにならなかった
- 4 わからない

問19 「学ぶこと」について感じたことは？【あてはまるものをすべて選ぶ】

- 1 学校で教えてくれること以外にも、学びたいと思うことが増えた
- 2 新しいものを勉強したり、作ったり、調べたりすることが好きになった
- 3 教わったり教えられたりするなかで、新しく発見したり学んだりすることがあると感じた
- 4 自分一人で学ぶよりみんなで学んだ方が楽しい
- 5 わからない

問20 学校や家での毎日の生活のなかで、「今から取り組もう」と思ったことは？【あてはまるものをすべて選ぶ】

- 1 自分の得意なことを伸ばしたり、苦手なことをなくす努力をする
- 2 興味があるものに取り組む
- 3 すすんで発言したり発表する
- 4 年上の人と話す時はいい言葉づかいをする
- 5 将来の夢にむかって、何かに取り組む
- 6 わからない

問21 これからもっと自分が身につけたいと思ったことは？【あてはまるものをすべて選ぶ】

- 1 どんなことでも自分から進んで取り組む
- 2 友だちに「やろうよ」と呼びかけ、みんなで一緒に取り組む
- 3 失敗してもあきらめずに、最後までとくむ
- 4 困ったことや問題を自分で見つける
- 5 問題を解くための方法や、準備しておくことを具体的に考える
- 6 新しいアイデアや価値をうみ出す
- 7 自分の意見をわかりやすく伝える
- 8 相手の意見をていねいにきく
- 9 相手と自分の意見や立場がちがっていることがわかる
- 10 みんなと一緒に何かをするときに、そのなかで自分が何をしたらいいかわかる
- 11 人との約束を守る
- 12 自分ひとりで悩み続けない
- 13 人から「ありがとう」と感謝される行動をする
- 14 なにもない
- 15 わからない

問22 「自分が社会にでたら必要をされる力」が何か、わかりましたか。【1つだけ選ぶ】

- 1 わかった
- 2 何となくわかった
- 3 わからなかった
- 4 どちらでもない

問23 （一年前と比べて）心掛けてするようになったことは？【あてはまるものをすべて選ぶ】

- 1 国語、算数、理科、社会、音楽、図工、体育などの勉強に、もっと力を入れるようになった
- 2 学校で教えてくれること以外にも、自分から学ぶようになった
- 3 興味をもったことには、自分から質問したり調べたりするようになった
- 4 わからない問題についてあきらめずに考えるようになった
- 5 部活や習いごとにもっと力を入れるようになった
- 6 学校の当番活動（給食・そらじ・委員会）にマジメに取り組むようになった
- 7 家の手伝いをしたり、ボランティア活動に参加するようになった
- 8 自分からあいさつをしたり、話しかけたりするようになった
- 9 何もしていない
- 10 わからない

問24 （一年前と比べて）心掛けてするようになったことや自分から進んでやるようになったことは増えましたか？【1つだけ選ぶ】

- 1 増えた
- 2 増えていない
- 3 増えていないが、これからやりたいと思っている
- 4 わからない

問25 今回のキャリア教育の授業や活動でどのような体験をもっとしたいですか。【1つだけ選ぶ】

- 1 体験したい
- 2 体験したくない
- 3 わからない



(参考)

キャリア教育【「生きる」とは?「働く」とは?】についての意識調査

調査のお願い(保護者用)

- ①この調査はテストではありません。お子様が体験された「キャリア教育」(「生きる」とは?「働くとは?」について、地域の大人や企業と触れ合いながら体験を通して学ぶ教育)を通して、保護者のみなさまが感じたこと・考えたことをありのまま答えてください。
- ②選択肢の中からあなたの考えに最も近いものや当てはまるものを選び、必ずすべての質問に答えてください。

【キャリア教育の目的】

問1 「キャリア教育」とは何か、知っていますか。

- 1 目的・内容を知っていて、協力もしている
- 2 目的・内容を知っている
- 3 名前は聞いたことがあるが、内容は知らない
- 4 あまりよく知らない
- 5 名前も聞いたことがない

【お子様の様子・感想】

問2 今回のキャリア教育の授業や活動を通して、お子様に『情動(感情の動き)の変化』があったと感じますか。

(キャリア教育の授業や活動について、お子様から、「うれしかった」「感動した」「緊張した」「楽しかった」「びっくりした」「面白い」「不思議だな」「すごい」「ドキドキした」などの感想が聞かれましたか?)

- 1 変化があった 2 少し変化があった
- 3 あまり変化はなかった 4 どちらともいえない
- 5 わからない

問3 今回のキャリア教育の授業や活動を通して、お子様が「将来働きたい(働かないといけない)」と思うようになったと感じますか。

- 1 以前よりも、そう思うようになったと感じる
- 2 以前と、あまり変わらない 3 どちらとも言えない
- 4 わからない

問4 今回のキャリア教育の授業や活動を通して、お子様が教科の学習では得られないような新しいことを『発見』できたと思いますか。

- 1 発見できた 2 あまり発見できなかった
- 3 どちらともいえない 4 わからない

問5 今回のキャリア教育の授業や活動を通して、お子様に変化があったと感じますか。

- 1 変化があった 2 あまり変化はなかった
- 3 どちらともいえない 4 わからない

問6 今回のキャリア教育の授業や活動を通して、お子様のご家庭や学校で心掛けてするようになったことはありますか。【あてはまるものをすべて選んでください】

- 1 教科(国語、算数・数学、理科、社会、英語、音楽、図工・美術、技術家庭、保健体育など)の勉強に、もっと力を入れるようになった
- 2 学校で教えてくれること以外にも自分から学ぶようになった
- 3 興味をもったことには自分から質問したり調べたりするようになった
- 4 わからない問題についてあきらめずに考えるようになった
- 5 部活や習い事にもっと力を入れるようになった
- 6 家の手伝いをしたり、ボランティア活動に参加するようになった
- 7 自分からあいさつをしたり、話しかけたりするようになった
- 8 何もしていない 9 わからない

【キャリア教育と教科との関連性】

問7 今回のキャリア教育の授業や活動を通して、お子様が意欲的に取り組むようになった教科があると感じますか。【「総合的な学習の時間」をのぞいて、あてはまるものすべてを選んでください】

- 1 国語 2 社会 3 算数/数学 4 理科 5 音楽
- 6 図工/美術 7 保健体育 8 技術家庭 9 外国語
- 10 特別活動 11 道徳 12 部活動 13 家庭・地域
- 14 特にない 15 わからない

【キャリア教育の成果】

問8 今回のキャリア教育の授業や活動を通して、お子様にどのような力や意識が身についたと感じますか。【あてはまるものをすべて選んでください】

- 1 感情の喚起・感情の認知・感情の豊かさ
- 2 将来の夢・目標を描く
- 3 働くとは何か(職業観の醸成)
- 4 実社会への気づき(社会の出来事や仕組みへの興味関心/様々な職業への興味関心/地域の人々・歴史・産業・文化への興味)
- 5 学校での学習内容と実社会のつながり
- 6 自分と他者への気づき・理解促進(自己理解・個性の発揮/他者理解・他者との関わり)
- 7 (生きていく上で)学びの大切さ・学びへの意欲
- 8 実社会に出て求められる力(社会のマナー・礼儀/自分の意見をしっかり持つ/笑顔・あいさつ/忍耐力・継続力/他者との協力など)
- 9 専門的な知識や技術の習得 10 その他

【地域とのかかわり】

問9 今回のキャリア教育の授業や活動のように、学校(教員やお子様)が「地域とかわる」ことについて、どう感じますか。【あてはまるものをすべて選んでください】

- 1 必要だと思うので、積極的にかかわる方が良い
- 2 必要だと思うので、学校の負担にならない程度にかかわる方が良い
- 3 必要だと思うが、学校側に時間がないので現実的にはかかわることは難しいと思う
- 4 必要だと思わない
- 5 わからない

【「総合的な学習の時間」への要望】

問10 今回実施したような、地域と連携して行う体感型の「総合的な学習の時間」の授業を、お子様にもっと受けさせたいですか。

- 1 もっと受けさせたい
- 2 あまり受けさせたくない
- 3 どちらともいえない 4 わからない

【キャリア教育の必要性】

問11 今回のキャリア教育を通して、キャリア教育は必要だと思いませんか。

- 1 必要だと思う 2 あまり必要だと思わない
- 3 どちらともいえない 4 わからない

問12 キャリア教育を実施するとしたら、どの時期からが適切だと思いますか。

- 1 就学前 2 小学校低学年から 3 小学校高学年から
- 4 中学校から 5 高等学校から
- 6 専門学校・短期大学・大学等から 7 就職後

問13 今回のキャリア教育を通して、お子様と家族の会話は増えましたか。

- 1 増えた 2 変わらない 3 減った 4 わからない



ハリウコミュニケーションズ株式会社

●平成19年度の実施校数
小学校…6校
中学校…2校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

自分を見つめ、自分と周囲の人たちとの関係を作り、その中で自分の居場所を確認し、そして来るべき自分の将来を見つめ、仕事に繋げていくというプロセスを踏んでいます。グループワークやディスカッションをたくさん取り入れ、子どもたちが自ら気づく、多様性を認め合い、良さを引き出し合う双方向型のプログラムです。

■ 活動を振り返って一言

改めて地域人材育成の重要性を再確認した3年間でした。最大の成果は、子どもたちが徐々に変わっていき、積極的に周囲と関わりを持っていくように成長していったことです。こうした取り組みを広げていくために、教育行政に対する政策提言を通じて、教育行政の中に明確に位置づけられたことも大きな収穫でした。

連絡先 ■ 電話番号 / 022-288-5011 (代) ■ 住所 / 宮城県仙台市若林区六丁目西町2-12 ■ HPアドレス / <http://www.zundanet.co.jp>

有限会社つくばインキュベーションラボ

●平成19年度の実施校数
小学校…9校
中学校…3校
高等学校…1校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

小学生には、仕事をしている現場や仕事をしている人の気持ちを知ることによって、中学生には、お客様と対峙することで、必要なことを自分で手練り寄せ、社会の仕組みに気付くプログラムとしました。そのきっかけと記録のためにキャリアパスポートを使い、実際の就職活動の際に使われることを目標にしています。

■ 活動を振り返って一言

子どもは学校の中だけでは育たない。様々な地域の大人がおしごと先生やサポーターとして、キャリア教育を担うことによって、社会の子どもを育む機能が向上することを願っています。大人の責任としてそれが普通になされれば、キャリア教育やニートという言葉自体が取り沙汰されることもなくなるのではないかと思います。

連絡先 ■ 電話番号 / 029-860-5188 ■ 住所 / 茨城県つくば市妻木210-4 ■ HPアドレス / <http://tincl.com/>

株式会社ソシオエンジン・アソシエイツ

●平成19年度の実施校数
中学校…7校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

中学生が職場体験で働く大人と触れ合い、感じたことや、取材して分かったことを1冊のフリーペーパー「job job」にまとめます。プロの編集者やデザイナーと一緒に制作し、近隣の学校や地域、企業に配布します。考えや思いを伝える面白さを体感することができるのと同時に、コミュニケーション能力を身につけることができるプログラムです。

■ 活動を振り返って一言

中学生は「job job」1冊を作る間に、みるみる成長し、持っている力を惜しげもなく発揮し、関わっている大人はいつも驚かされます。「job job」の中には、中学生の思いはもちろん、その後ろで中学生を支えている先生方、職場体験を受け入れてくださった方の思いも詰まっています。ぜひ、たくさんの方に読んでいただきたいです。

連絡先 ■ 電話番号 / 03-5775-7670 ■ 住所 / 東京都港区南青山1-20-15 ROCK1st 3F ■ HPアドレス / <http://www.socioengine.co.jp>

NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構

●平成19年度の実施校数
小学校…6校
中学校…1校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

チームで役割分担してアニメーションを制作し、働くことや仕事について学ぶプログラム。制作を通して、仕事は多くの人に関わって成り立っていること、コミュニケーションを取りながらものごとを進めていくことの難しさや大切さ、そして仕事は大変なことや厳しいこともあるが、その先に喜びや感動があることを学びます。

■ 活動を振り返って一言

「クリエイティブ・キャリア・プログラム」で「やわらかいものづくり」を経験しました。豊かな発想やものを見極める力、表現力や理解力、コミュニケーション力に分野の仕組み…。いろいろな仕事に役立つ要素を経験できたと思います。ギョーカイの皆様へ感謝! これからもみんなの未来を応援します!

連絡先 ■ 電話番号 / 0422-40-0313 ■ 住所 / 東京都三鷹市下連雀3-24-3 三鷹駅前協同ビル301 ■ HPアドレス / <http://www.mitaka-univ.org/>

キャリアバンク 株式会社

●平成19年度の実施校数
小学校…3校
中学校…3校
高等学校…8校
その他今年度はミニプログラムとして中学校21校、高等学校3校を別途支援

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

学校ニーズに応じたきめ細かい支援体制を確立。小中学校では地域や学校の資源を使った「教員主導のプログラム」、高校では「社会人基礎力」向上を目的にした「プロジェクト型体験学習プログラム」を実施。モデル校ごとの活動をHPや広報誌を通して積極的に発信し、学校と地域が連携した取組みとして定着するよう支援した。

■ 活動を振り返って一言

キャリア教育を行う主役は先生。このことを忘れないよう、心がけて来ました。先生が得意なところは先生が、私たちが得意なところ・先生が困っていることは私たちが行うことで相互理解を深めることができました。子ども達だけでなく、私たちを含め全ての関係者が成長することができた3年間だったのでは?皆さまに感謝です!

連絡先 ■ 電話番号 / 011-251-3353 ■ 住所 / 札幌市中央区北5条西5丁目7番地 sapporo55 ■ HPアドレス / <http://sapporo-yumetan.net/>

NPO法人北海道職人義塾大スクール

●平成19年度の実施校数
小学校…6校
中学校…8校
高等学校…1校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

ものづくり異業種職人団体のキャリア教育は様々なものづくりの過程から社会人基礎力の要素を育てることに主眼を置き、一般的には基本的なガイダンス・職業体験・事後学習のセットに加えて、2年目では課題(小樽の特産品の開発)、3年目には(小樽のPRグッズの開発とPRの実践)を与えるなかで問題解決能力やチームで働く力などをより強化できる柔軟なプログラムを提供した。

■ 活動を振り返って一言

「子ども達には、まず働く大人の背中を見せなければならぬ」との信念から始まったキャリア教育でした。ある時は見よう見まね、ある時は様々な方のアドバイスを受けながら職人さん達と一緒に作り上げてきた授業でした。我々にとっても貴重な体験の3年間でしたが我々の話を聞いてくれた子どもの中から本物の職人が生まれる日までキャリア教育の実践は続けていこうと思っています。

連絡先 ■ 電話番号 / 0134-23-7206 ■ 住所 / 北海道小樽市住吉町14番4号 ■ HPアドレス / <http://blog.canpan.info/meister/>

NPO法人未来図書館

●平成19年度の実施校数
小学校…3校
中学校…3校
高等学校…5校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

特定地域に特化せず岩手県全域、複数の市町村にて、NPO、企業など地域のあらゆる方のご支援をいただき小学校から高等学校まで実施。地域から地域へと還元していくプログラムを学校毎のカリキュラムや学校課題、子どもの成長段階、地域特性に応じ、真に実社会で活かすことが出来るキャリア教育の実現を目指し展開しました。

■ 活動を振り返って一言

プログラム展開にあたり、教育界、産業界、行政、学生など様々な立場の人々が岩手でのキャリア教育のあり方を検討してきました。「地域で子どもを育てる」という思いの深い大人達の存在を誇りに感じています。この取り組みが広がっていくことを確信し、今後とも頑張っている大人の姿を子ども達に伝えたいと思います。

連絡先 ■ 電話番号 / 019-654-6601 ■ 住所 / 岩手県盛岡市着町4-20 永卯ビル3階 ■ HPアドレス / <http://www.miraitoshokan.com>

NPO法人ひととくらしとまち大館ネットワーク

●平成19年度の実施校数
小学校…7校8学年
中学校…1校2学年

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

小学生は金融経済学習をベースに、地元で採れたお米や野菜からきりたんぼやお菓子などを製造し、実際の店頭で現金を使って販売、収支計算までを学びキャリアについて考えます。中学生は体験型観光など、地域にある素材を外に売り込むことを考えながら職業について学びます。地域あげての取り組みが大館の特徴です。

■ 活動を振り返って一言

とても充実した3年間でした!何かと大変なこともありましたが、子ども達にも、学校にも、地域にも、皆で元気を共有することが出来たと思います。キャリア教育は地域を元気にすることは間違いなし!

(※下記住所は平成20年4月以降移転予定あり)

連絡先 ■ 住所 / 秋田県大館市字中町16 日専連ビル ■ HPアドレス / <http://www.odate-net.com/>

瀬戸商工会議所

●平成19年度の実施校数
小学校…7校
中学校…8校
(瀬戸市内全校)

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

瀬戸商工会議所は、「せとがまるっとセンセイになるとき」をテーマに、キャリア教育を進めています。瀬戸市教育委員会、NPO法人アスクネットと共に、職場体験や市民講師による職業観を伝える講座、「せともの」製造販売会社の経営プログラムなどのワークショップを実施し、今後の地域社会を担う児童・生徒が健全な人生観、社会観、職業観をもち、それぞれの進路を主体的に決定していく力を育むような環境づくりを進めています。

■ 活動を振り返って一言

授業を受けた子どもたちが10年後、どんなオトナになり、どんな社会になっているか、そこではじめて「成果」はわかるのではないのでしょうか。大切なのは、キャリア教育をキーワードに、集まった人たちと議論し、着実に「改善しつづける」ことではないかと考えています。

連絡先 ■ 電話番号 / 0561-82-3123 ■ 住所 / 愛知県瀬戸市見付町38-2 ■ HPアドレス / <http://setocci.or.jp/>

羽島商工会議所

●平成19年度の実施校数
小学校…9校
中学校…5校
高等学校…1校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

羽島市のキャリア教育は、学校全体の実践としてとらえ、保護者や地域との連携を図りながら、発達段階に応じたキャリア教育を実施するという指針のもとで、次の3項目を柱に授業を実施しました。①職業人から学ぶ(社会人講師授業)、②職場見学・体験・インターンシップの実施、③実際にものをつくる(C言語ロボット制作授業)。

■ 活動を振り返って一言

児童・生徒のために、商工会議所、教育委員会、学校、行政、地元企業、地域団体、PTA、地域住民などが、それぞれの長所を活かし協力しながらキャリア教育を実施することができました。そして、1人1人の協力の積み重ねが、大きな力となって、ここまで、事業実施ができたと思います。

連絡先 ■ 電話番号 / 058-392-9664 ■ 住所 / 岐阜県羽島市竹鼻町2635番地 ■ HPアドレス / <http://www.hashima-cci.or.jp>

社団法人富山県経営者協会

●平成19年度の実施校数
小学校…5校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

「キッズわくわくワーク塾～現代の売薬さんになってみよう」は、富山の伝統産業である「売薬さん(配置薬業)」をテーマに、職業としての企画・生産・パッケージ・販売を体験するプログラムです。外部の専門家を講師としてまねいたり、外部の施設を利用したりすることで、楽しさと深いプロフェッショナリズムを経験できる点がこのプログラムの特徴です。

■ 活動を振り返って一言

昔の子どもを取り巻く環境は、いろんな職業を身近に感じることができる環境でした。その体験が子どもたちの中に、職業に対するイメージを作っていたのではないかと思います。仕事の内容が複雑化し、住環境と職場環境の接点が希薄になる現代、小さい頃からのキャリア教育はますます必要性が高まっているのではないのでしょうか。子どもたちに接するなかで、その思いを強くしました。

連絡先 ■ 電話番号 / 076-421-9588 ■ 住所 / 富山県富山市総曲輪2丁目1番地3号 ■ HPアドレス / <http://www.toyama-keiyogyo.jp/>

財団法人京都高度技術研究所

●平成19年度の実施校数
小学校…4校
中学校…2校
高等学校…1校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

統一テーマ「伝統と先進の共生」のもとで京都の産業特性を打ち出した探究型カリキュラムを実施。「源氏物語千年紀・色と染の1000年物語」(京友禅工場から高機能製版技術企業)「北白川企画室アイデア製品開発」(京都をリードする中小ものづくり企業群)「大原通信社観光企画」(観光産業とマスコミ各社)など約50社の参画で実現。

■ 活動を振り返って一言

先生と産業界の人々が互いのプロ意識を発揮しあえる機会・環境づくりに努めた日々でした。文化の違いがあつてこそ出会いの刺激があり、企画や工夫する智慧が生まれます。最初は戸惑っていた産業界の方も、いまは熱心な支援者。児童生徒の反応に一喜一憂しながら、子ども達に京都の、この国の未来を託すのだという情熱の授業が産業界の協力で広がることを目指します。

連絡先 ■ 電話番号 / 075-315-3625 ■ 住所 / 京都府京都市下京区中堂寺南町134 ■ HPアドレス / <http://www.astem.or.jp/>

NPO法人企業教育研究会

●平成19年度の実施校数
小学校…4校
中学校…4校
高等学校…2校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

千葉県教育庁・千葉県商工労働部と協働して、年間10校で授業を実施。日常の授業に「企業と組み立てる授業」をとりいれ、様々な教科・領域で、働く人の姿を見せる。学習と仕事との関連を学ぶことでキャリア意識と学習意欲の向上を図る。カリキュラムは各学校の先生と千葉大学教育学部を中心とする学生が連携して開発した。

■ 活動を振り返って一言

学校で通常行われている教科の授業と、職業や働く人を結びつける「間接的なキャリア教育」を行いました。全国の先生に参考にしていただけるように「動く指導案」Webなどで内容を公開します。ご協力いただいた連携企業のみならずと各学校の先生方を始め、関わっていただいた皆様にも心より感謝いたします。

連絡先 ■ 電話番号 / 043-308-7229 ■ 住所 / 千葉県千葉市中央区松波2-18-8 新業ビル3F-A ■ HPアドレス / <http://ace-npo.org/>

エプソンインテリジェンス株式会社

●平成19年度の実施校数
小学校…7校
中学校…4校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

学校の授業では、自分のものを作っておりましたが、「ユーザー視点のものづくり」教育は相手を決め、相手の要望を聞いて、工夫し、その相手に使ってもらって感想を聞き、改良していく。これにより多くの工夫が生まれ、丁寧に集中して作り、相手に感謝され制作意欲が増し、相手の立場に立った仕事の進め方が身につきます。

■ 活動を振り返って一言

1年目は小中学校では難しいと反対がありましたが、生徒さんの柔軟性を信じてやってみましょうと説得。2年目は地域のものづくり人材が支援する「サポーター制度」を作り、3年目は新しい教科にする「教育特区」の認定を取り、「ものづくり日本大賞」も受賞し、先生、教育委員会の協力のもと駆け抜けた充実した3年間でした。

連絡先 ■ 電話番号 / 0266-57-4484 ■ 住所 / 長野県諏訪市大和3-3-5 ■ HPアドレス / <http://epson-intelligence.jp/>

NPO法人キャリア・起業家教育学会

●平成19年度の実施校数
小学校…2校
中学校…6校
高等学校…1校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

新たな発見や驚き・感動を与えることを大切にしました。地域企業、経済学を題材にして、多面的・多角的な視点から経済社会を捉えさせ、自分の生き方をより深く問わせました。生徒は、イノベーションや意志決定の重要性について理解しました。また、自らのキャリアデザイン力を高めさせる技法を学び取らせました。

■ 活動を振り返って一言

教育現場で未永く活用して頂ける教材開発を軸にして展開してきました。基本コンセプトは“「未来のヒント」は、長野のイノベーションにある”です。地域の企業の具体から、産業と社会の関わりを捉えさせながら職業観や勤労観、そして経済的な見方や考え方を高めることができる、新たなキャリア教育を提案しました。

連絡先 ■ 電話番号 / 026-223-7063 ■ 住所 / 長野県長野市中御所2-28-12-1 ■ HPアドレス / <http://www.3con.ne.jp/entre/index.htm>

財団法人静岡県生涯学習振興財団

●平成19年度の実施校数
小学校…3校
中学校…4校
高等学校…2校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

①キャリア教育プログラムの開発:「観光」がテーマの小学校の3プログラム・「デザイン」がテーマの中学校の4プログラム・「工業技能」がテーマの工業高等学校の2プログラム
②キャリア教育普及のためのネットワーク構築:学習モデル事例や協力者リストを静岡県の学習資源情報データベース「ふじのくにゆうゆうnet」に登録し、県内の学校が活用できるよう、仕組みを整備した。また、本プロジェクトで得たノウハウを今後のキャリア教育実施に活かすために、事業実施に顕著に尽力した方を「しずおかキャリア教育マスター」に認定。

■ 活動を振り返って一言

キャリア教育は、学習に目的を持たせた有力なツールになり、地域理解・地域活性化の起爆剤になる。ものをつくって販売する、地域活性化の提案をするなど具体的な目的を設定しやすい。また、様々な仕事・様々な大人と接するので、地域理解が一層進む。地域としても、子どもの具体的なアクションに刺激を受けることができる。キャリア教育は、子どもだけでなく、教師も地域の人も変えることのできる「おもしろい教育」でした。

連絡先 ■ 電話番号 / 054-221-3104 ■ 住所 / 静岡県静岡市葵区追手町9-6 (※財団事業は終了のため静岡県教育委員会生涯学習企画課にお問い合わせ下さい)

株式会社キャリアリンク

●平成19年度の実施校数
中学校…5校
高等学校…7校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

「トライやる・ウィーク」をはじめとする地域と学校教育をリンクさせる学習活動を基盤に、実社会の課題をテーマにしたプロジェクト型学習プログラムを開発。さらに、モデル校での実践事例や学習プログラムの体験を通して、教員のキャリア教育への本質的理解と実践力を高めるワークショップ研修会を教育委員会主催により実施。教員研修を核にしたキャリア教育の普及・定着に取り組めました。

■ 活動を振り返って一言

「コーディネーターはフェードアウト前提」で、教員が主体となって地域の資源を活用した独自のプログラムを企画、協力企業との調整、授業実践ができるようサポートしてきました。「21世紀を生きる子どもたちに必要なチカラとは何か?」を合言葉に、産業界と教育界の架け橋となるのが私たちの願いです。ご協力いただいた関係者の皆様、心より感謝申し上げます。

連絡先 ■ 電話番号 / 06-6251-6001 ■ 住所 / 大阪府大阪市中央区東心斎橋1-14-15 アルスビル5F ■ HPアドレス / <http://www.lab-warp.ne.jp>

株式会社ウィル・シード

●平成19年度の実施校数
小学校…27校
中学校…12校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

広島県三次市の教育委員会・地域人材と協業し市内の全小中学校で実施。小学校では地域人材講師によるビジネスゲームを実施。その他、ボードゲーム、職業人インタビューを通じ、社会に出て必要な要素や、自分の強みを考えたりしながら、職業観・勤労観を醸成を図った。中学校では市内200事業所以上が協力し職場体験を実施。

■ 活動を振り返って一言

キャリア教育の取り組みを広島県三次市で継続実施出来るよう、ノウハウの移管、運営組織の設立に向けてトライしました。今回得たノウハウを他の地域でも実践出来るよう、とりまとめを行います。地域講師の方々や先生方、教育委員会の方々ありがとうございました。三次の子どものためになるいい取り組みを続けていきましょう!

連絡先 ■ 電話番号 / 03-3568-6720 ■ 住所 / 東京都港区赤坂2-8-6 国際赤坂ビル別館3F ■ HPアドレス / <http://www.willseed.co.jp/>

NPO法人ベンチャー・アライアンス協会

●平成19年度の実施校数
小学校…3校
高等学校…2校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

小学生対象事業では、「児童に馴染み深い「お菓子の企画を立てよう」をテーマに実施。地域の経営者や高等学校の生徒が授業を行い、児童が企画を立案。現在、児童の企画が商品化されている。高校生対象事業では、「既存の加工品を地域をPRできる商品に」をテーマに実施。高校生が企画した加工品や小学生対象事業で生まれた商品を題材とし、広告宣伝、販売戦略、事業計画などを学び、販売を実践する。

■ 活動を振り返って一言

3年間、大洲を舞台に事業を実施してきたが、特に小学生対象事業において、お菓子の実現を通して地域の人々が地域の子供の夢を叶えるというスタイルを構築できたことが大きかった。今後は学校主体の実施になるため、より地域色溢れたキャリア教育が実施されることを期待している。

連絡先 ■ 電話番号 / 089-968-8400 ■ 住所 / 愛媛県松山市南吉田町2821-4 Biz Port ■ HPアドレス / <http://www.vaa.jp/>

NPO法人男女・子育て環境改善研究所

●平成19年度の実施校数
小学校…3校
中学校…5校
高等学校…1校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

3ヵ年で、取材先を約270ヶ所確保し、取材の申し込みに対応できる体制を作った。生徒は職業ガイドブックづくりの完成をめざし、班で力を合わせ試行錯誤を繰り返し、取材では職場の緊張感、空気、そして、働く人のイキイキとした姿や気持ち、仕事のノウハウを知る。見えにくい職業を知ることができるのが職業体験と違う最大のメリット。

■ 活動を振り返って一言

「一生大切にしたい本になりました。」という生徒達の声全てを物語っている気がします。「文章を書くのが嫌い」という生徒がほとんどという中での挑戦でしたが、取材活動で立体的な取り組みになりました。キャリア教育未開地エリア福岡ですが、3年間で学校と企業をつなぐ成果を必ず子ども達の未来に活かしていきます。

連絡先 ■ 電話番号 / 092-761-4346 ■ 住所 / 福岡県福岡市中央区大名2-11-22 ■ HPアドレス / <http://www.kosodate-npo.jp/>

オフィスメイト株式会社

●平成19年度の実施校数
小学校…6校
中学校…3校
高等学校…2校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

地域の産物や産業を活用し、地域に暮らす児童・生徒たちにこの地の今を知り、将来を考える機会を提供した。小学校では、観光パンフレットの共同作成をし、中学校においては、地域の現状を学習し、課題の発見とそれに対する提言をした。高等学校では、各校で取り組んでいる研究を通じて、将来の地域産業についての提言を実施した。

■ 活動を振り返って一言

自治体、産業界、教育界一緒に力を合わせて取り組むことで期待以上の効果が得られた。児童・生徒・教員の皆さんが、実施する授業は、参加した大人たちにとっても、多くの学びの場となった。地域が一体となってキャリア教育に取り組むことは当該地域での活力を生むこととなり、活性化に繋がるものである。

連絡先 ■ 電話番号 / 0739-22-6037 ■ 住所 / 和歌山県田辺市湊761-3 ■ HPアドレス / <http://www.mates.jp>

NPO法人日本教育開発協会(JAE)

●平成19年度の実施校数
小学校…6校
中学校…7校
高等学校…2校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

「社会」や「未来」とのつながりを実感し、夢を描いてチャレンジする力を育むためのプログラムを、大阪商工会議所・学校・企業・地域・学生等の協力により実施しました。企画体験のあとに、学んだことを各自のこれからの行動につなげるためのドリカムプラン(夢実現に向けての企画書)を作成することが特徴です。

■ 活動を振り返って一言

この3年間は私たちに与った「キャリア教育」でもありません。学校、企業、地域など、それぞれ違うからこそ良いところ・大変なところ、それらを乗り越え、知恵を出し合い、協力しあって、実施規模は約5倍に、そして自立化のめどもつきました。これからも、さらなる展開に向けて全力で取り組んでいきたいと思えます。

連絡先 ■ 電話番号 / 06-6100-3242 ■ 住所 / 大阪府大阪市淀川区木川東4-6-3 新大阪大同ビル4F ■ HPアドレス / <http://www.jae.or.jp>

NPO法人南大阪地域大学コンソーシアム

●平成19年度の実施校数
幼稚園…1園
小学校…7校
中学校…1校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

商品の企画・プレゼンテーションを通して思考力・表現力を学びます。「その商品があれば誰が喜ぶだろう」「だからこんなモノを作ろう」の企画立案をする中で、徹底的に「考え抜き」、プレゼンテーションで考え抜いたことを「伝え切る」ことを目標にしています。このプロセスを通じて社会人としての基礎力を身につけます。

■ 活動を振り返って一言

「働くこと」、「学ぶこと」の接合点を見出す教育=キャリア教育)3年間の実践で、「働いて何だろう?」「何のために学ぶだろう?」という、素朴な疑問に対して、一定の方向性を見出すことができたことを大変嬉しく思っています。理論と実践を行き来しながら取り組めたことは、私たちに与った大きな財産となりました。

連絡先 ■ 電話番号 / 072-258-7646 ■ 住所 / 大阪府堺市北区長曾根町130-42 さいかい新事業創造センター1階 ■ HPアドレス / <http://www.osaka-unicon.org/>

有限会社マイトイ

●平成19年度の実施校数
小学校…3校
中学校…2校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

和泉市役所・和泉市教育委員会・和泉商工会議所・和泉市ものづくりサポートセンター・地域の販売店・和泉市内の企業・保護者の皆様と連携を図りながら12コマの単元に取り組んでいます。地域が学習の場として子ども達は、学校から地域へ飛び出し、失敗を恐れず何度でもチャレンジすることを体験し、自信につながっていきます。

■ 活動を振り返って一言

小中一貫したキャリア教育の実施により、遠い将来の事と思っていた自分の仕事について考え始めます。小学校では、体験を通して自分の得意に気づき、中学校では体験先企業を各自で探し、得意を生かせる職場体験に臨みます。地域が育てるキャリア教育として、長いスパンで考え体験できるプログラムの必要性を実感しました。

連絡先 ■ 電話番号 / 0584-83-1090 ■ 住所 / 岐阜県大垣市林町5丁目18 光和ビル 6F ■ HPアドレス / <http://www.mytoy.co.jp/>

参考文献・出典

- 「初等中等教育と高等教育との接続改善について」(中央審議会 平成11年)
- 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～(平成16年)
- 「若者自立・挑戦プラン」(若者自立・挑戦戦略会議 平成15年)
- 「キャリア教育等推進プランの概要」(キャリア教育等推進会議 平成19年)
- 「就業構造基本調査」(総務省統計局 ～1997年)
- 「労働調査詳細集計」(総務省統計局 2007年～)
- 「労働力調査」(総務省統計局 2007年)
- 「研究開発関連政策が及ぼす経済効果の定量的評価方法に関する調査」(科学技術庁科学技術政策研究所 平成11年)
- 「若年者の就職能力に関する実態調査」(厚生労働省 平成16年)
- 「社会人基礎力中間とりまとめ」(社会人基礎力に関する研究会 平成18年)
- 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)」(国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成14年)
- 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」(文部科学省 平成16年)
- 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(中央教育審議会答申 平成20年)
- 「社会総がかりで教育再生を」～学校、家庭、地域、企業、団体、メディア、行政が一体となって全ての子供のために公教育を再生する～(教育再生会議第三次報告 平成19年)
- 「教育再生に関する意見」～商工会議所は社会総がかりでの教育の中心的な役割を担う～(日本商工会議所 平成19年)
- 「企業行動憲章実行の手引き」(社団法人日本経済団体連合会 平成19年)
- 「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章(内閣府ワーク・ライフ・バランス推進官民トップ会議 平成19年)
- 「OECD生徒の学習到達度調査」～2006年調査国際結果の要約～(文部科学省 平成19年)
- 「教育基本法」(文部科学省 平成18年)
- 「社会貢献活動実態調査」(社団法人日本経済団体連合会 平成17年)

レベルアップ株式会社

●平成19年度の実施校数
小学校…3校
中学校…1校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

小中学校ともに総合学習の時間を使って実施した。市の経済部・教育委員会、商店街における店舗実習受入、菓子メーカーにおけるマナー研修や、近畿大学デザイン科の講義など地域の協力は、多大なものがあった。菓子入門、新商品開発、販促品作り、プレゼンテーションなど、ものづくりに重点をおいた授業を実施した。

■ 活動を振り返って一言

本年度は、3年間のノウハウを活かして、スムーズな授業が行われた。主任教師を中心として、教師間でテキストを読み返し、子供たちにわかりやすく説明する授業も多く、よく工夫されたものになっていた。授業の充実の結果として、成果物やプレゼンにおいて、毎年レベルアップしており、子供達の成長が明確に見えてきている。

連絡先 ■ 電話番号 / 092-985-2643 ■ 住所 / 福岡県福岡市東区和白丘1-21-2-601 ■ HPアドレス / <http://www.level-u.jp/>

NPO法人鳳雛塾

●平成19年度の実施校数
小学校…4校
中学校…3校
高等学校…2校(4コース)

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

佐賀モデルでは、ケースメソッドを用いた実践的な経済・経営教育、販売体験活動、企業への企画提案活動を通して“起業家精神(「生きる力」と「人とながる力」の総和)”旺盛な子どもたちを育成しています。将来の佐賀県を担う人づくりのために、多くの産業界や地域の方々が協力していることも大きな特長となっています。

■ 活動を振り返って一言

この3年間で3,078人の児童・生徒、145人の先生方と約1,300時間を費やしてキャリア教育を実践してきました。協力して頂いた企業・事業所数は延べ700先になります。このひとつひとつのつながりが子どもたちや大人自身の成長につながっていると実感しています。あらためて関わって頂いた皆様に感謝致します。

連絡先 ■ 電話番号 / 0952-28-8959 ■ 住所 / 本社: 佐賀県佐賀市唐人二丁目7番20号(佐賀銀行内) ■ HPアドレス / <http://www.housuu.jp/>
事務所: 佐賀県佐賀市本庄町本庄1番地 佐賀大学産学官連携推進機構3F

有限会社オーシャン・トゥエンティワン

●平成19年度の実施校数
小学校…1校
中学校…15校
高等学校…2校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

「社会でよりよく生きる力を育てる」というキャリア教育の目標は、本来であれば“教育全体”の目標では?という考え方をベースに、学校教育に何を+αすればその目標が達成されるのかを考えました。その結果生まれた『なんで科』と『ストーリーテリング』という手法を盛り込めば、授業も行事も生活指導も、すべてがキャリア教育に变身します。

■ 活動を振り返って一言

多くの先生方に感謝、学校に感謝。企業の皆様に感謝、地域の皆様に感謝。同じ気持ちで共有できた全国のコーディネーターの皆様に感謝。そして何より、思い切って「教育」という分野に踏み込んだ経済産業省に感謝です。いろいろな大人が、それぞれの立場で「子どもの未来」を考える、みんなが教育に参加する、社会全体が教育の場。教育って…こうでなくちゃ!

連絡先 ■ 電話番号 / 098-859-8742 ■ 住所 / 沖縄県那覇市小禄1831-1 沖縄産業支援センター4F ■ HPアドレス / <http://www.ocean-21.co.jp/>

NPO法人金融知力普及協会

●平成19年度の実施校数
小学校10校
中学校5校
高等学校1校

■ 実践した取組(カリキュラム)の概要・特長

小学校は「金融・コールセンター編」「農業・ものづくり・販売編」「観光編」の3つのコースの選択制、中学校では学校で実施する職場体験と総めキャリアデザインを描くカリキュラム、高校では専門知識を活かし進学・就職に役立つカリキュラムとなっています。

■ 活動を振り返って一言

行政や学校関係者、地元企業、地域の方々のネットワークが最も重要なこと。児童・生徒からは「自分のやりたい仕事が見つかった」、先生方からは「将来の職業選択や学習への意欲に繋がった」との高い評価を受け、今後さらにキャリア教育普及に取り組みたい。

連絡先 ■ 電話番号 / 0980-54-3215 ■ 住所 / 名護事務所: 沖縄県名護市港2-1-1 名護市中央公民館2階 ■ HPアドレス / <http://www.yanbaru-yume.com/>

【発行・編集】
経済産業省

【制作】
平成19年度地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト
中核コーディネーター NPO法人アスクネット
TEL(052)881-4349
<http://www.ask-net.jp/>

【編集協力】
株式会社ジオコス
<http://www.jyocos.co.jp/>

